

カスタム プロパティのリファ レンス

vRealize Automation 7.2

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-002291-02

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2008–2017 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

カスタム プロパティのリファレンス	5
更新情報	7
1 カスタム プロパティの使用	9
カスタム プロパティの追加	9
マシン プロビジョニングにおけるプロパティの使用	10
カスタム プロパティの優先順位について	10
カスタム プロパティのタイプ	12
2 機能別にグループ化されたカスタム プロパティ	13
ブループリントと展開用のカスタム プロパティ	15
展開の名前の表示と分析のためのカスタム プロパティ	16
Openstack エンドポイント用のカスタム プロパティ	17
クローン ブループリント用カスタム プロパティ	18
リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ	21
FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ	24
基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ	26
Linux キックスタート ブループリントのカスタム プロパティ	27
SCCM ブループリントのカスタム プロパティ	28
WIM ブループリントのカスタム プロパティ	29
vCloud Air および vCloud Director のブループリントのカスタム プロパティ	32
ネットワークのカスタム プロパティ	35
PXE プロビジョニングのカスタム プロパティ	41
vRealize Automation ゲスト エージェントのカスタム プロパティ	43
BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のカスタム プロパティ	47
HP Server Automation との連携用のカスタム プロパティ	48
3 名前別にグループ化されたカスタム プロパティ	51
カスタム プロパティ アンダースコア () テーブル	52
カスタム プロパティ A テーブル	53
カスタム プロパティ B テーブル	54
カスタム プロパティ C テーブル	54
カスタム プロパティ E テーブル	56
H で始まるカスタム プロパティの表	58
カスタム プロパティ I テーブル	58
カスタム プロパティ L テーブル	59
カスタム プロパティ M テーブル	60
カスタム プロパティ O テーブル	60
カスタム プロパティ P テーブル	61
カスタム プロパティ R テーブル	62

カスタム プロパティ S テーブル 62

Custom Properties V Table 66

カスタム プロパティ X テーブル 86

4 プロパティ ディクショナリの使用 87

プロパティ定義の使用 87

 カスタム プロパティ定義の作成とテスト 88

 vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成 100

プロパティ グループの使用 105

 プロパティ グループの作成 106

インデックス 107

カスタム プロパティのリファレンス

カスタム プロパティのリファレンス には、VMware vRealize™ Automation を使用するとき使用可能なカスタム プロパティとその使用方法に関する情報が提供されています。

このドキュメントは、VMware vRealize™ Automation のドキュメント ページ (<https://www.vmware.com/support/pubs/vcac-pubs.html>) で入手可能な vRealize Automation の製品ドキュメントと共に参照することを想定しています。

注意 vRealize Automation のすべての特徴と機能がすべてのエディションで使用できるわけではありません。各エディションの機能セットの比較については、<https://www.vmware.com/products/vrealize-automation/> を参照してください。

対象者

この情報は、vRealize Automation の IaaS 管理者、ファブリック管理者、およびビジネス グループ マネージャを対象としています。この内容は、Windows または Linux のシステム管理者としての経験があり、仮想テクノロジーおよび『基盤と概念』に記載されている基本的な概念に詳しい方を対象としています。

VMware の技術ドキュメントの用語集

VMware の技術ドキュメントには、新しい用語などをまとめた用語集があります。当社の技術ドキュメントで使用される用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。

更新情報

このカスタム プロパティのリファレンスは、製品リリース時に、または必要に応じて更新されます。

カスタム プロパティのリファレンスの更新履歴は次のとおりです。

リビジョン	説明
JA-002291-02	「Custom Properties V Table (P. 66)」 のカスタム プロパティ名 <code>Vrm.DataCenter.Location</code> を修正しました。
JA-002291-01	「Custom Properties V Table (P. 66)」 から <code>VirtualMachine.DiskN.VMwareType</code> カスタム プロパティを削除しました。
JA-002291-00	初期リリース。

カスタム プロパティの使用

vRealize Automation のカスタム プロパティを使用すると、ネットワーク、プラットフォーム、ゲスト エージェントの設定、および他の多くの展開パラメータを設定するために、値を追加したり、既存またはデフォルトの値をオーバーライドしたりできます。

一部のプロパティは、すべてのマシンに指定する必要がある標準設定によって決まります。たとえば、すべてのブループリントにはメモリ値とディスク サイズ値が必要です。ブループリントおよび予約では、追加のプロパティを個別に指定するか、またはプロパティ グループとして指定することができます。プロパティをブループリントまたはプロパティ グループに追加するときには、それを必須プロパティとしてマークすることができます。プロパティが必須に指定されている場合、ユーザーは、マシンを申請するときに、そのプロパティについて以下の例にあるような値を指定する必要があります。

- マシンの割り当てストレージを共有する複数のディスクに関する情報が必要です。
- マシンのローカル グループに追加するユーザーまたはグループに関する情報が必要です。
- マシンのホスト名が必要です。

Windows ゲスト エージェントは、プロビジョニングされたマシンの `%SystemDrive%\VRMGuestAgent\site\workitem.xml` ファイルにプロパティ値を記録します。

Linux ゲスト エージェントは、プロビジョニングされたマシンの `/usr/share/gugent/site/workitem.xml` ファイルにプロパティ値を記録します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [カスタム プロパティの追加 \(P. 9\)](#)
- [マシン プロビジョニングにおけるプロパティの使用 \(P. 10\)](#)
- [カスタム プロパティの優先順位について \(P. 10\)](#)

カスタム プロパティの追加

カスタム プロパティを使用して、マシン プロビジョニングを制御できます。ブループリント全体、ブループリント内のコンポーネント、および予約にプロパティとプロパティ グループを追加できます。他の vRealize Automation アイテムにカスタム プロパティを追加することもできます (エンドポイント タイプなど)。

ブループリントの作成時、またはブループリントがドラフトまたは公開済みの状態の場合、プロパティとプロパティ グループを追加できます。カスタム プロパティとプロパティ グループは、ブループリントの個々のコンポーネントに追加することもできます。

ブループリント全体に適用されたカスタム プロパティは、コンポーネント レベルで構成されたカスタム プロパティより優先されます。ブループリント レベルのプロパティを編集するには、[ブループリントのプロパティ] ページを使用します。

カスタム プロパティの名前には、大文字と小文字の区別があります。たとえば、`hostname` として表記されるカスタム プロパティと、`HOSTNAME` として表記される別のカスタム プロパティは、異なるカスタム プロパティと見なされます。

カスタム プロパティでは、必要に応じて、ユーザーがマシン申請を作成する際のプロパティ値の指定を必須にできます。プロパティ値は通常、大文字と小文字を区別します。

指定したカスタム プロパティを追加し、独自のプロパティとプロパティ グループを作成および追加することもできます。プロパティとプロパティ グループの作成の詳細については、[第 4 章「プロパティ ディクショナリの使用 \(P. 87\)」](#)を参照してください。

カスタム プロパティの優先順位の詳細については、「[カスタム プロパティの優先順位について \(P. 10\)](#)」を参照してください。

マシン プロビジョニングにおけるプロパティの使用

カスタム プロパティは、vRealize Automation によって提供されるプロパティです。さらに、独自のプロパティを定義することもできます。プロパティは、マシンの属性の指定またはデフォルト仕様のオーバーライドに使用される名前と値のペアです。

カスタム プロパティを使用し、次の例のように、さまざまなプロビジョニング方法、マシン タイプ、マシン オプションを制御できます。

- 特定のタイプのゲスト OS を指定します。
- リファレンス マシンの Windows イメージ ファイル形式 (WIM) イメージを使用して新規マシンをプロビジョニングする場合の WIM ベースのプロビジョニングを有効にします。
- マシン接続時の Remote Desktop Protocol の動作をカスタマイズします。
- 仮想マシンを XenDesktop Desktop Delivery Controller (DDC) サーバに登録します。
- 複数のディスク ドライブの追加など、仮想マシンのシステム仕様をカスタマイズします。
- 選択したローカル グループに指定ユーザーを追加するなど、マシンのゲスト OS をカスタマイズします。
- ネットワークおよびセキュリティの設定を指定します。

ブループリント、予約、または他のフォームにプロパティを追加する場合、プロパティを暗号化するかどうかと、プロビジョニング時に値を指定するようにプロンプト表示する必要があるかどうかを指定できます。これらのオプションは、プロビジョニング時にはオーバーライドできません。

ブループリントで指定されたプロパティが、プロパティ グループで指定された同一のプロパティをオーバーライドします。これにより、プロパティ グループのプロパティの多くを使用しながら、異なるプロパティのみをブループリントで設定できます。たとえば、標準的な開発者ワークステーション プロパティ グループが組み込まれたブループリントで、グループの英語 (米国) 設定を英語 (英国) 設定にオーバーライドします。

予約およびビジネス グループ内のプロパティを多くのマシンに適用できます。通常、その用途は、リソース管理などのソースに関連する目的に限定されます。プロビジョニングされるマシンの特性の指定は、一般にブループリントとプロパティ グループにプロパティを追加することによって行います。

カスタム プロパティの優先順位について

適切な権限が与えられたユーザーは、ブループリント、エンドポイント、ビジネス グループ、および予約のカスタム プロパティを指定できます。複数のソース内に同じプロパティが存在する場合、vRealize Automation は、一定の優先順位に従って、マシンにプロパティを適用します。

プロビジョニングされたマシンに適用するカスタム プロパティは、次の要素に追加できます。

- 予約：予約からプロビジョニングされるすべてのマシンにカスタム プロパティを適用する。
- ビジネス グループ：ビジネス グループメンバーによってプロビジョニングされるすべてのマシンにカスタム プロパティを適用する。
- ブループリント：ブループリントからプロビジョニングされるすべてのマシンにカスタム プロパティを適用する。

- プロパティ グループ：ブループリントに設定可能。ブループリントからプロビジョニングされるすべてのマシンに、グループ内のすべてのカスタム プロパティを適用する。
ブループリントには、1 つ以上のプロパティ グループが含まれます。
- マシン申請：プロビジョニングされるマシンにカスタム プロパティを適用する。
- 承認ポリシー（高度な承認サポートが有効な場合）：承認するマシンの値を提供するように承認者に要求する。

次のリストに、カスタム プロパティの優先順位を示します。ソースで指定されているプロパティ値は、このリスト内で数字が大きい方が、小さい方より優先されます。

注意 vRealize Automation で指定されたプロパティ名とユーザー定義によるプロパティ名との間で競合が発生する場合、vRealize Automation で指定されたカスタム プロパティ名が優先されます。

- 1 プロパティ グループ
- 2 ブループリント
- 3 ビジネス グループ
- 4 コンピュート リソース
- 5 予約
- 6 エンドポイント
- 7 ランタイム

プロパティ グループ、ブループリント、およびビジネス グループのカスタム プロパティは申請時に割り当てられ、他のコンピュート リソース、予約、およびエンドポイントのプロパティはプロビジョニング時に割り当てられます。

この順序は、次のようにさらに分類されます。

- 1 ブループリント レベル全体でのカスタム プロパティおよびグループ
- 2 コンポーネント レベルでのカスタム プロパティおよびグループ
- 3 ビジネス グループ用のカスタム プロパティ
- 4 コンピュート リソース用のカスタム プロパティ
- 5 予約用のカスタム プロパティ
- 6 エンドポイント用のカスタム プロパティ
- 7 ネストされたブループリント申請レベルでのカスタム プロパティ
- 8 コンポーネント申請レベルでのカスタム プロパティ

ほとんどの場合、ランタイム プロパティは、他のプロパティよりも優先されます。ランタイム プロパティを使用するには、次の条件を満たす必要があります。

- ユーザーにプロンプトを表示するプロパティ オプションが選択されている。これは、ユーザーがマシンのプロビジョニングを申請するときにプロパティの値を指定する必要があることを表します。
- ビジネス グループ マネージャがマシンのプロビジョニングを要求していて、マシン申請の確認ページのカスタム プロパティ リストにプロパティが表示される。

この優先ルールには例外があります。たとえば、**VMware.VirtualCenter.Folder** カスタム プロパティをビジネス グループに追加し、プロパティ値を指定しますが、申請でプロパティを表示するオプションを選択しないとします。さらに、同じカスタム プロパティをブループリントに追加し、申請でプロパティを表示することを指定するとします。指定されたユーザーがカタログからプロビジョニングを申請するとき、プロパティはカタログ申請フォームに表示されません。これは、プロパティは、プロビジョニングの申請時ではなくプロビジョニングが開始された後でのみ入手可能な予約情報に適用されるためです。

カスタム プロパティのタイプ

クローン作成されたマシンで、vRealize Automation の外部およびアップデートされたプロパティ タイプを使用できます。クローン作成されたマシンでは、内部および読み取り専用のプロパティ タイプは使用できません。

次の vRealize Automation カスタム プロパティ タイプを利用できます。

- 内部

指定された値はデータベースのみで保持されます。たとえば、マシン申請を承認したマネージャの電子メール アドレスは **VirtualMachine.Admin.Approver** プロパティに記録されますが、プロパティはマシンに影響しません。

- 読み取り専用

指定された値はマシンに実装されますが、変更できません。たとえば、**VirtualMachine.Admin.UUID** ではマシンの UUID を指定しますが、その UUID は変更できません。

- 外部

仮想化プラットフォームがマシンを作成するとき、またはビルド プロセスの WinPE フェーズ中に、マシンの外部プロパティが決定されます。これらのプロパティを設定するには、プロパティの値をプロキシ エージェントに提供する必要があります。プロキシ エージェントがその値を仮想化プラットフォームまたはゲスト エージェントに渡すと、その値は WinPE フェーズに実装されます。

指定された値はマシンに実装されますが、アップデートされません。たとえばプロパティ

VirtualMachine.Admin.AddOwnerToAdmins が true に設定された場合、マシンの所有者がローカル管理者グループに追加されます。所有者が後でこのグループから削除されても、プロパティは false にアップデートされません。

- 最終アップデート

指定された値はマシンに実装され、データ収集時にアップデートされます。たとえば、マシンのコンピュータリソースが変更されると、プロキシ エージェントによってマシンの **VirtualMachine.Admin.Hostname** プロパティの値がアップデートされます。

内部および読み取り専用プロパティ タイプは、テンプレートで決められる属性を設定します。

vRealize Automation マシン メニューを使用して、読み取り専用プロパティの **VirtualMachine.Admin.AgentID**、**VirtualMachine.Admin.UUID**、および **VirtualMachine.Admin.Name** を除く、予約されたすべてのカスタム プロパティを変更できます。

機能別にグループ化されたカスタム プロパティ

2

カスタム プロパティを使用して、vRealize Automation の追加の制御を提供できます。

ここで示すカスタム プロパティは、機能別にグループ化されています。名前別にグループ化されたカスタム プロパティについては、[第 3 章「名前別にグループ化されたカスタム プロパティ \(P. 51\)」](#)を参照してください。

- [ブループリントと展開用のカスタム プロパティ \(P. 15\)](#)
vRealize Automation では、すべてまたは大半のブループリントおよび展開に通常適用可能な多数のカスタム プロパティが用意されています。vRealize Automation ユーザー インターフェイスでは、カスタム プロパティを使用することなく、これらのプロパティの多くを設定できます。
- [展開の名前の表示と分析のためのカスタム プロパティ \(P. 16\)](#)
プロビジョニングが失敗すると、vRealize Automation はカタログ アイテムに含まれるすべてのリソースをロールバックします。複数のコンポーネントが含まれるデプロイ環境の場合、カスタム プロパティを使用してデフォルト値をオーバーライドし、エラーのデバッグ用の情報を得ることができます。これらのプロパティは、ブループリント全体に適用することをお勧めします。
- [Openstack エンドポイント用のカスタム プロパティ \(P. 17\)](#)
vRealize Automation には、vRealize Automation で Openstack エンドポイントを構成するときに使用できるカスタム プロパティが用意されています。
- [クローン ブループリント用カスタム プロパティ \(P. 18\)](#)
vRealize Automation には、クローン ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。
- [リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ \(P. 21\)](#)
vRealize Automation には、リンク クローン ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。
- [FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 24\)](#)
vRealize Automation には、FlexClone ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。
- [基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 26\)](#)
vRealize Automation には、基本ワークフロー ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。
- [Linux キックスタート ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 27\)](#)
vRealize Automation には、Linux キックスタート ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。
- [SCCM ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 28\)](#)
vRealize Automation には、SCCM ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。
- [WIM ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 29\)](#)
vRealize Automation には、WIM ブループリント用の追加の制御を提供するカスタム プロパティが含まれます。

- [vCloud Air および vCloud Director のブループリントのカスタム プロパティ \(P. 32\)](#)
特定のカスタム プロパティを、ブループリント内の vCloud Air または vCloud Director のマシン コンポーネント定義に追加できます。
- [ネットワークのカスタム プロパティ \(P. 35\)](#)
ネットワークの vRealize Automation カスタム プロパティでは、マシン上の特定のネットワーク デバイスの構成を指定します。
- [PXE プロビジョニングのカスタム プロパティ \(P. 41\)](#)
PXE は、Cisco UCS Manager でサポートされている唯一のプロビジョニング方法です。ネットワーク ブートストラップ プログラムと vRealize Automation カスタム プロパティを併用して、WIM、SCCM、または Linux キックスタート プロビジョニングを開始できます。またカスタム プロパティを使用して、独自の PowerShell スクリプトを呼び出すこともできます。Linux キックスタート プロビジョニングでは、カスタム プロパティは必要ありません。
- [vRealize Automation ゲスト エージェントのカスタム プロパティ \(P. 43\)](#)
vRealize Automation ゲスト エージェントをクローン作成用のテンプレートまたは WinPE にインストールした場合、マシンが完全に展開された後にカスタム プロパティを使用して、プロビジョニングされたマシンのゲスト OS 内でカスタム スクリプトを実行できます。
- [BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のカスタム プロパティ \(P. 47\)](#)
vRealize Automation には、BMC BladeLogic Configuration Manager と連携するために必要なカスタム プロパティがあります。
- [HP Server Automation との連携用のカスタム プロパティ \(P. 48\)](#)
vRealize Automation には、HP Server Automation と連携するために必要なカスタム プロパティがあります。HP Server Automation との連携には、いくつかのカスタム プロパティが必要です。その他のカスタム プロパティは、必要に応じて使用します。

ブループリントと展開用のカスタム プロパティ

vRealize Automation では、すべてまたは大半のブループリントおよび展開に通常適用可能な多数のカスタム プロパティが用意されています。vRealize Automation ユーザー インターフェイスでは、カスタム プロパティを使用することなく、これらのプロパティの多くを設定できます。

表 2-1. ブループリントと展開用のカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>_debug_deployment</code>	<p>展開の部分的な完了が許可される拡張処理を除いて、デフォルトの動作では、個々のリソースのいずれかでプロビジョニングに失敗すると、展開全体が破棄されます。<code>_debug_deployment</code> カスタム プロパティ値を true に設定し、デフォルトの動作をオーバーライドできます。プロビジョニングが失敗した場合は、プロビジョニングできなかったコンポーネントを特定できるように、デバッグ用のカスタム プロパティによってリソースのロールバックが停止されます。エラーが発生したカタログ アイテムのコンポーネントにユーザーはアクセスできないため、このカスタム プロパティは新しいブループリントの開発とテスト期間で使用するのに適しています。ブループリントにカスタム プロパティを適用するには、ブループリントの作成または編集時に [プロパティ] タブを使用して、<code>_debug_deployment</code> を [ブループリント プロパティ] ページに追加します。このプロパティは、複合ブループリントなどの複数のコンポーネントを含むブループリント用であり、スタンドアロンのブループリントに適用された場合は無視されます。<code>_debug_deployment</code> プロパティは、ゲスト エージェントやマシン プロビジョニングのレベルではなく、ソフトウェア プロビジョニングのレベルで使用されます。</p>
<code>_deploymentName</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、<code>_deploymentName</code> の値をカスタム文字列に設定して、展開のカスタム名を指定できます。この展開の複数のインスタンスを単一の申請でプロビジョニングする場合は、カスタム名がプリフィックスになります。ユーザーが展開名を指定できるようにするには、このカスタム プロパティを設定してオーバーライドを許可します。このプロパティの使用には、次の 2 点の注意事項があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ このプロパティは、コンポーネントレベルではなく、ブループリントレベルで追加する必要があります。たとえば、ブループリントを作成または編集する際に、[プロパティ] タブをクリックして、[カスタム プロパティ]-[新規] の順に選択し、<code>_deploymentName</code> プロパティをブループリントに追加します。このプロパティは、マシンやブループリントに含まれる他のコンポーネントに追加しないでください。 ■ このプロパティは、プロパティ グループのメンバーとしてではなく、別個のプロパティとして追加する必要があります。
<code>_number_of_instances</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、単一の申請でユーザーがプロビジョニングできる環境のインスタンス数を指定できます。</p>

展開の名前の表示と分析のためのカスタム プロパティ

プロビジョニングが失敗すると、vRealize Automation はカタログ アイテムに含まれるすべてのリソースをロールバックします。複数のコンポーネントが含まれるデプロイ環境の場合、カスタム プロパティを使用してデフォルト値をオーバーライドし、エラーのデバッグ用の情報を得ることができます。これらのプロパティは、ブループリント全体に適用することをお勧めします。

表 2-2. 展開を分析するためのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>_debug_deployment</code>	<p>展開の部分的な完了が許可される拡張処理を除いて、デフォルトの動作では、個々のリソースのいずれかでプロビジョニングに失敗すると、展開全体が破棄されます。<code>_debug_deployment</code> カスタム プロパティ値を true に設定し、デフォルトの動作をオーバーライドできます。プロビジョニングが失敗した場合は、プロビジョニングできなかったコンポーネントを特定できるように、デバッグ用のカスタム プロパティによってリソースのロールバックが停止されます。エラーが発生したカタログ アイテムのコンポーネントにユーザーはアクセスできないため、このカスタム プロパティは新しいブループリントの開発とテスト期間で使用するのに適しています。</p> <p>ブループリントにカスタム プロパティを適用するには、ブループリントの作成または編集時に [プロパティ] タブを使用して、<code>_debug_deployment</code> を [ブループリント プロパティ] ページに追加します。このプロパティは、複合ブループリントなどの複数のコンポーネントを含むブループリント用であり、スタンドアロンのブループリントに適用された場合は無視されます。</p> <p><code>_debug_deployment</code> プロパティは、ゲスト エージェントやマシン プロビジョニングのレベルではなく、ソフトウェア プロビジョニングのレベルで使用されます。</p>
<code>_deploymentName</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、<code>_deploymentName</code> の値をカスタム文字列に設定して、展開のカスタム名を指定できます。この展開の複数のインスタンスを単一の申請でプロビジョニングする場合は、カスタム名がプリフィックスになります。ユーザーが展開名を指定できるようにするには、このカスタム プロパティを設定してオーバーライドを許可します。このプロパティの使用には、次の 2 点の注意事項があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ このプロパティは、コンポーネントレベルではなく、ブループリントレベルで追加する必要があります。たとえば、ブループリントを作成または編集する際に、[プロパティ] タブをクリックして、[カスタム プロパティ]-[新規] の順に選択し、<code>_deploymentName</code> プロパティをブループリントに追加します。このプロパティは、マシンやブループリントに含まれる他のコンポーネントに追加しないでください。 ■ このプロパティは、プロパティ グループのメンバーとしてではなく、別個のプロパティとして追加する必要があります。

Openstack エンドポイント用のカスタム プロパティ

vRealize Automation には、vRealize Automation で Openstack エンドポイントを構成するときに使用できるカスタム プロパティが用意されています。

表 2-3. Openstack エンドポイント用のカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.ConnectAddress.Regex</code>	<p>Used by a vRealize Automation administrator to define a regular expression to match an IP address for terminal connections, such as an RDP connection. If matched, the IP address is saved under the VirtualMachine.Admin.ConnectAddress custom property. Otherwise, the first available IP address is designated.</p> <p>For example, setting the property value to <code>10.10.0.*</code> allows selection of an IP address from a 10.10.0.* subnet that is assigned to the virtual machine. If the subnet has not been assigned, the property is ignored.</p> <p>This property is available for use with Openstack.</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.AdditionAddress<M></code>	<p>Defines additional <M> IP address allocated for an Openstack instance for network <N>, excluding the IP address set specified by the VirtualMachine.Network<N>.Address property. More addresses are displayed on the Network tab in the Additional Addresses column.</p> <p>This property is used by Openstack machine state data collection. While this property is only data-collected by the OpenStack endpoint, it is not specific to OpenStack and can be used for lifecycle extensibility by other endpoint types. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VMware.Endpoint.Openstack.IdentityProvider.Version</code>	<p>Specifies the version of Openstack Identity provider (Keystone) to use when authenticating an Openstack endpoint. Configure a value of 3 to authenticate with Keystone version 3 OpenStack Identity Provider. If you use any other value, or do not use this custom property, authentication defaults to Keystone version 2.</p>

クローン ブループリント用カスタム プロパティ

vRealize Automation には、クローン ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

表 2-4. クローン ブループリント用カスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy	<p>Specifies the storage reservation policy to use to find storage for disk <N>. Also assigns the named storage reservation policy to a volume. To use this property, substitute the volume number for <N> in the property name and specify a storage reservation policy name as the value. This property is equivalent to the storage reservation policy name specified on the blueprint. Disk numbering must be sequential. This property is valid for all Virtual and vCloud reservations. This property is not valid for Physical, Amazon, or OpenStack reservations.</p>
VirtualMachine.NetworkN.ProfileName	<p>Specifies the name of a network profile from which to assign a static IP address to network device <N> or from which to obtain the range of static IP addresses that can be assigned to network device <N> of a cloned machine, where <N>=0 for the first device, 1 for the second, and so on.</p> <p>When you use the VirtualMachine.NetworkN.ProfileName property, the network profile it points to is used to allocate an IP address. However, the provisioned machine is attached to any network that is selected in the reservation using a round-robin fashion model.</p> <p>Changing this property value after the network is assigned has no effect on the expected IP address values for the designated machines.</p> <p>With WIM-based provisioning for virtual machines, you can use this property to specify a network profile and network interface or you can use the Network section of the Virtual Reservation page. You can also assign the network interface to a virtual network using the VirtualMachine.NetworkN.Name custom property.</p> <p>The following attributes of the network profile are available to enable static IP assignment in a cloning blueprint:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask ■ VirtualMachine.NetworkN.Gateway ■ VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns ■ VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns ■ VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins ■ VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins ■ VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix ■ VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes <p>VirtualMachine.Network<N> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p>

表 2-4. クローン ブループリント用カスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>Linux.ExternalScript.Name</code>	オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲスト エージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定します (例: <code>config.sh</code>)。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。 外部スクリプトを指定する場合は、 <code>Linux.ExternalScript.LocationType</code> プロパティおよび <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用して、その場所も定義する必要があります。
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。 また、 <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用してスクリプトの場所を指定する必要もあります。場所タイプが NFS の場合は、 <code>Linux.ExternalScript.Server</code> プロパティも使用します。
<code>Linux.ExternalScript.Server</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> で指定された Linux 外部カスタマイズ スクリプトが配置される NFS サーバの名前を指定します (例: <code>lab-ad.lab.local</code>)。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカルパスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポートパスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: <code>/scripts/linux/config.sh</code>)。

カスタム プロパティを受け入れ、プロビジョニングされたマシンをカスタマイズするスクリプトを実行するため、管理者がゲスト エージェントをインストールしている場合、カスタム プロパティを使用して、ゲスト エージェントを使用するクローン マシンをさらにカスタマイズできます。

表 2-5. ゲスト エージェントを使用したクローン マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.AllowLogin</code>	Set to True (default) to add the machine owner to the local remote desktop users group, as specified by the <code>VirtualMachine.Admin.Owner</code> property.
<code>VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent</code>	If the guest agent is installed as a service on a template for cloning, set to True on the machine blueprint to enable the guest agent service on machines cloned from that template. When the machine is started, the guest agent service is started. Set to False to disable the guest agent. If set to False, the enhanced clone workflow will not use the guest agent for guest operating system tasks, reducing its functionality to <code>VMwareCloneWorkflow</code> . If not specified or set to anything other than False, the enhanced clone workflow sends work items to the guest agent.
<code>VirtualMachine.DiskN.Active</code>	Set to True (default) to specify that the machine's disk <N> is active. Set to False to specify that the machine's disk <N> is not active.

表 2-5. ゲスト エージェントを使用したクローン マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.DiskN.Size	<p>Defines the size in GB of disk <N>. For example, to give a size of 150 GB to a disk G, define the custom property VirtualMachine.Disk0.Size and enter a value of 150. Disk numbering must be sequential. By default a machine has one disk referred to by VirtualMachine.Disk0.Size, where size is specified by the storage value on the blueprint from which the machine is provisioned. The storage value on the blueprint user interface overwrites the value in the VirtualMachine.Disk0.Size property. The VirtualMachine.Disk0.Size property is not available as a custom property because of its relationship with the storage option on the blueprint. More disks can be added by specifying VirtualMachine.Disk1.Size, VirtualMachine.Disk2.Size and so on. VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage always represents the total of the .DiskN.Size properties plus the VMware.Memory.Reservation size allocation.</p>
VirtualMachine.DiskN.Label	<p>Specifies the label for a machine's disk <N>. The disk label maximum is 32 characters. Disk numbering must be sequential. When used with a guest agent, specifies the label of a machine's disk <N> inside the guest operating system.</p>
VirtualMachine.DiskN.Letter	<p>Specifies the drive letter or mount point of a machine's disk N. The default is C. For example, to specify the letter D for Disk 1, define the custom property as VirtualMachine.Disk1.Letter and enter the value D. Disk numbering must be sequential. When used in conjunction with a guest agent, this value specifies the drive letter or mount point under which an additional disk <N> is mounted by the guest agent in the guest operating system.</p>
VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay	<p>Specifies the time to wait after customization is complete and before starting the guest operating system customization. The value must be in HH:MM:SS format. If the value is not set, the default value is one minute (00:01:00). If you choose not to include this custom property, provisioning can fail if the virtual machine reboots before guest agent work items are completed, causing provisioning to fail.</p>
VirtualMachine.Customize.WaitComplete	<p>Set to True to prevent the provisioning workflow from sending work items to the guest agent until all customizations are complete.</p>
VirtualMachine.SoftwareN.Name	<p>Specifies the descriptive name of a software application <N> or script to install or run during provisioning. This is an optional and information-only property. It serves no real function for the enhanced clone workflow or the guest agent but it is useful for a custom software selection in a user interface or for software use reporting.</p>

表 2-5. ゲスト エージェントを使用したクローン マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath</code>	Specifies the full path to an application's install script. The path must be a valid absolute path as seen by the guest operating system and must include the name of the script filename. You can pass custom property values as parameters to the script by inserting {<CustomPropertyName>} in the path string. For example, if you have a custom property named ActivationKey whose value is 1234, the script path is D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey} . The guest agent runs the command D:\InstallApp.bat -key 1234 . Your script file can then be programmed to accept and use this value.
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ISOName</code>	Specifies the path and filename of the ISO file relative to the datastore root. The format is </folder_name/subfolder_name/file_name>.iso . If a value is not specified, the ISO is not mounted.
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ISOLocation</code>	Specifies the storage path that contains the ISO image file to be used by the application or script. Format the path as it appears on the host reservation, for example netapp-1:it_nfs_1 . If a value is not specified, the ISO is not mounted.

リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ

vRealize Automation には、リンク クローン ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

特定の vRealize Automation カスタム プロパティをリンク クローン ブループリントで使用する必要があります。

表 2-6. リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.Storage</code>	Specifies the datastore on which to place the machine disk <N>, for example DATASTORE01. This property is also used to add a single datastore to a linked clone blueprint. <N> is the index (starting at 0) of the volume to assign. Enter the name of the datastore to assign to the volume. This is the datastore name as it appears in the Storage Path on the Edit Compute Resource page. Disk numbering must be sequential.
<code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy</code>	Specifies the storage reservation policy to use to find storage for disk <N>. Also assigns the named storage reservation policy to a volume. To use this property, substitute the volume number for <N> in the property name and specify a storage reservation policy name as the value. This property is equivalent to the storage reservation policy name specified on the blueprint. Disk numbering must be sequential. This property is valid for all Virtual and vCloud reservations. This property is not valid for Physical, Amazon, or OpenStack reservations.

表 2-6. リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.Size</code>	Defines the size in GB of disk <N>. For example, to give a size of 150 GB to a disk G, define the custom property <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> and enter a value of 150. Disk numbering must be sequential. By default a machine has one disk referred to by <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> , where size is specified by the storage value on the blueprint from which the machine is provisioned. The storage value on the blueprint user interface overwrites the value in the <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> property. The <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> property is not available as a custom property because of its relationship with the storage option on the blueprint. More disks can be added by specifying <code>VirtualMachine.Disk1.Size</code> , <code>VirtualMachine.Disk2.Size</code> and so on. <code>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</code> always represents the total of the <code>.DiskN.Size</code> properties plus the <code>VMware.Memory.Reservation</code> size allocation.
<code>VirtualMachine.DiskN.Label</code>	Specifies the label for a machine's disk <N>. The disk label maximum is 32 characters. Disk numbering must be sequential. When used with a guest agent, specifies the label of a machine's disk <N> inside the guest operating system.
<code>VirtualMachine.DiskN.Letter</code>	Specifies the drive letter or mount point of a machine's disk N. The default is C. For example, to specify the letter D for Disk 1, define the custom property as <code>VirtualMachine.Disk1.Letter</code> and enter the value D. Disk numbering must be sequential. When used in conjunction with a guest agent, this value specifies the drive letter or mount point under which an additional disk <N> is mounted by the guest agent in the guest operating system.
<code>MaximumProvisionedMachines</code>	1 つのマシン スナップショットに対するリンク クローンの最大数を指定します。デフォルトは無制限です。
<code>Linux.ExternalScript.Name</code>	オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲスト エージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定します (例: <code>config.sh</code>)。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。 外部スクリプトを指定する場合は、 <code>Linux.ExternalScript.LocationType</code> プロパティおよび <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用して、その場所も定義する必要があります。
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。 また、 <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用してスクリプトの場所を指定する必要もあります。場所タイプが NFS の場合は、 <code>Linux.ExternalScript.Server</code> プロパティも使用します。
<code>Linux.ExternalScript.Server</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> で指定された Linux 外部カスタマイズ スクリプトが配置される NFS サーバの名前を指定します (例: <code>lab-ad.lab.local</code>)。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカルパスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポートパスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: <code>/scripts/linux/config.sh</code>)。

クローン作成されたマシンをカスタマイズするためにゲスト エージェントをインストールした場合、一部のカスタム プロパティの使用頻度が高まります。

表 2-7. ゲスト エージェントを使用したクローン マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent</code>	If the guest agent is installed as a service on a template for cloning, set to True on the machine blueprint to enable the guest agent service on machines cloned from that template. When the machine is started, the guest agent service is started. Set to False to disable the guest agent. If set to False, the enhanced clone workflow will not use the guest agent for guest operating system tasks, reducing its functionality to VMwareCloneWorkflow . If not specified or set to anything other than False, the enhanced clone workflow sends work items to the guest agent.
<code>VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay</code>	Specifies the time to wait after customization is complete and before starting the guest operating system customization. The value must be in HH:MM:SS format. If the value is not set, the default value is one minute (00:01:00). If you choose not to include this custom property, provisioning can fail if the virtual machine reboots before guest agent work items are completed, causing provisioning to fail.
<code>VirtualMachine.Customize.WaitComplete</code>	Set to True to prevent the provisioning workflow from sending work items to the guest agent until all customizations are complete.
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath</code>	Specifies the full path to an application's install script. The path must be a valid absolute path as seen by the guest operating system and must include the name of the script filename. You can pass custom property values as parameters to the script by inserting {<CustomPropertyName>} in the path string. For example, if you have a custom property named ActivationKey whose value is 1234, the script path is D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey} . The guest agent runs the command D:\InstallApp.bat -key 1234 . Your script file can then be programmed to accept and use this value.

FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、FlexClone ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

表 2-8. FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<p><code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code></p>	<p>Specifies the name of a network profile from which to assign a static IP address to network device <N> or from which to obtain the range of static IP addresses that can be assigned to network device <N> of a cloned machine, where <N>=0 for the first device, 1 for the second, and so on.</p> <p>When you use the <code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code> property, the network profile it points to is used to allocate an IP address. However, the provisioned machine is attached to any network that is selected in the reservation using a round-robin fashion model.</p> <p>Changing this property value after the network is assigned has no effect on the expected IP address values for the designated machines.</p> <p>With WIM-based provisioning for virtual machines, you can use this property to specify a network profile and network interface or you can use the Network section of the Virtual Reservation page. You can also assign the network interface to a virtual network using the <code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code> custom property.</p> <p>The following attributes of the network profile are available to enable static IP assignment in a cloning blueprint:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</code> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p>
<p><code>Linux.ExternalScript.Name</code></p>	<p>オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲスト エージェントが実行するオプションのカスタマイズスクリプトの名前を指定します (例: <code>config.sh</code>)。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。</p> <p>外部スクリプトを指定する場合は、<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code> プロパティおよび <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用し、その場所も定義する必要があります。</p>

表 2-8. FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	Linux.ExternalScript.Name プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。 また、 Linux.ExternalScript.Path プロパティを使用してスクリプトの場所を指定する必要もあります。場所タイプが NFS の場合は、 Linux.ExternalScript.Server プロパティも使用します。
<code>Linux.ExternalScript.Server</code>	Linux.ExternalScript.Name で指定された Linux 外部カスタマイズ スクリプトが配置される NFS サーバの名前を指定します (例: lab-ad.lab.local)。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカルパスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポートパスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: /scripts/linux/config.sh)。

次の「ゲストエージェントを使用した FlexClone マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ」の表では、クローン作成されたマシンをカスタマイズするためにゲストエージェントをインストールしている場合に、最もよく使用されるプロパティについて説明しています。

表 2-9. ゲスト エージェントを使用した FlexClone マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent</code>	If the guest agent is installed as a service on a template for cloning, set to True on the machine blueprint to enable the guest agent service on machines cloned from that template. When the machine is started, the guest agent service is started. Set to False to disable the guest agent. If set to False, the enhanced clone workflow will not use the guest agent for guest operating system tasks, reducing its functionality to VMwareCloneWorkflow . If not specified or set to anything other than False, the enhanced clone workflow sends work items to the guest agent.
<code>VirtualMachine.DiskN.Size</code>	Defines the size in GB of disk <N>. For example, to give a size of 150 GB to a disk G, define the custom property VirtualMachine.Disk0.Size and enter a value of 150. Disk numbering must be sequential. By default a machine has one disk referred to by VirtualMachine.Disk0.Size , where size is specified by the storage value on the blueprint from which the machine is provisioned. The storage value on the blueprint user interface overwrites the value in the VirtualMachine.Disk0.Size property. The VirtualMachine.Disk0.Size property is not available as a custom property because of its relationship with the storage option on the blueprint. More disks can be added by specifying VirtualMachine.Disk1.Size , VirtualMachine.Disk2.Size and so on. VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage always represents the total of the .DiskN.Size properties plus the VMware.Memory.Reservation size allocation.
<code>VirtualMachine.DiskN.Label</code>	Specifies the label for a machine's disk <N>. The disk label maximum is 32 characters. Disk numbering must be sequential. When used with a guest agent, specifies the label of a machine's disk <N> inside the guest operating system.

表 2-9. ゲスト エージェントを使用した FlexClone マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.Letter</code>	Specifies the drive letter or mount point of a machine's disk N. The default is C. For example, to specify the letter D for Disk 1, define the custom property as <code>VirtualMachine.Disk1.Letter</code> and enter the value D. Disk numbering must be sequential. When used in conjunction with a guest agent, this value specifies the drive letter or mount point under which an additional disk <N> is mounted by the guest agent in the guest operating system.
<code>VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay</code>	Specifies the time to wait after customization is complete and before starting the guest operating system customization. The value must be in HH:MM:SS format. If the value is not set, the default value is one minute (00:01:00). If you choose not to include this custom property, provisioning can fail if the virtual machine reboots before guest agent work items are completed, causing provisioning to fail.
<code>VirtualMachine.Customize.WaitComplete</code>	Set to True to prevent the provisioning workflow from sending work items to the guest agent until all customizations are complete.
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath</code>	Specifies the full path to an application's install script. The path must be a valid absolute path as seen by the guest operating system and must include the name of the script filename. You can pass custom property values as parameters to the script by inserting {<CustomPropertyName>} in the path string. For example, if you have a custom property named <code>ActivationKey</code> whose value is 1234, the script path is <code>D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey}</code> . The guest agent runs the command <code>D:\InstallApp.bat -key 1234</code> . Your script file can then be programmed to accept and use this value.

基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、基本ワークフロー ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

表 2-10. 基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.CDRom.Attach</code>	Set to False to provision the machine without a CD-ROM device. The default is True.
<code>VirtualMachine.Admin.ThinProvision</code>	Determines whether thin provisioning is used on ESX compute resources using local or iSCSI storage. Set to True to use thin provisioning. Set to False to use standard provisioning. This property is for virtual provisioning.
<code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy</code>	Specifies the storage reservation policy to use to find storage for disk <N>. Also assigns the named storage reservation policy to a volume. To use this property, substitute the volume number for <N> in the property name and specify a storage reservation policy name as the value. This property is equivalent to the storage reservation policy name specified on the blueprint. Disk numbering must be sequential. This property is valid for all Virtual and vCloud reservations. This property is not valid for Physical, Amazon, or OpenStack reservations.
<code>VirtualMachine.Storage.AllocationType</code>	Stores collected groups to a single datastore. A distributed environment stores disks round-robin style.

表 2-10. 基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Storage.Name</code>	Identifies the storage path on which the machine resides. The default is the value specified in the reservation that was used to provision the machine.
<code>VirtualMachine.Storage.ReserveMemory</code>	Set to True to manage vSwap storage allocation to ensure availability and set allocation in the reservation. vSwap allocation is considered when you create or reconfigure a virtual machine. vSwap allocation checking is only available for vSphere endpoints. 注意 If you do not specify the <code>VirtualMachine.Storage.ReserveMemory</code> custom property when you create or provision the machine from vRealize Automation, swap space availability is not ensured. If you add the property for an already provisioned machine, and the allocated reservation is full, the storage allocated in the reservation might exceed the actual allocated storage.
<code>VMware.Hardware.Version</code>	Specifies the VM hardware version to be used for vSphere settings. Supported values are currently vmx-04, vmx-07, vmx-08, vmx-09 and vmx-10. This property is applicable for VM Create and VM Update workflows and is available only for basic workflow blueprints.

Linux キックスタート ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、Linux キックスタート ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

特定の vRealize Automation カスタム プロパティを、Linux キックスタート ブループリントで使用する必要があります。

表 2-11. Linux キックスタート ブループリントの必須カスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	Specifies the vCenter Server guest operating system version (<code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code>) with which vCenter Server creates the machine. This operating system version must match the operating system version to be installed on the provisioned machine. Administrators can create property groups using one of several property sets, for example, <code>VMware[OS_Version]Properties</code> , that are predefined to include the correct <code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code> values. This property is for virtual provisioning. For related information, see the enumeration type <code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code> in vSphere API/SDK Documentation. For a list of currently accepted values, see the vCenter Server documentation.
<code>Image.ISO.Location</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの場所を指定します (例： http://192.168.2.100/site2/winpe.iso)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。

表 2-11. Linux キックスタート ブループリントの必須カスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
Image.ISO.Name	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの名前を指定します (例: /ISO/Microsoft/WinPE.iso)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
Image.ISO.UserName	CIFS 共有にアクセスするユーザー名を、<username@domain> という形式で指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
Image.ISO.Password	Image.ISO.UserName プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。

オプションのカスタム プロパティも用意されています。

表 2-12. Linux キックスタート ブループリント用のオプションのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.Admin.ThinProvision	Determines whether thin provisioning is used on ESX compute resources using local or iSCSI storage. Set to True to use thin provisioning. Set to False to use standard provisioning. This property is for virtual provisioning.
Machine.SSH	このブループリントからプロビジョニングされた Linux マシンの vRealize Automation の [アイテム] ページにある [SSH を使用して接続] オプションを有効にするには、True に設定します。True に設定して、[RDP または SSH を使用した接続] によるマシン操作をブループリントで有効にした場合、ブループリントからプロビジョニングされるすべての Linux マシンが、[SSH を使用して接続] オプションを資格のあるユーザーに表示します。 [SSH を使用して接続] オプションを使用するには、SSH をサポートするプラグインがブラウザにインストールされている必要があります (たとえば、Mozilla Firefox および Google Chrome 用の FireSSH SSH ターミナル クライアント)。プラグインが存在する場合、[SSH を使用して接続] を選択すると、SSH コンソールが開き、管理者の認証情報の入力が必要になります。

SCCM ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、SCCM ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

SCCM ブループリントでは、特定のカスタム プロパティを使用する必要があります。

表 2-13. SCCM ブループリントの必須カスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
Image.ISO.Location	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの場所を指定します (例: <code>http://192.168.2.100/site2/winpe.iso</code>)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
Image.ISO.Name	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの名前を指定します (例: <code>/ISO/Microsoft/WinPE.iso</code>)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
Image.ISO.UserName	CIFS 共有にアクセスするユーザー名を、 <code><username@domain></code> という形式で指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
Image.ISO.Password	Image.ISO.UserName プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
SCCM.Collection.Name	オペレーティングシステムの展開タスク シーケンスが含まれる SCCM コレクションの名前を指定します。
SCCM.Server.Name	このコレクションが存在する SCCM サーバの完全修飾ドメイン名を指定します (例: <code>lab-sccm.lab.local</code>)。
SCCM.Server.SiteCode	SCCM サーバのサイト コードを指定します。
SCCM.Server.UserName	SCCM サーバに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。
SCCM.Server.Password	SCCM.Server.UserName プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。

SCCM ブループリントでは、特定のカスタム プロパティを頻繁に使用します。

表 2-14. SCCM ブループリントによく使用されるカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
SCCM.CustomVariable.<Name>	カスタム変数の値を指定します。<Name> は、プロビジョニングされたマシンが SCCM コレクションに登録された後で SCCM タスク シーケンスが使用できるカスタム変数の名前です。値は、選択するカスタム変数によって決まります。統合で必要になる場合は、 SCCM.RemoveCustomVariablePrefix を使用して、カスタム変数から SCCM.CustomVariable. プリフィックスを削除できます。
SCCM.RemoveCustomVariablePrefix	カスタム プロパティ SCCM.CustomVariable.<Name> を使用して作成した SCCM カスタム変数から SCCM.CustomVariable. プリフィックスを削除するには、<true> に設定します。

WIM ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、WIM ブループリント用の追加の制御を提供するカスタム プロパティが含まれます。

WIM ブループリントには、特定の vRealize Automation カスタム プロパティが必要です。

表 2-15. WIM ブループリントに必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>Image.ISO.Location</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの場所を指定します (例: <code>http://192.168.2.100/site2/winpe.iso</code>)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
<code>Image.ISO.Name</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの名前を指定します (例: <code>/ISO/Microsoft/WinPE.iso</code>)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
<code>Image.ISO.UserName</code>	CIFS 共有にアクセスするユーザー名を、 <code><username@domain></code> という形式で指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<code>Image.ISO.Password</code>	<code>Image.ISO.UserName</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<code>Image.Network.Letter</code>	プロビジョニングされたマシンで WIM イメージパスがマッピングされているドライブを示す文字を指定します。デフォルト値は K です。
<code>Image.WIM.Path</code>	WIM ベースのプロビジョニングでイメージの展開元となる WIM ファイルの UNC パスを指定します。パスの形式は <code>\\<server>\<share\$></code> となります (例: <code>\\Lab-ad\dfs\$</code>)。
<code>Image.WIM.Name</code>	<code>Image.WIM.Path</code> プロパティによって配置された WIM ファイルの名前を指定します (例: <code>win2k8.wim</code>)。
<code>Image.WIM.Index</code>	WIM ファイルから正しいイメージを展開するために使用されるインデックスを指定します。
<code>Image.Network.User</code>	プロビジョニングされたマシン上のネットワーク ドライブに WIM イメージパス (<code>Image.WIM.Path</code>) をマッピングするために使用されるユーザー名を指定します。これは、通常、ネットワーク共有へのアクセス権限があるドメイン アカウントです。
<code>Image.Network.Password</code>	<code>Image.Network.User</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
<code>VirtualMachine.Admin.Owner</code>	Specifies the user name of the machine owner.
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	Specifies the vCenter Server guest operating system version (<code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code>) with which vCenter Server creates the machine. This operating system version must match the operating system version to be installed on the provisioned machine. Administrators can create property groups using one of several property sets, for example, <code>VMware[OS_Version]Properties</code> , that are predefined to include the correct <code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code> values. This property is for virtual provisioning. For related information, see the enumeration type <code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code> in vSphere API/SDK Documentation. For a list of currently accepted values, see the vCenter Server documentation.

WIM ブループリントでは、オプションのカスタム プロパティも使用できます。

表 2-16. WIM ブループリントに共通するカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
SysPrep.<Section.Key> ■ SysPrep.GuiUnattended.AdminPassword ■ SysPrep.GuiUnattended.EncryptedAdminPassword ■ SysPrep.GuiUnattended.TimeZone	<p>プロビジョニングの WinPE ステージで、マシン上の SysPrep 応答ファイルに追加する情報を指定します。SysPrep 応答ファイルすでに存在する情報は、これらのカスタム プロパティで上書きされず。<Section> は、SysPrep 応答ファイルのセクションの名前を表します。たとえば、GuiUnattended や UserData のように指定します。<Key> は、セクション内のキー名を表します。たとえば、プロビジョニングされたマシンのタイムゾーンを西太平洋標準時に設定するには、カスタム プロパティ GuiUnattended.UserData.TimeZone を定義し、値を 275 に設定します。</p> <p>セクション、キー、および指定できる値の詳細な一覧については、System Preparation Utility for Windows のドキュメントを参照してください。</p> <p>次に示す <Section.Key> ペアは、WIM ベース プロビジョニングに対して指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ GuiUnattended <ul style="list-style-type: none"> ■ AdminPassword ■ EncryptedAdminPassword ■ TimeZone ■ UserData <ul style="list-style-type: none"> ■ ProductKey ■ FullName ■ ComputerName ■ OrgName ■ 識別名 <ul style="list-style-type: none"> ■ DomainAdmin ■ DomainAdminPassword ■ JoinDomain ■ JoinWorkgroup
Sysprep.Identification.DomainAdmin	Active Directory のターゲット ドメインに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。vCloud Director または vCloud Air に送信する認証情報にはユーザー ドメインを含めないでください。
Sysprep.Identification.DomainAdminPassword	Sysprep.Identification.DomainAdmin プロパティに関連付けるパスワードを指定します。
Sysprep.Identification.JoinDomain	Active Directory に参加させるドメインの名前を指定します。
Sysprep.Identification.JoinWorkgroup	ドメインを使用しない場合は、参加させるワークグループの名前を指定します。
SysPrep.UserData.ComputerName	マシン名を指定します (例 : lab-client005)。
SysPrep.UserData.FullName	ユーザーの氏名を指定します。
SysPrep.UserData.OrgName	ユーザーの組織名を指定します。
SysPrep.UserData.ProductKey	Windows のプロダクト キーを指定します。
VirtualMachine.Admin.ThinProvision	Determines whether thin provisioning is used on ESX compute resources using local or iSCSI storage. Set to True to use thin provisioning. Set to False to use standard provisioning. This property is for virtual provisioning.

vCloud Air および vCloud Director のブループリントのカスタム プロパティ

特定のカスタム プロパティを、ブループリント内の vCloud Air または vCloud Director のマシン コンポーネント定義に追加できます。

[ネットワーク] または [セキュリティ] タブのないマシン コンポーネントの場合、デザイン キャンパスの [プロパティ] タブに、**VirtualMachine.Network0.Name** などのネットワークおよびセキュリティのカスタム プロパティを追加することができます。NSX ネットワーク、セキュリティ、ロード バランサのプロパティを適用できるのは vSphere マシンだけです。

表 2-17. デザイン キャンパス内の vCloud Air および vCloud Director のマシン コンポーネント用のカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
Sysprep.Identification.DomainAdmin	Active Directory のターゲット ドメインに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。vCloud Director または vCloud Air に送信する認証情報にはユーザー ドメインを含めないでください。
Sysprep.Identification.DomainAdminPassword	Sysprep.Identification.DomainAdmin プロパティに関連付けるパスワードを指定します。
Sysprep.Identification.JoinDomain	Active Directory に参加させるドメインの名前を指定します。
VirtualMachine.DiskN.IsFixed	Disables the editing of a specific disk when reconfiguring a machine. Set to True to disable display of the edit capacity option for a specific volume. The True value is case-sensitive. The <N> value is the 0-based index of the disk. Alternatively, you can set the VirtualMachine.Disk<N>.IsFixed custom property to True in the VirtualMachineProperties table in the database or use the Repository API to specify a URI value such as <code>.../Repository/Data/ManagementModelEntities.svc/VirtualMachines(guid'60D93A8A-F541-4CE0-A6C6-78973AC0F1D2')/VirtualMachineProperties</code> .
VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy	Specifies the storage reservation policy to use to find storage for disk <N>. Also assigns the named storage reservation policy to a volume. To use this property, substitute the volume number for <N> in the property name and specify a storage reservation policy name as the value. This property is equivalent to the storage reservation policy name specified on the blueprint. Disk numbering must be sequential. This property is valid for all Virtual and vCloud reservations. This property is not valid for Physical, Amazon, or OpenStack reservations.
VirtualMachine.EULA.AcceptAll	Set to true to specify that all the EULAs for the VM templates of the vCloud Air or vCloud Director endpoints are accepted during provisioning.

表 2-17. デザイン キャンパス内の vCloud Air および vCloud Director のマシン コンポーネント用のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code>	<p>Specifies the name of the network to connect to, for example the network device <N> to which a machine is attached. This is equivalent to a network interface card (NIC).</p> <p>By default, a network is assigned from the network paths available on the reservation on which the machine is provisioned. Also see <code>VirtualMachine.NetworkN.AddressType</code>.</p> <p>You can ensure that a network device is connected to a specific network by setting the value of this property to the name of a network on an available reservation. For example, if you give properties for N= 0 and 1, you get 2 NICs and their assigned value, provided the network is selected in the associated reservation.</p> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p> <p>You can add this property to a vCloud Air or vCloud Director machine component in a blueprint. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p> <p>詳細については、「ネットワークのカスタム プロパティ (P. 35)」を参照してください。</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.AddressType</code>	<p>Specifies how IP address allocation is supplied to the network provider, where Network<N> is the network number, starting with 0. The following values are available:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DHCP ■ Static ■ MANUAL (available for vCloud Air and vCloud Director only) <p>This property is available for configuring vCloud Air, vCloud Director, and vSphere machine components in the blueprint. Also see <code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code>. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VirtualMachine.Reconfigure.DisableHotCpu</code>	<p>Set to true to specify that the reconfigure machine action restarts the specified machine. By default, the reconfigure machine action does not restart the machine.</p> <p>Performing a hot add of CPU, memory, or storage causes the reconfigure machine action to fail and not to restart the machine unless the Hot Add setting is enabled in vSphere for the machine or template. You can add <code>VirtualMachine.Reconfigure.DisableHotCpu=true</code> to a machine component in a vRealize Automation blueprint to disable the Hot Add setting and force the machine to restart regardless of the vSphere Hot Add setting. The custom property is only available for machine types that support hardware reconfiguration, which are vSphere, vCloud Air, and vCloud Director.</p>

表 2-17. デザイン キャンパス内の vCloud Air および vCloud Director のマシン コンポーネント用のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins	<p>Specifies a threshold integer value for a compute resource such that lease synchronization between vCloud Director and vRealize Automation only occur for vCloud Director or vCloud Air-provisioned machines that are set to expire in vCloud Director or vCloud Air in that time period. If a conflict is found, the lease value is synchronized to match the lease length defined in vRealize Automation. The default VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins value is 720 minutes, which is 12 hours. If VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins is not present, the default value is used. For example, if the default values are used, vRealize Automation runs the lease synchronization check workflow every 45 minutes, which is the workflow default, and only the leases of machines that are set to expire within 12 hours are changed to match the lease length defined in vRealize Automation.</p>
VCloud.Owner.UseEndpointAccount	<p>Set to true to assign the endpoint account as the vCloud Air or vCloud Director machine owner for provisioning and import operations. For change ownership operations, the owner is not changed on the endpoint. If not specified or set to false, the vRealize Automation owner is the machine owner.</p>
VCloud.Template.MakeIdenticalCopy	<p>Set to true to clone an identical copy of the vCloud Air or vCloud Director template for machine provisioning. The machine is provisioned as an identical copy of the template. Settings specified in the template, including storage path, supersede settings specified in the blueprint. The only changes from the template are the names of the cloned machines, which are generated from the machine prefix specified in the blueprint.</p> <p>vCloud Air or vCloud Director machines that are provisioned as identical copies can use networks and storage profiles that are not available in the vRealize Automation reservation. To avoid having unaccounted reservation allocations, verify that the storage profile or network specified in the template is available in the reservation.</p>

表 2-17. デザイン キャンパス内の vCloud Air および vCloud Director のマシン コンポーネント用のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VMware.SCSI.Sharing	Specifies the sharing mode of the machine's VMware SCSI bus. Possible values are based on the VirtualSCSISharing ENUM value and include noSharing, physicalSharing, and virtualSharing. The VMware.SCSI.Sharing property is not available for use with the CloneWorkflow provisioning workflow. If you specify the CloneWorkflow provisioning workflow when configuring your machine component in the blueprint design canvas, you cannot use the VMware.SCSI.Sharing property.
VMware.SCSI.Type	For vCloud Air, vCloud Director, or vSphere machine components in blueprints, specifies the SCSI machine type using one of the following case-sensitive values: <ul style="list-style-type: none"> ■ buslogic Use BusLogic emulation for the virtual disk. ■ lsilogic Use LSILogic emulation for the virtual disk (default). ■ lsilogicsas Use LSILogic SAS 1068 emulation for the virtual disk. ■ pvscsi Use para-virtualization emulation for the virtual disk. ■ none Use if a SCSI controller does not exist for this machine. The VMware.SCSI.Type property is not available for use with the CloneWorkflow provisioning workflow. If you specify the CloneWorkflow provisioning workflow when configuring your machine component in the blueprint design canvas, you cannot use the VMware.SCSI.Type property.

ネットワークのカスタム プロパティ

ネットワークの vRealize Automation カスタム プロパティでは、マシン上の特定のネットワーク デバイスの構成を指定します。

マシンの割り当て中に、ネットワーク割り当てが実行されます。vRealize Automation は、ブループリントからネットワーク情報を取得します。複数のネットワークを割り当てる場合は、マシン ブループリントの **VirtualMachine.NetworkN.Name** カスタム プロパティを使用します。カスタム プロパティを指定しない場合、ラウンド ロビン方式と選択された予約を併用して選ばれた、1 つのネットワークのみが割り当てられます。

注意 次の 3 つのプロパティは例外ですが、テーブル内のプロパティは Amazon Web Services には適用されません。

- agent.download.url
- software.agent.service.url
- software.ebs.url

[ネットワーク] または [セキュリティ] タブのないマシン コンポーネントの場合、デザイン キャンパスの [プロパティ] タブに、**VirtualMachine.Network0.Name** などのネットワークおよびセキュリティのカスタム プロパティを追加することができます。NSX ネットワーク、セキュリティ、ロード バランサのプロパティを適用できるのは vSphere マシンだけです。

注意 オンデマンド ネットワークを示す、ネットワークに固有のカスタム プロパティはサポートされていません。たとえば、オンデマンド NAT およびオンデマンド ルーティング ネットワーク コンポーネントに対して

VirtualMachine.Network0.NetworkProfileName のようなネットワーク カスタム プロパティを使用することはできません。

マシンには、デフォルトで、**VirtualMachine.Network0.Name** プロパティを使用して構成された 1 つのネットワーク デバイスがあります。追加のネットワーク デバイスは、**VirtualMachine.NetworkN.Name** カスタム プロパティを使用して設定します (<N> はネットワーク番号です)。

ネットワーク プロパティの番号は、0 から始まる連番である必要があります。たとえば、**VirtualMachine.Network0** と **VirtualMachine.Network2** にだけカスタム プロパティを指定すると、**VirtualMachine.Network2** のプロパティは無視されます。これは、1 つ前のネットワーク **VirtualMachine.Network1** が指定されなかったためです。

Although general support for VMware vCloud[®] Networking and Security[™] 5.5.x (vCNS) ended in September 2016, the VCNS custom properties continue to be valid for VMware NSX[™] purposes. See the VMware Knowledge Base article End of Availability and End of General Support for VMware vCloud Networking and Security 5.5.x (2144733) at <http://kb.vmware.com/kb/2144733> for more information.

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
agent.download.url	<p>ポート転送を使用する場合は、Amazon AWS トンネル マシンのプライベート IP アドレスおよびソフトウェア エージェント ファイルのポートを指定します (たとえば https://<Private_IP:1443>/software-service/resources/nobel-agent.jar)。</p> <p>このプロパティは、software.agent.service.url および software.ebs.url と組み合わせて、予約またはコンピューティング リソース エンドポイントに追加することができます。また、PAT または NAT、およびポート転送を使用するときに、このプロパティを使用してプライベート アドレスおよびポートを指定することができます。</p>
software.agent.service.url	<p>ポート転送を使用する場合は、Amazon AWS トンネル マシンのプライベート IP アドレスおよび vRealize Automation ソフトウェア サービス API のポートを指定します (たとえば https://<Private_IP:1443>/software-service/api)。</p> <p>このプロパティは、software.ebs.url および agent.download.url と組み合わせて、予約またはコンピューティング リソース エンドポイントに追加することができます。また、PAT または NAT、およびポート転送を使用するときに、このプロパティを使用してプライベート アドレスおよびポートを指定することができます。</p>
software.ebs.url	<p>ポート転送を使用する場合は、Amazon AWS トンネル マシンのプライベート IP アドレスおよび vRealize Automation イベント ブローカ サービスを指定します (たとえば https://<Private_IP:1443>/event-broker-service/api)。</p> <p>このプロパティは、software.agent.service.url および agent.download.url と組み合わせて、予約またはコンピューティング リソース エンドポイントに追加することができます。また、PAT または NAT、およびポート転送を使用するときに、このプロパティを使用してプライベート アドレスおよびポートを指定することができます。</p>

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.NetworkN.Address</code>	<p>Specifies the IP address of network device <N> in a machine provisioned with a static IP address.</p> <p>Amazon については、「<code>Amazon.elasticIpAddress.ipAddress</code>」を参照してください。</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</code>	<p>Indicates whether the MAC address of network device <N> is generated or user-defined (static). This property is available for cloning.</p> <p>The default value is generated. If the value is static, you must also use <code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddress</code> to specify the MAC address.</p> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddress</code>	<p>Specifies the MAC address of a network device <N>. This property is available for cloning.</p> <p>If the value of <code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</code> is generated, this property contains the generated address.</p> <p>If the value of <code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</code> is static, this property specifies the MAC address. For virtual machines provisioned on ESX server hosts, the address must be in the range specified by VMware. For details, see vSphere documentation.</p> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<p><code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code></p>	<p>Specifies the name of the network to connect to, for example the network device <N> to which a machine is attached. This is equivalent to a network interface card (NIC).</p> <p>By default, a network is assigned from the network paths available on the reservation on which the machine is provisioned. Also see VirtualMachine.NetworkN.AddressType.</p> <p>You can ensure that a network device is connected to a specific network by setting the value of this property to the name of a network on an available reservation. For example, if you give properties for N= 0 and 1, you get 2 NICs and their assigned value, provided the network is selected in the associated reservation.</p> <p>VirtualMachine.Network<N> custom properties are specific to blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p> <p>You can add this property to a vCloud Air or vCloud Director machine component in a blueprint. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<p><code>VirtualMachine.NetworkN.PortID</code></p>	<p>Specifies the port ID to use for network device <N> when using a dvPort group with a vSphere distributed switch.</p> <p>VirtualMachine.Network<N> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code>	<p>Specifies the name of a network profile from which to assign a static IP address to network device <N> or from which to obtain the range of static IP addresses that can be assigned to network device <N> of a cloned machine, where <N>=0 for the first device, 1 for the second, and so on.</p> <p>When you use the <code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code> property, the network profile it points to is used to allocate an IP address. However, the provisioned machine is attached to any network that is selected in the reservation using a round-robin fashion model.</p> <p>Changing this property value after the network is assigned has no effect on the expected IP address values for the designated machines.</p> <p>With WIM-based provisioning for virtual machines, you can use this property to specify a network profile and network interface or you can use the Network section of the Virtual Reservation page. You can also assign the network interface to a virtual network using the <code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code> custom property.</p> <p>The following attributes of the network profile are available to enable static IP assignment in a cloning blueprint:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</code> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p> <p>You cannot use this custom property to define an on-demand NAT or on-demand routed network profile name. Because on-demand network profile names are generated at allocation time (during provisioning), their names are unknown when creating or editing the blueprint. To specify NSX on-demand network information, use the applicable network component in the blueprint design canvas for your vSphere machine components.</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</code> 	<p>Configures attributes of the network profile specified in <code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code>.</p> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p>

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.<name>	<p>Specifies the NSX load balancing pools to which the virtual machine is assigned during provisioning. The virtual machine is assigned to all service ports of all specified pools. The value is an <edge/pool> name or a list of <edge/pool> names separated by commas. Names are case-sensitive.</p> <p>注意 You can add a machine IP address to an existing load balancer by using the VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names custom property. vRealize Automation and NSX use the first member of the specified edge load balancer pool to determine the new member port and monitor port settings. However, NSX 6.2 does not require that the member port setting be specified. To avoid provisioning failure when using VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names with NSX 6.2 to add a machine to an existing pool, you must specify a port value for the first member of the load balancer pool in NSX. Appending a name allows you to create multiple versions of a custom property. For example, the following properties might list load balancing pools set up for general use and machines with high, moderate, and low performance requirements:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names ■ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.moderate ■ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.high ■ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.low
VCNS.SecurityGroup.Names.<name>	<p>Specifies the NSX security group or groups to which the virtual machine is assigned during provisioning. The value is a security group name or a list of names separated by commas. Names are case-sensitive.</p> <p>Appending a name allows you to create multiple versions of the property, which can be used separately or in combination. For example, the following properties can list security groups intended for general use, for the sales force, and for support:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCNS.SecurityGroup.Names ■ VCNS.SecurityGroup.Names.sales ■ VCNS.SecurityGroup.Names.support
VCNS.SecurityTag.Names.<name>	<p>Specifies the NSX security tag or tags to which the virtual machine is associated during provisioning. The value is a security tag name or a list of names separated by commas. Names are case-sensitive.</p> <p>Appending a name allows you to create multiple versions of the property, which can be used separately or in combination. For example, the following properties can list security tags intended for general use, for the sales force, and for support:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCNS.SecurityTag.Names ■ VCNS.SecurityTag.Names.sales ■ VCNS.SecurityTag.Names.support

PXE プロビジョニングのカスタム プロパティ

PXE は、Cisco UCS Manager でサポートされている唯一のプロビジョニング方法です。ネットワーク ブートストラップ プログラムと vRealize Automation カスタム プロパティを併用して、WIM、SCCM、または Linux キックスタート プロビジョニングを開始できます。またカスタム プロパティを使用して、独自の PowerShell スクリプトを呼び出すこともできます。Linux キックスタート プロビジョニングでは、カスタム プロパティは必要ありません。

PowerShell スクリプトを使用したプロビジョニングのカスタム プロパティ

これらのプロパティを使用して、PowerShell スクリプトを呼び出すことができます。

表 2-19. PowerShell スクリプトを呼び出すためのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>Pxe.Setup.ScriptName</code>	PXE ネットワーク起動プログラムを使用して開始する前に、マシン上で実行するカスタム EPI PowerShell スクリプトを指定します。この値は、スクリプトが Model Manager にアップロードされるときにスクリプトに割り当てられる名前です (例: <code>setup.ps1</code>)。
<code>Pxe.Clean.ScriptName</code>	vRealize Automation Model Manager にインストールされた EPI PowerShell スクリプトの名前を指定し、マシンのプロビジョニング後にマシン上で実行します。この値は、スクリプトが Model Manager にアップロードされるときにスクリプトに割り当てられる名前です (例: <code>clean.ps1</code>)。

PXE および SCCM プロビジョニングのカスタム プロパティ

これらのプロパティを使用して、PXE および SCCM プロビジョニングを実行できます。

表 2-20. PXE および SCCM プロビジョニングのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>SCCM.Collection.Name</code>	オペレーティング システムの展開タスク シーケンスが含まれる SCCM コレクションの名前を指定します。
<code>SCCM.Server.Name</code>	このコレクションが存在する SCCM サーバの完全修飾ドメイン名を指定します (例: <code>lab-sccm.lab.local</code>)。
<code>SCCM.Server.SiteCode</code>	SCCM サーバのサイト コードを指定します。
<code>SCCM.Server.UserName</code>	SCCM サーバに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。
<code>SCCM.Server.Password</code>	<code>SCCM.Server.UserName</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
<code>SCCM.CustomVariable.</code>	カスタム変数の値を指定します。<Name> は、プロビジョニングされたマシンが SCCM コレクションに登録された後で SCCM タスク シーケンスが使用できるカスタム変数の名前です。値は、選択するカスタム変数によって決まります。統合で必要になる場合は、 <code>SCCM.RemoveCustomVariablePrefix</code> を使用して、カスタム変数から <code>SCCM.CustomVariable.</code> プリフィックスを削除できます。

PXE および WIM プロビジョニングのカスタム プロパティ

これらのプロパティを使用して、PXE および WIM プロビジョニングを実行できます。

表 2-21. PXE および WIM プロビジョニングのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>Image.Network.Letter</code>	プロビジョニングされたマシンで WIM イメージ パスがマッピングされているドライブを示す文字を指定します。デフォルト値は K です。
<code>Image.WIM.Path</code>	WIM ベースのプロビジョニングでイメージの展開元となる WIM ファイルの UNC パスを指定します。パスの形式は \\<server>\<share\$> となります (例: \\Lab-ad\dfs\$)。
<code>Image.WIM.Name</code>	<code>Image.WIM.Path</code> プロパティによって配置された WIM ファイルの名前を指定します (例: win2k8.wim)。
<code>Image.WIM.Index</code>	WIM ファイルから正しいイメージを展開するために使用されるインデックスを指定します。
<code>Image.Network.User</code>	プロビジョニングされたマシン上のネットワーク ドライブに WIM イメージ パス (<code>Image.WIM.Path</code>) をマッピングするために使用されるユーザー名を指定します。これは、通常、ネットワーク共有へのアクセス権限があるドメイン アカウントです。
<code>Image.Network.Password</code>	<code>Image.Network.User</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
<p><code>SysPrep.<Section.Key></code></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>SysPrep.GuiUnattended.AdminPassword</code> ■ <code>SysPrep.GuiUnattended.EncryptedAdminPassword</code> ■ <code>SysPrep.GuiUnattended.TimeZone</code> 	<p>プロビジョニングの WinPE ステージで、マシン上の SysPrep 応答ファイルに追加する情報を指定します。SysPrep 応答ファイルにすでに存在する情報は、これらのカスタム プロパティで書き込まれません。<Section> は、SysPrep 応答ファイルのセクションの名前を表します。たとえば、GuiUnattended や UserData のように指定します。<Key> は、セクション内のキー名を表します。たとえば、プロビジョニングされたマシンのタイムゾーンを西太平洋標準時に設定するには、カスタム プロパティ <code>GuiUnattended.UserData.TimeZone</code> を定義し、値を 275 に設定します。</p> <p>セクション、キー、および指定できる値の詳細な一覧については、System Preparation Utility for Windows のドキュメントを参照してください。</p> <p>次に示す <Section.Key> ペアは、WIM ベース プロビジョニングに対して指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ GuiUnattended <ul style="list-style-type: none"> ■ AdminPassword ■ EncryptedAdminPassword ■ TimeZone ■ UserData <ul style="list-style-type: none"> ■ ProductKey ■ FullName ■ ComputerName ■ OrgName ■ 識別名 <ul style="list-style-type: none"> ■ DomainAdmin ■ DomainAdminPassword ■ JoinDomain ■ JoinWorkgroup
<code>Sysprep.Identification.DomainAdmin</code>	Active Directory のターゲット ドメインに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。vCloud Director または vCloud Air に送信する認証情報にはユーザー ドメインを含めないでください。
<code>Sysprep.Identification.DomainAdminPassword</code>	<code>Sysprep.Identification.DomainAdmin</code> プロパティに関連付けるパスワードを指定します。
<code>Sysprep.Identification.JoinDomain</code>	Active Directory に参加させるドメインの名前を指定します。

表 2-21. PXE および WIM プロビジョニングのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>Sysprep.Identification.JoinWorkgroup</code>	ドメインを使用しない場合は、参加させるワークグループの名前を指定します。
<code>SysPrep.UserData.ComputerName</code>	マシン名を指定します (例: lab-client005)。
<code>SysPrep.UserData.FullName</code>	ユーザーの氏名を指定します。
<code>SysPrep.UserData.OrgName</code>	ユーザーの組織名を指定します。
<code>SysPrep.UserData.ProductKey</code>	Windows のプロダクト キーを指定します。

vRealize Automation ゲスト エージェントのカスタム プロパティ

vRealize Automation ゲスト エージェントをクローン作成用のテンプレートまたは WinPE にインストールした場合、マシンが完全に展開された後にカスタム プロパティを使用して、プロビジョニングされたマシンのゲスト OS 内でカスタム スクリプトを実行できます。

表 2-22. ゲスト エージェントを使用してプロビジョニングされたマシンをカスタマイズするためのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.AddOwnerToAdmins</code>	Set to True (default) to add the machine's owner, as specified by the <code>VirtualMachine.Admin.Owner</code> property, to the local administrators group on the machine. This property is not available for provisioning by cloning.
<code>VirtualMachine.Admin.AllowLogin</code>	Set to True (default) to add the machine owner to the local remote desktop users group, as specified by the <code>VirtualMachine.Admin.Owner</code> property.
<code>VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent</code>	If the guest agent is installed as a service on a template for cloning, set to True on the machine blueprint to enable the guest agent service on machines cloned from that template. When the machine is started, the guest agent service is started. Set to False to disable the guest agent. If set to False, the enhanced clone workflow will not use the guest agent for guest operating system tasks, reducing its functionality to <code>VMwareCloneWorkflow</code> . If not specified or set to anything other than False, the enhanced clone workflow sends work items to the guest agent.
<code>VirtualMachine.DiskN.Active</code>	Set to True (default) to specify that the machine's disk <N> is active. Set to False to specify that the machine's disk <N> is not active.

表 2-22. ゲスト エージェントを使用してプロビジョニングされたマシンをカスタマイズするためのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.DiskN.Size	<p>Defines the size in GB of disk <N>. For example, to give a size of 150 GB to a disk G, define the custom property VirtualMachine.Disk0.Size and enter a value of 150. Disk numbering must be sequential. By default a machine has one disk referred to by VirtualMachine.Disk0.Size, where size is specified by the storage value on the blueprint from which the machine is provisioned. The storage value on the blueprint user interface overwrites the value in the VirtualMachine.Disk0.Size property. The VirtualMachine.Disk0.Size property is not available as a custom property because of its relationship with the storage option on the blueprint. More disks can be added by specifying VirtualMachine.Disk1.Size, VirtualMachine.Disk2.Size and so on. VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage always represents the total of the .DiskN.Size properties plus the VMware.Memory.Reservation size allocation.</p>
VirtualMachine.DiskN.Label	<p>Specifies the label for a machine’s disk <N>. The disk label maximum is 32 characters. Disk numbering must be sequential. When used with a guest agent, specifies the label of a machine’s disk <N> inside the guest operating system.</p>
VirtualMachine.DiskN.Letter	<p>Specifies the drive letter or mount point of a machine’s disk N. The default is C. For example, to specify the letter D for Disk 1, define the custom property as VirtualMachine.Disk1.Letter and enter the value D. Disk numbering must be sequential. When used in conjunction with a guest agent, this value specifies the drive letter or mount point under which an additional disk <N> is mounted by the guest agent in the guest operating system.</p>
VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay	<p>Specifies the time to wait after customization is complete and before starting the guest operating system customization. The value must be in HH:MM:SS format. If the value is not set, the default value is one minute (00:01:00). If you choose not to include this custom property, provisioning can fail if the virtual machine reboots before guest agent work items are completed, causing provisioning to fail.</p>
VirtualMachine.Customize.WaitComplete	<p>Set to True to prevent the provisioning workflow from sending work items to the guest agent until all customizations are complete.</p>
VirtualMachine.SoftwareN.Name	<p>Specifies the descriptive name of a software application <N> or script to install or run during provisioning. This is an optional and information-only property. It serves no real function for the enhanced clone workflow or the guest agent but it is useful for a custom software selection in a user interface or for software use reporting.</p>

表 2-22. ゲストエージェントを使用してプロビジョニングされたマシンをカスタマイズするためのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath	<p>Specifies the full path to an application's install script. The path must be a valid absolute path as seen by the guest operating system and must include the name of the script filename.</p> <p>You can pass custom property values as parameters to the script by inserting {<CustomPropertyName>} in the path string. For example, if you have a custom property named ActivationKey whose value is 1234, the script path is D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey}. The guest agent runs the command D:\InstallApp.bat -key 1234. Your script file can then be programmed to accept and use this value.</p> <p>Insert {Owner} to pass the machine owner name to the script. You can also pass custom property values as parameters to the script by inserting {<YourCustomProperty>} in the path string. For example, entering the value \\vra-scripts.mycompany.com\scripts\changeIP.bat runs the changeIP.bat script from a shared location, but entering the value \\vra-scripts.mycompany.com\scripts\changeIP.bat {VirtualMachine.Network0.Address} runs the changeIP script but also passes the value of the VirtualMachine.Network0.Address property to the script as a parameter.</p>

表 2-22. ゲスト エージェントを使用してプロビジョニングされたマシンをカスタマイズするためのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt	<p>Allows vRealize Automation to obtain an encrypted string that is passed as a properly formatted VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath custom property statement to the guest command line.</p> <p>You can provide an encrypted string, such as your password, as a custom property in a command-line argument. This allows you to store encrypted information that the guest agent can decrypt and understand as a valid command-line argument. For example, the VirtualMachine.Software0.ScriptPath = c:\dosomething.bat <password> custom property string is not secure as it contains an actual password.</p> <p>To encrypt the password, you can create a vRealize Automation custom property, for example MyPassword = password, and enable encryption by selecting the available check box. The guest agent decrypts the [MyPassword] entry to the value in the custom property MyPassword and runs the script as c:\dosomething.bat password.</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Create custom property MyPassword = <password> where <password> is the value of your actual password. Enable encryption by selecting the available check box. ■ Set custom property VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt as VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt = true. ■ Set custom property VirtualMachine.Software0.ScriptPath as VirtualMachine.Software0.ScriptPath = c:\dosomething.bat [MyPassword]. <p>If you set VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt to false, or do not create the VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt custom property, then the string inside the square brackets ([and]) is not decrypted.</p>
VirtualMachine.SoftwareN.ISOName	<p>Specifies the path and filename of the ISO file relative to the datastore root. The format is </folder_name/subfolder_name/file_name>.iso. If a value is not specified, the ISO is not mounted.</p>
VirtualMachine.SoftwareN.ISOLocation	<p>Specifies the storage path that contains the ISO image file to be used by the application or script. Format the path as it appears on the host reservation, for example netapp-1:it_nfs_1. If a value is not specified, the ISO is not mounted.</p>

BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のカスタム プロパティ

vRealize Automation には、BMC BladeLogic Configuration Manager と連携するために必要なカスタム プロパティがあります。

表 2-23. BMC BladeLogic Configuration Manager 統合に必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.EPI.Type</code>	Specifies the type of external provisioning infrastructure.
<code>VirtualMachine.Admin.Owner</code>	Specifies the user name of the machine owner.
<code>BMC.Software.Install</code>	BMC BladeLogic Configuration Manager 統合を有効にするには、True に設定します。
<code>EPI.Server.Name</code>	外部プロビジョニング インフラストラクチャ サーバの名前 (BMC BladeLogic をホストしているサーバの名前など) を指定します。BMC BladeLogic Configuration Manager ホストが指定されることなく 1 つ以上の汎用 BMC EPI エージェントがインストールされた場合、この値は必要なサーバに申請を送ります。 特定の BMC BladeLogic Configuration Manager ホスト専用である BMC EPI エージェントだけがインストールされた場合、この値はそれらのエージェントの 1 つに構成されたサーバ名と完全に一致する必要があります。
<code>BMC.Service.Profile</code>	BMC BladeLogic サーバでデフォルト認証プロファイル名を指定します。
<code>BMC.Software.BatchLocation</code>	ソフトウェア ジョブが展開される場所を BMC BladeLogic 構成で指定します。この値は、 <code>Vrm.Software.IdNNNN</code> の適切な値と一致する必要があります。たとえば、有効な値には <code>/Application Deployment</code> があります。
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	Specifies the vCenter Server guest operating system version (<code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code>) with which vCenter Server creates the machine. This operating system version must match the operating system version to be installed on the provisioned machine. Administrators can create property groups using one of several property sets, for example, <code>VMware[OS_Version]Properties</code> , that are predefined to include the correct <code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code> values. This property is for virtual provisioning. For related information, see the enumeration type <code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code> in vSphere API/SDK Documentation. For a list of currently accepted values, see the vCenter Server documentation.

BMC BladeLogic Configuration Manager のソフトウェア ジョブを有効にするカスタム プロパティ

vRealize Automation と連携するために、BMC BladeLogic Configuration Manager のジョブを構成します。マシン申請者がすべてのソフトウェア ジョブの中から選択できるようにするか、ブループリントに基づいてプロビジョニングされたすべてのマシンに適用するソフトウェア ジョブを指定します。

表 2-24. ソフトウェア ジョブを有効にするカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
LoadSoftware	ソフトウェア インストール オプションを有効にするには、True に設定します。
Vrm.Software.Id<NNNN>	Specifies a software job or policy to be applied to all machines provisioned from the blueprint. Set the value to job_type=job_path , where job_type is the numeral that represents the BMC BladeLogic job type and job_path is the location of the job in BMC BladeLogic, for example 4=/Utility/putty . <NNNN> is a number from 1000 to 1999. The first property must start with 1000 and increment in numerical order for each additional property. 1 – AuditJob 2 – BatchJob 3 – ComplianceJob 4 – DeployJob 5 – FileDeployJob 6 – NSHScriptJob 7 – PatchAnalysisJob 8 – SnapshotJob

BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のオプションのカスタム プロパティ

BMC BladeLogic Configuration Manager のブループリントでよく使用されるオプションのカスタム プロパティを使用することもできます。

表 2-25. BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のオプションのカスタム プロパティ

プロパティ	定義
BMC.AddServer.Delay	BMC BladeLogic Configuration Manager にマシンを追加までの待機時間（秒単位）を指定します。デフォルトは 30 です。
BMC.AddServer.Retry	BMC BladeLogic Configuration Manager へのマシンの最初の追加で失敗した場合、再試行するまでの待機時間（秒単位）を指定します。デフォルトは 100 です。

HP Server Automation との連携用のカスタム プロパティ

vRealize Automation には、HP Server Automation と連携するために必要なカスタム プロパティがあります。HP Server Automation との連携には、いくつかのカスタム プロパティが必要です。その他のカスタム プロパティは、必要に応じて使用します。

HP Server Automation との連携用の必須のカスタム プロパティ

ブループリントで HP Server Automation を使用するには、特定のカスタム プロパティが必要です。

表 2-26. HP Server Automation との連携に必須のカスタム プロパティ

プロパティ	定義
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	Specifies the vCenter Server guest operating system version (<code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code>) with which vCenter Server creates the machine. This operating system version must match the operating system version to be installed on the provisioned machine. Administrators can create property groups using one of several property sets, for example, <code>VMware[OS_Version]Properties</code> , that are predefined to include the correct <code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code> values. This property is for virtual provisioning.
<code>VirtualMachine.EPI.Type</code>	Specifies the type of external provisioning infrastructure.
<code>EPI.Server.Name</code>	外部プロビジョニング インフラストラクチャ サーバの名前 (BMC BladeLogic をホストしているサーバの名前など) を指定します。BMC BladeLogic Configuration Manager ホストが指定されることなく 1 つ以上の汎用 BMC EPI エージェントがインストールされた場合、この値は必要なサーバに申請を送ります。
<code>Opware.Software.Install</code>	HP Server Automation がソフトウェアをインストールできるようにするためには、True に設定します。
<code>Opware.Server.Name</code>	HP Server Automation サーバの完全修飾名を指定します。
<code>Opware.Server.Username</code>	エージェントディレクトリ内のパスワード ファイルが作成されたときに提供されるユーザー名を指定します (例: <code>opswreadmin</code>)。このユーザー名は、HP Server Automation インスタンスにアクセスするための管理者権限のあるものでなければなりません。
<code>Opware.BootImage.Name</code>	HP Server Automation で定義されている 32 ビット WinPE イメージの起動イメージ値を指定します (例: <code>winpe32</code>)。クローン作成によるプロビジョニングの場合、このプロパティは不要です。
<code>Opware.Customer.Name</code>	HP Server Automation で定義されているユーザー名の値を指定します (例: <code>MyCompanyName</code>)。
<code>Opware.Facility.Name</code>	HP Server Automation で定義されている設備名の値を指定します (例: <code>Cambridge</code>)。
<code>Opware.Machine.Password</code>	HP Server Automation で定義されている <code>Opware.OSSequence.Name</code> などのオペレーティング システム シーケンス WIM イメージのデフォルトのローカル管理者パスワードを指定します (例: <code>P@ssword1</code>)。
<code>Opware.OSSequence.Name</code>	HP Server Automation で定義されているオペレーティング システム シーケンス名の値を指定します (例: <code>Windows 2008 WIM</code>)。
<code>Opware.Realm.Name</code>	HP Server Automation で定義されているレルム名の値を指定します (例: <code>Production</code>)。
<code>Opware.Register.Timeout</code>	プロビジョニングジョブの作成が完了するまでの待機時間を秒単位で指定します。
<code>VirtualMachine.CDRom.Attach</code>	Set to False to provision the machine without a CD-ROM device. The default is True.
<code>Linux.ExternalScript.Name</code>	オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲストエージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定します (例: <code>config.sh</code>)。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。

表 2-26. HP Server Automation との連携に必須のカスタム プロパティ (続き)

プロパティ	定義
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカル パスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポート パスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: <code>/scripts/linux/config.sh</code>)。

HP Server Automation との連携用のオプションのカスタム プロパティ

ブループリントで HP Server Automation を使用するには、必要に応じて特定のカスタム プロパティを使用します。

表 2-27. HP Server Automation との連携用のオプションのカスタム プロパティ

プロパティ	定義
<code>Opsware.ProvFail.Notify</code>	(オプション) プロビジョニングで障害が発生した場合に HP Server Automation が使用する通知用の電子メール アドレスを指定します (例: <code>provisionfail@lab.local</code>)。
<code>Opsware.ProvFail.Notify</code>	(オプション) プロビジョニングで障害が発生した場合に、所有権が割り当てられる HP Server Automation ユーザーを指定します。
<code>Opsware.ProvSuccess.Notify</code>	(オプション) プロビジョニングが成功した場合に HP Server Automation が使用する通知用の電子メール アドレスを指定します。
<code>Opsware.ProvSuccess.Owner</code>	(オプション) プロビジョニングが成功した場合に、所有権が割り当てられる HP Server Automation ユーザーを指定します。

HP Server Automation のソフトウェア ジョブを有効にするカスタム プロパティ

ファブリック管理者が、vRealize Automation 統合のために HP Server Automation ジョブを構成する方法に応じて、マシン申請者がすべてのソフトウェア ジョブの中から選択できるようにするか、ブループリントに基づいてプロビジョニングされたすべてのマシンに適用されるジョブを指定するかを選択できます。

表 2-28. ソフトウェア ジョブを有効にするカスタム プロパティ

プロパティ	定義
<code>LoadSoftware</code>	ソフトウェア インストール オプションを有効にするには、True に設定します。
<code>Vrm.Software.Id</code>	(Optional) Specifies an HP Server Automation policy to be applied to all machines provisioned from the blueprint. <NNNN> is a number from 1000 to 1999. The first property must start with 1000 and increment in numerical order for each additional property.

名前別にグループ化されたカスタム プロパティ

3

カスタム プロパティを使用して、vRealize Automation の追加の制御を提供できます。

ここで示すカスタム プロパティは、名前別にグループ化されています。機能別にグループ化されたカスタム プロパティについては、第 2 章「機能別にグループ化されたカスタム プロパティ (P. 13)」を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [カスタム プロパティ アンダースコア \(_ \) テーブル \(P. 52\)](#)
- [カスタム プロパティ A テーブル \(P. 53\)](#)
- [カスタム プロパティ B テーブル \(P. 54\)](#)
- [カスタム プロパティ C テーブル \(P. 54\)](#)
- [カスタム プロパティ E テーブル \(P. 56\)](#)
- [H で始まるカスタム プロパティの表 \(P. 58\)](#)
- [カスタム プロパティ I テーブル \(P. 58\)](#)
- [カスタム プロパティ L テーブル \(P. 59\)](#)
- [カスタム プロパティ M テーブル \(P. 60\)](#)
- [カスタム プロパティ O テーブル \(P. 60\)](#)
- [カスタム プロパティ P テーブル \(P. 61\)](#)
- [カスタム プロパティ R テーブル \(P. 62\)](#)
- [カスタム プロパティ S テーブル \(P. 62\)](#)
- [Custom Properties V Table \(P. 66\)](#)
- [カスタム プロパティ X テーブル \(P. 86\)](#)

カスタム プロパティ アンダースコア () テーブル

このセクションには、アンダースコア () で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-1. カスタム プロパティ アンダースコア () テーブル

プロパティ	説明
<code>_debug_deployment</code>	<p>展開の部分的な完了が許可される拡張処理を除いて、デフォルトの動作では、個々のリソースのいずれかでプロビジョニングに失敗すると、展開全体が破棄されます。<code>_debug_deployment</code> カスタム プロパティ値を true に設定し、デフォルトの動作をオーバーライドできます。プロビジョニングが失敗した場合は、プロビジョニングできなかったコンポーネントを特定できるように、デバッグ用のカスタム プロパティによってリソースのロールバックが停止されます。エラーが発生したカタログアイテムのコンポーネントにユーザーはアクセスできないため、このカスタム プロパティは新しいブループリントの開発とテスト期間で使用するのに適しています。</p> <p>ブループリントにカスタム プロパティを適用するには、ブループリントの作成または編集時に [プロパティ] タブを使用して、<code>_debug_deployment</code> を [ブループリント プロパティ] ページに追加します。このプロパティは、複合ブループリントなどの複数のコンポーネントを含むブループリント用であり、スタンドアロンのブループリントに適用された場合は無視されます。<code>_debug_deployment</code> プロパティは、ゲスト エージェントやマシン プロビジョニングのレベルではなく、ソフトウェア プロビジョニングのレベルで使用されます。</p> <p><code>VRMAgent.exe.config</code> ファイルの設定を使用して、導入の失敗後に vRealize Automation によって仮想マシンが削除されないように設定することもできます。</p>
<code>_deploymentName</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、<code>_deploymentName</code> の値をカスタム文字列に設定して、展開のカスタム名を指定できます。この展開の複数のインスタンスを単一の申請でプロビジョニングする場合は、カスタム名がプリフィックスになります。ユーザーが展開名を指定できるようにするには、このカスタム プロパティを設定してオーバーライドを許可します。このプロパティの使用には、次の 2 点の注意事項があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> このプロパティは、コンポーネント レベルではなく、ブループリント レベルで追加する必要があります。たとえば、ブループリントを作成または編集する際に、[プロパティ] タブをクリックして、[カスタム プロパティ]-[新規] の順に選択し、<code>_deploymentName</code> プロパティをブループリントに追加します。このプロパティは、マシンやブループリントに含まれる他のコンポーネントに追加しないでください。 このプロパティは、プロパティ グループのメンバーとしてではなく、別個のプロパティとして追加する必要があります。
<code>_number_of_instances</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、単一の申請でユーザーがプロビジョニングできる環境のインスタンス数を指定できます。</p>

カスタム プロパティ A テーブル

このセクションには、A で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-2. カスタム プロパティ A テーブル

プロパティ	説明
AD.Lookup.Department	承認者に送信される通知メールに含まれるコスト センター値を指定します。このプロパティ値は、ブループリント内で指定する必要があります。
agent.download.url	ポート転送を使用する場合は、Amazon AWS トンネル マシンのプライベート IP アドレスおよびソフトウェア エージェント ファイルのポートを指定します (たとえば https://<Private_IP:1443>/software-service/resources/nobel-agent.jar)。このプロパティは、 software.agent.service.url および software.ebs.url と組み合わせて、予約またはコンピューティング リソース エンドポイントに追加することができます。また、PAT または NAT、およびポート転送を使用するときに、このプロパティを使用してプライベート アドレスおよびポートを指定することができます。
amazon.AmazonEC2Config.ServiceURL	Amazon GovCloud 用の Amazon 構成サービス URL を指定します (例: amazon.AmazonEC2Config.ServiceURL=https://ec2.us-gov-west-1.amazonaws.com)。
amazon.ElasticLoadBalancingConfig.ServiceURL	Amazon GovCloud 用の Amazon ロード バランサ構成サービス URL を指定します (例: amazon.ElasticLoadBalancingConfig.ServiceURL=https://elasticloadbalancing.us-gov-west-1.amazonaws.com)。
Amazon.ElasticLoadBalancer.Names	ブループリントによりプロビジョニングされるマシンを、指定の値と一致する Elastic ロード バランサに割り当てます。このプロパティは、vSphere、Amazon、および Hyper-V 構成での使用に有効です。
amazon.IAMInstanceProfile.ARN	AWS インスタンスを要求するときに AWS Identity and Access Management (IAM) インスタンス プロファイルの Amazon リソース ネーム (ARN) を指定します。このプロパティ (たとえば、 amazon.IAMInstanceProfile.ARN = <IAM Instance Profile ARN(s) value>) をブループリントに追加し、カタログからプロビジョニングを要求した場合、プロビジョニングされた Amazon 仮想マシンまたはインスタンスに指定された IAM ロールが含まれます。DEM はプロパティ仕様 (たとえば amazon.IAMInstanceProfile.ARN = IAM Instance Profile ARN(s) value) を読み取り、それを Amazon RunInstanceRequest ワークフローに含めます。
Amazon.Instance.Id	Amazon EC2 エンドポイントにプロビジョニングされたマシンの Amazon インスタンス ID を指定します。このプロパティは、vSphere および Amazon 構成での使用に有効です。
Amazon.elasticIpAddress.ipAddress	<ipAddress > がインスタンスに割り当てる特定の IP アドレスの場合、Amazon IP アドレスを指定します。
Amazon.Placement.Tenancy	AWS 接続が専用テナント固有のものであることを指定するには、 = dedicated を設定します。このプロパティは、VPC サブネットでの使用に有効です。

カスタム プロパティ B テーブル

このセクションには、B で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-3. カスタム プロパティ B テーブル

プロパティ	定義
BMC.AddServer.Delay	BMC BladeLogic Configuration Manager にマシンを追加までの待機時間 (秒単位) を指定します。デフォルトは 30 です。
BMC.AddServer.Retry	BMC BladeLogic Configuration Manager へのマシンの最初の追加で失敗した場合、再試行するまでの待機時間 (秒単位) を指定します。デフォルトは 100 です。
BMC.Service.Profile	BMC BladeLogic サーバでデフォルト認証プロファイル名を指定します。
BMC.Software.BatchLocation	ソフトウェア ジョブが展開される場所を BMC BladeLogic 構成で指定します。この値は、 Vrm.Software.IdNNNN の適切な値と一致する必要があります。たとえば、有効な値には /Application Deployment があります。
BMC.Software.Install	BMC BladeLogic Configuration Manager 統合を有効にするには、True に設定します。

カスタム プロパティ C テーブル

このセクションには、C で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-4. カスタム プロパティ C テーブル

プロパティ	定義
Cisco.Organization.Dn	org-root/org-Engineering など、ビジネス グループによりプロビジョニングされた Cisco UCS マシンが配置される Cisco UCS Manager 組織の識別名を指定します。指定組織が、マシンを管理する Cisco UCS Manager インスタンス内に存在しない場合、プロビジョニングは失敗します。このプロパティはビジネス グループでのみ使用できます。
CloneFrom	vCenter Server のテンプレートなど、クローン作成元の既存のマシンまたは仮想プラットフォーム オブジェクトの名前を指定します (例: Win2k8tmp)。
CloneSpec	vCenter Server の事前定義された SysPrep オブジェクトなど、クローン作成されたマシンのカスタム仕様 の名前を指定します (例: Win2k カスタム仕様)。デフォルト値はブループリントで指定されています。
Command.DiskPart.Options	ESX Server ホスト上で WIM ベースの仮想プロビジョニングを使用し、マシンのディスクをフォーマットしてパーティションを作成する場合、Align=64 を設定して推奨アライメント パラメータを使用します。このプロパティは物理プロビジョニングでは使用できません。
Command.FormatDisk.Options	ESX Server ホスト上で WIM ベースの仮想プロビジョニングを使用し、マシンのディスクをフォーマットしてパーティションを作成する場合、/A:32K を設定して推奨アライメント パラメータを使用します。このプロパティは物理プロビジョニングでは使用できません。
containers.ipam.driver	コンテナ専用です。Containers ネットワーク コンポーネントをブループリントに追加するときに使用する IP アドレス管理ドライバを指定します。サポートされる値は、使用するコンテナ ホスト環境にインストールされているドライバによって異なります。たとえば、サポートされる値は、コンテナ ホストにインストールされている IP アドレス管理プラグインに応じて infoblox または calico になる場合があります。 このプロパティ名と値では大文字と小文字が区別されます。プロパティ値は、追加するときに検証されません。指定したドライバがプロビジョニング時にコンテナ ホストにない場合、エラー メッセージが返され、プロビジョニングが失敗します。

表 3-4. カスタム プロパティ C テーブル (続き)

プロパティ	定義
<code>containers.network.driver</code>	<p>コンテナ専用です。Containers ネットワーク コンポーネントをブループリントに追加するときに使用するネットワーク ドライバを指定します。サポートされる値は、使用するコンテナ ホスト環境にインストールされているドライバによって異なります。デフォルトでは、Docker によって提供されるネットワーク ドライバには <code>bridge</code>、<code>overlay</code>、および <code>macvlan</code> が含まれ、Virtual Container Host (VCH) によって提供されるネットワーク ドライバには <code>bridge</code> ドライバが含まれています。コンテナ ホストにインストールされているネットワーク プラグインに応じて、<code>weave</code> や <code>calico</code> などのサードパーティのネットワーク ドライバも使用できます。</p> <p>このプロパティ名と値では大文字と小文字が区別されます。プロパティ値は、追加するときに検証されません。指定したドライバがプロビジョニング時にコンテナ ホストにない場合、エラー メッセージが返され、プロビジョニングが失敗します。</p>
<code>Container</code>	<p>コンテナ専用です。デフォルト値は <code>App.Docker</code> であり、必須です。このプロパティは変更しないでください。</p>
<code>Container.Auth.User</code>	<p>コンテナ専用です。Containers ホストに接続するためのユーザー名を指定します。</p>
<code>Container.Auth.Password</code>	<p>コンテナ専用です。ユーザー名のパスワード、または使用するパブリック キーまたはプライベート キーのいずれかのパスワードを指定します。暗号化されたプロパティ値がサポートされています。</p>
<code>Container.Auth.PublicKey</code>	<p>コンテナ専用です。Containers ホストに接続するためのパブリック キーを指定します。</p>
<code>Container.Auth.PrivateKey</code>	<p>コンテナ専用です。Containers ホストに接続するためのプライベート キーを指定します。暗号化されたプロパティ値がサポートされています。</p>
<code>Container.Connection.Protocol</code>	<p>コンテナ専用です。通信プロトコルを指定します。デフォルト値は <code>API</code> であり、必須です。このプロパティは変更しないでください。</p>
<code>Container.Connection.Scheme</code>	<p>コンテナ専用です。通信方法を指定します。デフォルトは <code>https</code> です。</p>
<code>Container.Connection.Port</code>	<p>コンテナ専用です。Containers 接続ポートを指定します。デフォルトは <code>2376</code> です。</p>
<code>Extensibility.Lifecycle.Properties.VMPSMasterWorkflow32.MachineActivated</code>	<p>コンテナ専用です。すべての Containers プロパティを公開し、プロビジョニングされたホストを登録するために使用するイベント ブローカ プロパティを指定します。デフォルト値は <code>Container</code> であり、必須です。このプロパティは変更しないでください。</p>
<code>Extensibility.Lifecycle.Properties.VMPSMasterWorkflow32.Disposing</code>	<p>コンテナ専用です。上記のすべての Containers プロパティを公開し、プロビジョニングされたホストを登録解除するために使用するイベント ブローカ プロパティを指定します。デフォルト値は <code>Container</code> であり、必須です。このプロパティは変更しないでください。</p>

カスタム プロパティ E テーブル

このセクションでは、英字 E で始まる vRealize Automation カスタム プロパティを示します。

表 3-5. カスタム プロパティ E テーブル

プロパティ	定義
<code>EPI.Server.Collection</code>	マシンが登録される Citrix プロビジョニング コレクションの名前を指定します。
<code>EPI.Server.Name</code>	<p>外部プロビジョニング インフラストラクチャ サーバの名前 (BMC BladeLogic をホストしているサーバの名前など) を指定します。BMC BladeLogic Configuration Manager ホストが指定されることなく 1 つ以上の汎用 BMC EPI エージェントがインストールされた場合、この値は必要なサーバに申請を送ります。</p> <p>特定の BMC BladeLogic Configuration Manager ホスト専用である BMC EPI エージェントだけがインストールされた場合、この値はそれらのエージェントの 1 つに構成されたサーバ名と完全に一致する必要があります。</p> <p>HP Server Automation をホストしているサーバの名前を指定します。Server Automation サーバが指定されることなく 1 つ以上の汎用 Opsware EPI エージェントがインストールされた場合、この値は必要なサーバに申請を送ります。</p> <p>特定の HP Server Automation サーバ専用の EPI エージェントだけがインストールされた場合、この値はそれらのエージェントの 1 つに構成されたサーバ名と完全に一致する必要があります。</p> <p>サーバが指定されることなく適切なタイプ (<code>VirtualMachine.EPI.Type</code>) の汎用 EPI エージェントが 1 つ以上インストールされた場合、この値は申請されたサーバに申請を送ります。適切なタイプの特定のサーバ専用の EPI エージェントだけがインストールされた場合、この値はそれらのエージェントの 1 つに構成されたサーバ名と完全に一致する必要があります。</p>
<code>EPI.Server.Port</code>	プロビジョニング サーバとの通信に使用するポートを指定します。Citrix プロビジョニング サーバを使用している場合は、デフォルトのポート値 54321 の指定を省略します。
<code>EPI.Server.Site</code>	<code>EPI.Server.Collection</code> プロパティと <code>EPI.Server.Store</code> プロパティで特定されたコレクションとストアが含まれる Citrix プロビジョニング サイトの名前を指定します (例: site1)。
<code>EPI.Server.Store</code>	<code>EPI.Server.VDiskName</code> プロパティで特定された vDisk が含まれる Citrix プロビジョニング ストアの名前を指定します (例: store1)。
<code>EPI.Server.VDiskName</code>	プロビジョニングで使用される Citrix プロビジョニング vDisk の名前を指定します (例: disk1)。
<code>ext.policy.activedirectory.customizationWorkflowTag</code>	vRealize Orchestrator のカスタム ワークフローに追加されたタグです。Active Directory ポリシーでは、指定したタグの付いたカスタム ワークフローを検索し、これが見つかると、Active Directory レコードが作成される際にタグ付きワークフローを使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.customizationDeleteWorkflowTag</code>	vRealize Orchestrator のカスタム ワークフローに追加されたタグです。Active Directory ポリシーでは、指定したタグの付いたカスタム ワークフローを検索し、これが見つかると、Active Directory レコードが削除される際にタグ付きワークフローを使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.domain</code>	<p>現在の Active Directory ポリシーで指定されているドメインよりも優先して使用するドメイン。</p> <p>Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.domain</code> の値をオーバーライドします。</p>
<code>ext.policy.activedirectory.endpoint.id</code>	<p>ポリシーの指定やオーバーライドに使用されるポリシー ID です。指定する ID は、既存の Active Directory ポリシーのものであることが必要です。</p> <p>Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.endpoint.id</code> の値をオーバーライドします。</p>

表 3-5. カスタム プロパティ E テーブル (続き)

プロパティ	定義
<code>ext.policy.activedirectory.id</code>	使用する組織単位は、既存の Active Directory ポリシーに含まれる組織単位ではありません。 Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.id</code> の値をオーバーライドします。
<code>ext.policy.activedirectory.machineName</code>	現在の Active Directory ポリシーで指定されている名前よりも優先して使用する、Active Directory 内のマシンの名前。 Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.machineName</code> の値をオーバーライドします。
<code>ext.policy.activedirectory.orgunit</code>	現在の Active Directory ポリシーで指定されているドメインよりも優先して使用する組織単位。 Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.orgunit</code> の値をオーバーライドします。
<code>ext.policy.activedirectory.system.domain</code>	Active Directory に含まれるマシンのドメインに使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.domain</code> を使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.system.endpoint.id</code>	Active Directory vRealize Orchestrator エンドポイントの名前に使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.endpoint.id</code> を使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.system.id</code>	Active Directory ポリシーのユーザーが判別可能な ID に使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.id</code> を使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.system.machineName</code>	Active Directory に含まれるマシンの名前に使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.machineName</code> を使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.system.orgunit</code>	Active Directory 組織単位の識別名に使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.orgunit</code> を使用します。

Hで始まるカスタム プロパティの表

このセクションには、Hで始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-6. Hで始まるカスタム プロパティの表

プロパティ	定義
Hostname	VirtualMachine.Admin.Name プロパティに含まれている生成されたマシン名をオーバーライドするホスト マシン名を指定します。 Hostname を使用しないと、マシン名として VirtualMachine.Admin.Name 値が使用されます。 Hostname 値に使用できる文字数は最大で 15 文字です。
Hyperv.Network.Type	仮想マシンのネットワーク アダプタ タイプを指定します。このプロパティは、Hyper-V (SCVMM) との併用にのみ有効です。値を synthetic に設定した場合、ブループリントで Hyper-V (SCVMM) 2012 R2 リソースに Generation-2 マシンをプロビジョニングできることが指定されます。Generation-2 プロビジョニングでは、ブループリントに Scvmm.Generation2 = true プロパティ設定も含まれている必要があります。以前の値は、WinXP または Server 2003 x64 のゲスト OS と互換性がありません。デフォルト値は synthetic です。

カスタム プロパティ | テーブル

このセクションでは、英字 I で始まる vRealize Automation カスタム プロパティを示します。

表 3-7. カスタム プロパティ | テーブル

プロパティ	定義
Image.ISO.Location	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの場所を指定します (例: <code>http://192.168.2.100/site2/winpe.iso</code>)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。 vCenter Server による仮想プロビジョニングの場合、この値にはプロビジョニング コンピュータ リソースからアクセスできるインスタンス内のデータストアの名前を指定します。XenServer による仮想プロビジョニングの場合、ストレージ リポジトリの名前を指定します。 物理プロビジョニングの場合、Web 上でアクセスできる、イメージの HTTP URL を指定します。
Image.ISO.Name	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの名前を指定します (例: <code>/ISO/Microsoft/WinPE.iso</code>)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。 vCenter Server による仮想プロビジョニングの場合、この値は Image.ISO.Location で指定されるデータストア内のイメージのパスを指定します (例: <code>/<MyISOs>/Microsoft/MSDN/win2003.iso</code>)。この値にはスラッシュを使用する必要があります。この値の先頭はスラッシュにする必要があります。XenServer による仮想プロビジョニングの場合、 Image.ISO.Location で指定されるストレージ リポジトリ内のイメージの名前を指定します。Hyper-V による仮想プロビジョニングでは、イメージのフル ローカル パスを指定します。 物理プロビジョニングの場合、イメージのファイル名を指定します。
Image.ISO.UserName	CIFS 共有にアクセスするユーザー名を、 <code><username@domain></code> という形式で指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
Image.ISO.Password	Image.ISO.UserName プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。

表 3-7. カスタム プロパティ | テーブル (続き)

プロパティ	定義
<code>Image.WIM.Path</code>	WIM ベースのプロビジョニングでイメージの展開元となる WIM ファイルの UNC パスを指定します。パスの形式は <code>\\<server>\<share\$></code> となります (例: <code>\\lab-ad\dfs\$</code>)。
<code>Image.WIM.Name</code>	<code>Image.WIM.Path</code> プロパティによって配置された WIM ファイルの名前を指定します (例: <code>win2k8.wim</code>)。
<code>Image.WIM.Index</code>	WIM ファイルから正しいイメージを展開するために使用されるインデックスを指定します。
<code>Image.Network.User</code>	プロビジョニングされたマシン上のネットワーク ドライブに WIM イメージ パス (<code>Image.WIM.Path</code>) をマッピングするために使用されるユーザー名を指定します。これは、通常、ネットワーク共有へのアクセス権限があるドメイン アカウントです。
<code>Image.Network.Password</code>	<code>Image.Network.User</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
<code>Image.Network.Letter</code>	プロビジョニングされたマシンで WIM イメージ パスがマッピングされているドライブを示す文字を指定します。デフォルト値は K です。
<code>Infrastructure.Admin.MachineObjectOU</code>	マシンの組織単位 (OU) を指定します。ビジネス グループ OU 設定によって必要な OU にマシンが配置される場合には、このプロパティは不要です。
<code>Infrastructure.Admin.ADUser</code>	ドメイン管理者のユーザー ID を指定します。この ID は、匿名のバインドを使用できない場合に、Active Directory ユーザーとグループを問い合わせるために使用されます。
<code>Infrastructure.Admin.ADPassw ord</code>	<code>Infrastructure.Admin.ADUser</code> ドメイン管理者ユーザー ID に関連付けられているパスワードを指定します。
<code>Infrastructure.Admin.Default Domain</code>	マシン上のデフォルト ドメインを指定します。
<code>Infrastructure.ResourcePool. Name</code>	マシンが属するリソース プールを指定します (存在する場合)。デフォルトは、マシンのプロビジョニング元である予約で指定された値です。

カスタム プロパティ | テーブル

このセクションには、L で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-8. カスタム プロパティ | テーブル

プロパティ	説明
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。 また、 <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用してスクリプトの場所を指定する必要もあります。場所タイプが NFS の場合は、 <code>Linux.ExternalScript.Server</code> プロパティも使用します。
<code>Linux.ExternalScript.Name</code>	オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲストエージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定します (例: <code>config.sh</code>)。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。 外部スクリプトを指定する場合は、 <code>Linux.ExternalScript.LocationType</code> プロパティおよび <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用して、その場所も定義する必要があります。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカル パスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポート パスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: <code>/scripts/linux/config.sh</code>)。

表 3-8. カスタム プロパティ L テーブル (続き)

プロパティ	説明
Linux.ExternalScript.Server	Linux.ExternalScript.Name で指定された Linux 外部カスタマイズ スクリプトが配置される NFS サーバの名前を指定します (例: lab-ad.lab.local)。
LoadSoftware	ソフトウェア インストール オプションを有効にするには、True に設定します。

カスタム プロパティ M テーブル

このセクションには、M で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-9. カスタム プロパティ M テーブル

プロパティ	説明
MaximumProvisionedMachines	1 つのマシン スナップショットに対するリンク クローンの最大数を指定します。デフォルトは無制限です。
Machine.SSH	このブループリントからプロビジョニングされた Linux マシンの vRealize Automation の [アイテム] ページにある [SSH を使用して接続] オプションを有効にするには、True に設定します。True に設定して、[RDP または SSH を使用した接続] によるマシン操作をブループリントで有効にした場合、ブループリントからプロビジョニングされるすべての Linux マシンが、[SSH を使用して接続] オプションを資格のあるユーザーに表示します。 [SSH を使用して接続] オプションを使用するには、SSH をサポートするプラグインがブラウザにインストールされている必要があります (たとえば、Mozilla Firefox および Google Chrome 用の FireSSH SSH ターミナルクライアント)。プラグインが存在する場合、[SSH を使用して接続] を選択すると、SSH コンソールが開き、管理者の認証情報の入力が必要になります。

カスタム プロパティ O テーブル

このセクションには、O で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-10. カスタム プロパティ O テーブル

プロパティ	説明
Opware.BootImage.Name	HP Server Automation で定義されている 32 ビット WinPE イメージの起動イメージ値を指定します (例: winpe32)。クローン作成によるプロビジョニングの場合、このプロパティは不要です。
Opware.Customer.Name	HP Server Automation で定義されているユーザー名の値を指定します (例: MyCompanyName)。
Opware.Facility.Name	HP Server Automation で定義されている設備名の値を指定します (例: Cambridge)。
Opware.Machine.Password	HP Server Automation で定義されている Opware.OSSequence.Name などのオペレーティングシステム シーケンス WIM イメージのデフォルトのローカル管理者パスワードを指定します (例: P@ssword1)。
Opware.OSSequence.Name	HP Server Automation で定義されているオペレーティングシステム シーケンス名の値を指定します (例: Windows 2008 WIM)。
Opware.ProvFail.Notify	(オプション) プロビジョニングで障害が発生した場合に HP Server Automation が使用する通知用の電子メール アドレスを指定します (例: provisionfail@lab.local)。
Opware.ProvFail.Owner	(オプション) プロビジョニングで障害が発生した場合に、所有権が割り当てられる HP Server Automation ユーザーを指定します。

表 3-10. カスタム プロパティ O テーブル (続き)

プロパティ	説明
Opware.ProvSuccess.Notify	(オプション) プロビジョニングが成功した場合に HP Server Automation が使用する通知用の電子メール アドレスを指定します。
Opware.ProvSuccess.Owner	(オプション) プロビジョニングが成功した場合に、所有権が割り当てられる HP Server Automation ユーザーを指定します。
Opware.Realm.Name	HP Server Automation で定義されているレルム名の値を指定します (例: Production)。
Opware.Register.Timeout	プロビジョニング ジョブの作成が完了するまでの待機時間を秒単位で指定します。
Opware.Server.Name	HP Server Automation サーバの完全修飾名を指定します。
Opware.Server.Username	エージェント ディレクトリ内のパスワード ファイルが作成されたときに提供されるユーザー名を指定します (例: opswreadmin)。このユーザー名は、HP Server Automation インスタンスにアクセスするための管理者権限のあるものでなければなりません。
Opware.Software.Install	HP Server Automation がソフトウェアをインストールできるようにするためには、True に設定します。

カスタム プロパティ P テーブル

このセクションには、P で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-11. カスタム プロパティ P テーブル

プロパティ	説明
Plugin.AdMachineCleanup.Delete	破棄されたマシンのアカウントを無効にする代わりに削除するには、True に設定します。
Plugin.AdMachineCleanup.Execute	Active Directory クリーンアップ プラグインを有効にするには、True に設定します。デフォルトの場合、各マシンのアカウントは破棄されると、無効になります。
Plugin.AdMachineCleanup.MoveToOu	破棄するマシンのアカウントを新しい Active Directory の組織単位に移動します。値はアカウントの移動先の組織単位です。この値の形式は <ou=OU, dc=dc> です (例: ou=trash,cn=computers,dc=lab,dc=local)。
Plugin.AdMachineCleanup.UserName	Active Directory のアクション (Active Directory アカウントの削除、無効化、名前変更、移動など) の実行に必要な十分な権限を持つ Active Directory アカウント ユーザー名を指定します。値は <domain\username> の形式で指定します (例: lab\administrator)。vRealize Automation マネージャ サービスがドメイン内でこの権限を持たない場合、このプロパティが必要になります。これは、複数のドメインにマシンをプロビジョニングする場合に発生します。
Plugin.AdMachineCleanup.Password	Plugin.AdMachineCleanup.UserName プロパティに関連するパスワードを指定します。
Plugin.AdMachineCleanup.Domain	破棄するマシン アカウントが含まれる Active Directory ドメイン名を指定します。
Plugin.AdMachineCleanup.RenamePrefix	プリフィックスを追加して、破棄するマシンのアカウント名を変更します。プリフィックス文字列を値の先頭に追加します (例: destroyed_)。
Pxe.Clean.ScriptName	vRealize Automation Model Manager にインストールされた EPI PowerShell スクリプトの名前を指定し、マシンのプロビジョニング後にマシン上で実行します。この値は、スクリプトが Model Manager にアップロードされるときにスクリプトに割り当てられる名前です (例: clean.ps1)。
Pxe.Setup.ScriptName	PXE ネットワーク起動プログラムを使用して開始する前に、マシン上で実行するカスタム EPI PowerShell スクリプトを指定します。この値は、スクリプトが Model Manager にアップロードされるときにスクリプトに割り当てられる名前です (例: setup.ps1)。

カスタム プロパティ R テーブル

このセクションには、R で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-12. カスタム プロパティ R テーブル

プロパティ	説明
ReservationPolicyID	予約ポリシー名ではなく予約ポリシー ID を指定します。たとえば、vRealize Orchestrator のプロパティ getApplicableReservationPolicies によって返される名前は、予約ポリシー ID ではなく予約ポリシー名です。
RDP.File.Name	設定の取得元である RDP ファイルを指定します。たとえば My_RDP_Settings.rdp 。このファイルは、vRealize Automation インストール ディレクトリの Website\Rdp サブディレクトリに存在している必要があります。

カスタム プロパティ S テーブル

このセクションには、S で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル

プロパティ	説明
SysPrep.<Section.Key> <ul style="list-style-type: none"> ■ SysPrep.GuiUnattended.AdminPassword ■ SysPrep.GuiUnattended.EncryptedAdminPassword ■ SysPrep.GuiUnattended.TimeZone 	プロビジョニングの WinPE ステージで、マシン上の SysPrep 応答ファイルに追加する情報を指定します。SysPrep 応答ファイルにすでに存在する情報は、これらのカスタム プロパティで上書きされます。<Section> は、SysPrep 応答ファイルのセクションの名前を表します。たとえば、GuiUnattended や UserData のように指定します。<Key> は、セクション内のキー名を表します。たとえば、プロビジョニングされたマシンのタイムゾーンを西太平洋標準時に設定するには、カスタム プロパティ GuiUnattended.UserData.TimeZone を定義し、値を 275 に設定します。 セクション、キー、および指定できる値の詳細な一覧については、System Preparation Utility for Windows のドキュメントを参照してください。 次に示す <Section.Key> ペアは、WIM ベース プロビジョニングに対して指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ GuiUnattended <ul style="list-style-type: none"> ■ AdminPassword ■ EncryptedAdminPassword ■ TimeZone ■ UserData <ul style="list-style-type: none"> ■ ProductKey ■ FullName ■ ComputerName ■ OrgName ■ 識別名 <ul style="list-style-type: none"> ■ DomainAdmin ■ DomainAdminPassword ■ JoinDomain ■ JoinWorkgroup
Sysprep.Identification.DomainAdmin	Active Directory のターゲット ドメインに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。vCloud Director または vCloud Air に送信する認証情報にはユーザー ドメインを含めないでください。

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル (続き)

プロパティ	説明
Sysprep.Identification.DomainAdminPassword	Sysprep.Identification.DomainAdmin プロパティに関連付けるパスワードを指定します。
Sysprep.Identification.JoinDomain	Active Directory に参加させるドメインの名前を指定します。
Sysprep.Identification.JoinWorkgroup	ドメインを使用しない場合は、参加させるワークグループの名前を指定します。
SysPrep.UserData.ComputerName	マシン名を指定します (例: lab-client005)。
SysPrep.UserData.FullName	ユーザーの氏名を指定します。
SysPrep.UserData.OrgName	ユーザーの組織名を指定します。
SysPrep.UserData.ProductKey	Windows のプロダクト キーを指定します。
SCCM.Collection.Name	オペレーティング システムの展開タスク シーケンスが含まれる SCCM コレクションの名前を指定します。
SCCM.CustomVariable.<Name>	カスタム変数の値を指定します。<Name> は、プロビジョニングされたマシンが SCCM コレクションに登録された後で SCCM タスク シーケンスが使用できるカスタム変数の名前です。値は、選択するカスタム変数によって決まります。統合で必要になる場合は、 SCCM.RemoveCustomVariablePrefix を使用して、カスタム変数から SCCM.CustomVariable. プリフィックスを削除できます。
SCCM.Server.Name	このコレクションが存在する SCCM サーバの完全修飾ドメイン名を指定します (例: lab-sccm.lab.local)。
SCCM.Server.SiteCode	SCCM サーバのサイト コードを指定します。
SCCM.Server.UserName	SCCM サーバに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。
SCCM.Server.Password	SCCM.Server.UserName プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
SCCM.RemoveCustomVariablePrefix	カスタム プロパティ SCCM.CustomVariable.<Name> を使用して作成した SCCM カスタム変数から SCCM.CustomVariable. プリフィックスを削除するには、<true> に設定します。
Scvmm.Generation2	true に設定した場合、ブループリントで Hyper-V (SCVMM) 2012 R2 リソースに Generation-2 マシンをプロビジョニングできることを指定します。Generation-2 プロビジョニングでは、ブループリントに Hyperv.Network.Type = synthetic プロパティ設定も含まれている必要があります。
Snapshot.Policy.AgeLimit	マシンに適用できるスナップショットの存続期限を日数で設定します。このプロパティは、vSphere プロビジョニングに適用されます。 スナップショットがこの存続期限を超えると、[適用] オプションは使用できなくなります。 スナップショットの存続期限に達すると、スナップショットは維持されますが、そのスナップショットに戻すことはできなくなります。vSphere クライアントを使用して、スナップショットを削除できます。

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル (続き)

プロパティ	説明
Snapshot.Policy.Limit	<p>マシンあたりに許可されるスナップショットの数を設定します。デフォルトの設定は、マシンあたり 1 つのスナップショットです。このプロパティは、vSphere プロビジョニングに適用されます。0 に設定すると、スナップショットを作成するブループリントオプションは、サポート ロールとマネージャ ロールを除き、すべてのユーザーに表示されなくなります。</p> <p>スナップショットは階層構造で表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 深さ – 最大は 31。 ■ 幅 – 制限なし。
Snapshot.Policy.Disable	<p>true に設定すると、すべての vRealize Automation ユーザー ロールはスナップショット作成機能を使用できなくなり、スナップショット オプションは [アイテム] タブに表示されなくなります。</p>
software.agent.service.url	<p>ポート転送を使用する場合は、Amazon AWS トンネル マシンのプライベート IP アドレスおよび vRealize Automation ソフトウェア サービス API のポートを指定します (たとえば https://<Private_IP:1443>/software-service/api)。</p> <p>このプロパティは、software.ebs.url および agent.download.url と組み合わせて、予約またはコンピューティング リソース エンドポイントに追加することができます。また、PAT または NAT、およびポート転送を使用するときに、このプロパティを使用してプライベート アドレスおよびポートを指定することができます。</p>
software.ebs.url	<p>ポート転送を使用する場合は、Amazon AWS トンネル マシンのプライベート IP アドレスおよび vRealize Automation イベント ブローカ サービスを指定します (たとえば https://<Private_IP:1443>/event-broker-service/api)。</p> <p>このプロパティは、software.agent.service.url および agent.download.url と組み合わせて、予約またはコンピューティング リソース エンドポイントに追加することができます。また、PAT または NAT、およびポート転送を使用するときに、このプロパティを使用してプライベート アドレスおよびポートを指定することができます。</p>
software.http.proxyHost	<p>プロキシ サーバのホスト名またはアドレスを指定します。ソフトウェア コンテンツ プロパティでプロキシ サーバを使用するには、software.http.proxyHost と software.http.proxyPort の両方を使用する必要があります。</p> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティ タイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイルパスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル (続き)

プロパティ	説明
software.http.proxyPassword	<p>プロキシ サーバへの認証に使用されるユーザー名のパスワードを指定します。software.http.proxyUser と組み合わせて使用します。</p> <p>software.http.proxyUser 設定を使用する場合は、software.http.proxyPassword 設定が必要になります。</p> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティ タイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイルパスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>
software.http.proxyPort	<p>プロキシ サーバのポート番号を指定します。</p> <p>ソフトウェア コンテンツ プロパティでプロキシ サーバを使用するには、software.http.proxyHost と software.http.proxyPort の両方を使用する必要があります。デフォルトの software.http.proxyPort 値はありません。</p> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティ タイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイルパスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル (続き)

プロパティ	説明
<p><code>software.http.proxyUser</code></p>	<p>プロキシ サーバへの認証に使用されるユーザー名を指定します。<code>software.http.proxyPassword</code>と組み合わせて使用します。</p> <p><code>software.http.proxyUser</code> 設定はオプションです。<code>software.http.proxyUser</code> 設定を使用する場合は、<code>software.http.proxyPassword</code> 設定が必要になります。</p> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティタイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイルパスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>
<p><code>software.http.noProxyList</code></p>	<p>プロキシ ホストを使用できないホストとポート (オプション) のリストを指定します。元のコンテンツ プロパティでは、リストのパターンと一致する URL から直接ダウンロードされます。プロキシ サーバが構成されている場合にのみ、<code>software.http.noProxyList</code> 設定は適用されます。たとえば、次のコンマ区切りリストでは次のようになります。</p> <p><code>"buildweb.eng.vmware.com,confluence.eng.vmware.com:443,*.eng.vmware.com:80"</code></p> <p>次の内容が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ホストが「<code>buildweb.eng.vmware.com</code>」であるすべての URL では、プロキシ サーバを使用できません。 ■ ホストが「<code>confluence.eng.vmware.com</code>」であり、ポートが443であるすべての URL では、プロキシ サーバを使用できません。 ■ ホストが「<code>eng.vmware.com</code>」名前空間に含まれ、ポートが80であるすべての URL では、プロキシ サーバを使用できません。 <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティタイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイルパスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>

Custom Properties V Table

This section lists vRealize Automation custom properties that begin with the letter V.

Although general support for VMware vCloud[®] Networking and Security™ 5.5.x (vCNS) ended in September 2016, the vCNS custom properties continue to be valid for VMware NSX™ purposes. See the VMware Knowledge Base article End of Availability and End of General Support for VMware vCloud Networking and Security 5.5.x (2144733) at <http://kb.vmware.com/kb/2144733> for more information.

表 3-14. Custom Properties V Table

Property	Description
<code>VbScript.PreProvisioning.Name</code>	Specifies the full path of a Visual Basic script to be run before a machine is provisioned. For example, <code>%System-Drive%\Program Files(x86)\VMware\vCAC Agents\EPI_Agent\Scripts\SendEmail.vbs</code> . The script file must reside on the system on which the Visual Basic script EPI agent is installed.
<code>VbScript.PostProvisioning.Name</code>	Specifies the full path of a Visual Basic script to be run after a machine is provisioned. For example, <code>%System-Drive%\Program Files(x86)\VMware\vCAC Agents\EPI_Agent\Scripts\SendEmail.vbs</code> . The script file must reside on the system on which the Visual Basic script EPI agent is installed.
<code>VbScript.UnProvisioning.Name</code>	Specifies the full path of a Visual Basic script to be run when a machine is destroyed. For example, <code>%System-Drive%\Program Files(x86)\VMware\vCAC Agents\EPI_Agent\Scripts\SendEmail.vbs</code> . The script file must reside on the system on which the Visual Basic script EPI agent is installed.
<code>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</code>	Specifies a threshold integer value for a compute resource such that lease synchronization between vCloud Director and vRealize Automation only occur for vCloud Director or vCloud Air-provisioned machines that are set to expire in vCloud Director or vCloud Air in that time period. If a conflict is found, the lease value is synchronized to match the lease length defined in vRealize Automation. The default <code>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</code> value is 720 minutes, which is 12 hours. If <code>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</code> is not present, the default value is used. For example, if the default values are used, vRealize Automation runs the lease synchronization check workflow every 45 minutes, which is the workflow default, and only the leases of machines that are set to expire within 12 hours are changed to match the lease length defined in vRealize Automation.
<code>VCloud.Owner.UseEndpointAccount</code>	Set to true to assign the endpoint account as the vCloud Air or vCloud Director machine owner for provisioning and import operations. For change ownership operations, the owner is not changed on the endpoint. If not specified or set to false, the vRealize Automation owner is the machine owner.

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VCloud.Template.MakeIdenticalCopy</code>	<p>Set to true to clone an identical copy of the vCloud Air or vCloud Director template for machine provisioning. The machine is provisioned as an identical copy of the template. Settings specified in the template, including storage path, supersede settings specified in the blueprint. The only changes from the template are the names of the cloned machines, which are generated from the machine prefix specified in the blueprint.</p> <p>vCloud Air or vCloud Director machines that are provisioned as identical copies can use networks and storage profiles that are not available in the vRealize Automation reservation. To avoid having unaccounted reservation allocations, verify that the storage profile or network specified in the template is available in the reservation.</p>
<code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.<name></code>	<p>Specifies the NSX load balancing pools to which the virtual machine is assigned during provisioning. The virtual machine is assigned to all service ports of all specified pools. The value is an <edge/pool> name or a list of <edge/pool> names separated by commas. Names are case-sensitive.</p> <p>注意 You can add a machine IP address to an existing load balancer by using the <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names</code> custom property. vRealize Automation and NSX use the first member of the specified edge load balancer pool to determine the new member port and monitor port settings. However, NSX 6.2 does not require that the member port setting be specified. To avoid provisioning failure when using <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names</code> with NSX 6.2 to add a machine to an existing pool, you must specify a port value for the first member of the load balancer pool in NSX.</p> <p>Appending a name allows you to create multiple versions of a custom property. For example, the following properties might list load balancing pools set up for general use and machines with high, moderate, and low performance requirements:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names</code> ■ <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.moderate</code> ■ <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.high</code> ■ <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.low</code>
<code>VCNS.SecurityGroup.Names.<name></code>	<p>Specifies the NSX security group or groups to which the virtual machine is assigned during provisioning. The value is a security group name or a list of names separated by commas. Names are case-sensitive.</p> <p>Appending a name allows you to create multiple versions of the property, which can be used separately or in combination. For example, the following properties can list security groups intended for general use, for the sales force, and for support:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>VCNS.SecurityGroup.Names</code> ■ <code>VCNS.SecurityGroup.Names.sales</code> ■ <code>VCNS.SecurityGroup.Names.support</code>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VCNS.SecurityGroup.Names.<blueprint_name></code>	When using NSX, specifies the Edge Pool with which to associate the blueprint.
<code>VCNS.SecurityTag.Names.<name></code>	<p>Specifies the NSX security tag or tags to which the virtual machine is associated during provisioning. The value is a security tag name or a list of names separated by commas. Names are case-sensitive.</p> <p>Appending a name allows you to create multiple versions of the property, which can be used separately or in combination. For example, the following properties can list security tags intended for general use, for the sales force, and for support:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>VCNS.SecurityTag.Names</code> ■ <code>VCNS.SecurityTag.Names.sales</code> ■ <code>VCNS.SecurityTag.Names.support</code>
<code>VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent</code>	If the guest agent is installed as a service on a template for cloning, set to True on the machine blueprint to enable the guest agent service on machines cloned from that template. When the machine is started, the guest agent service is started. Set to False to disable the guest agent. If set to False, the enhanced clone workflow will not use the guest agent for guest operating system tasks, reducing its functionality to VMwareCloneWorkflow . If not specified or set to anything other than False, the enhanced clone workflow sends work items to the guest agent.
<code>VirtualMachine.Admin.NameCompletion</code>	Specifies the domain name to include in the fully qualified domain name of the machine that the RDP or SSH files generate for the user interface options [Connect Using RDP] or [Connect Using SSH] option. For example, set the value to myCompany.com to generate the fully qualified domain name <my-machine-name>.myCompany.com in the RDP or SSH file.
<code>VirtualMachine.Admin.ConnectAddress</code>	Specifies the RDP connection address of the machine to which an RDP file is downloaded when the user interface option [Connect Using RDP] is used or attached to automatic emails. Do not use in a blueprint or property group unless you require the user to be prompted and you have not supplied a default value.
<code>VirtualMachine.Admin.ConnectAddress.Regex</code>	Used by a vRealize Automation administrator to define a regular expression to match an IP address for terminal connections, such as an RDP connection. If matched, the IP address is saved under the VirtualMachine.Admin.ConnectAddress custom property. Otherwise, the first available IP address is designated. For example, setting the property value to 10.10.0. allows selection of an IP address from a 10.10.0.* subnet that is assigned to the virtual machine. If the subnet has not been assigned, the property is ignored. This property is available for use with Openstack.
<code>VirtualMachine.Admin.ThinProvision</code>	Determines whether thin provisioning is used on ESX compute resources using local or iSCSI storage. Set to True to use thin provisioning. Set to False to use standard provisioning. This property is for virtual provisioning.

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay</code>	Specifies the time to wait after customization is complete and before starting the guest operating system customization. The value must be in HH:MM:SS format. If the value is not set, the default value is one minute (00:01:00). If you choose not to include this custom property, provisioning can fail if the virtual machine reboots before guest agent work items are completed, causing provisioning to fail.
<code>VirtualMachine.Admin.NetworkInterfaceType</code>	Indicates the network adapter type that is supported and emulated by the guest operating system. Use to create a new virtual machine and assign a specific adapter type for a template cloning operation. Use to modify the network settings of a newly provisioned virtual machine. The following options are available: <ul style="list-style-type: none"> ■ E1000 (default) ■ VirtIO ■ RTL8139 ■ RTL8139 VirtIO
<code>VirtualMachine.Admin.Name</code>	Specifies the generated machine name for vSphere, for example CodyVM01. When creating custom workflows or plug-ins for customizing a virtual machine name, set this property to match the name of the virtual machine. This is an internal input property for the agent to name the virtual machine. <small>注意</small> This property is for vSphere only. The value specified in the blueprint has no effect on this property. This property is not intended to be used to prompt the user. Use the HostName property to prompt the user. If the property is set at runtime, the container name that is created in the hypervisor might not match the item record name.
<code>VirtualMachine.Admin.UUID</code>	Specifies the UUID of the machine. The guest agent records the value when the machine is created. The value becomes read-only. The value in the blueprint or property group has no effect on this property.
<code>VirtualMachine.Admin.AgentID</code>	Specifies the UUID of the guest agent. The guest agent records the value when the machine is created. The value becomes read-only. The value in the blueprint or property group has no effect on this property.
<code>VirtualMachine.Admin.Owner</code>	Specifies the user name of the machine owner.
<code>VirtualMachine.Admin.Approver</code>	Specifies the user name of the group manager who approved the machine request.
<code>VirtualMachine.Admin.Description</code>	Specifies the description of the machine as entered or modified by its owner or an administrator.
<code>VirtualMachine.Admin.EncryptPasswords</code>	If set to True, specifies that the administrator passwords are encrypted.
<code>VirtualMachine.Admin.AdministratorEmail</code>	Specifies the manager email addresses or Active Directory accounts for the business group of the provisioning blueprint. Multiple email addresses are separated by a comma, for example <code>JoeAdmin@VMware.com,WeiLeeMgr@VMware.com</code> .

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</code>	Specifies the total disk space that the machine uses, including all disks as specified by the <code>VirtualMachine.DiskN.Size</code> properties and the swap file as specified by the <code>VMware.Memory.Reservation</code> property.
<code>VirtualMachine.Admin.Hostname</code>	<p>Informs the administrator which host is used for provisioning the machine on the endpoint. The specified value is implemented on the machine and is populated during data collection. For example, if the compute resource of a machine is changed, a proxy agent updates the value of the machine's <code>VirtualMachine.Admin.Hostname</code> property.</p> <p>注意 This is an internal output property from the agent that is populated during the data collection process and identifies the host on which a machine resides.</p>
<code>VirtualMachine.Admin.ClusterName</code>	<p>Informs the administrator which cluster contains the compute resource for the machine to use.</p> <p>注意 This is an internal output property from the agent that is populated during the data collection process and identifies the cluster in which a machine resides.</p>
<code>VirtualMachine.Admin.ApplicationID</code>	List the application IDs that can be assigned to a machine.
<code>VirtualMachine.Admin.AddOwnerToAdmins</code>	<p>Set to True (default) to add the machine's owner, as specified by the <code>VirtualMachine.Admin.Owner</code> property, to the local administrators group on the machine.</p> <p>This property is not available for provisioning by cloning.</p>
<code>VirtualMachine.Admin.AllowLogin</code>	Set to True (default) to add the machine owner to the local remote desktop users group, as specified by the <code>VirtualMachine.Admin.Owner</code> property.
<code>VirtualMachine.Admin.DiskInterfaceType</code>	<p>Indicates the type of disk drivers. The following disk drivers are supported:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ IDE (default) ■ VirtIO <p>This property is for virtual provisioning.</p>
<code>VirtualMachine.Admin.EagerZero</code>	<p>When set to true, specifies that the machine disks are provisioned using the VMware provisioning format of eager zero.</p> <p>Thick provision eager zero is a type of thick virtual disk that supports clustering features such as fault tolerance. Space required for the virtual disk is allocated at creation time. In contrast to the flat format, the data remaining on the physical device is zeroed out when the virtual disk is created. It might take much longer to create disks in this format than to create other types of disks.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.Admin.ForceHost</code>	<p>Specifies the name of the ESX host. The property is only honored if <code>VirtualMachine.Admin.HostSelectionPolicy</code> is set to EXACT_MATCH.</p> <p>注意 This property is for vSphere only.</p> <p>When provisioning against a vSphere cluster, you can use the <code>VirtualMachine.Admin.ForceHost</code> property to specify the host on which a machine is to be provisioned. This property is used only if DRS is not set to automatic for the cluster. If the cluster has DRS enabled and is set to Automatic, vSphere relocates the provisioned machine when the machine is restarted.</p>
<code>VirtualMachine.Admin.HostSelectionPolicy</code>	<p>Optionally set to EXACT_MATCH to require the machine to be placed on the host specified by the <code>VirtualMachine.Admin.ForceHost</code> property. If the host is unavailable, the request results in a failure. If a host is not specified, the next best available host is selected. If set to EXACT_MATCH, an error occurs if the specified host does not have enough memory or is in maintenance mode.</p> <p>注意 This property applies to vSphere only.</p>
<code>VirtualMachine.Agent.CopyToDisk</code>	<p>Set to True (default) to copy the guest agent executable file to <code>%System-Drive%\VRM\Build\Bin</code> on the machine's disk.</p>
<code>VirtualMachine.Agent.GuiRunOnce</code>	<p>Set to True to include guest agent execution in the <code>SysPrep.inf</code> run once section. Set to False for the Linux agent to stop the provisioning workflow.</p>
<code>VirtualMachine.Agent.Reboot</code>	<p>Set to True (default) to specify that the guest agent restarts the machine following installation of the guest operating system.</p>
<code>VirtualMachine.CDRom.Attach</code>	<p>Set to False to provision the machine without a CD-ROM device. The default is True.</p>
<code>VirtualMachine.CPU.Count</code>	<p>Specifies the number of CPUs, for example 2, allocated to a machine. The default is the value specified by the CPU setting on the blueprint.</p> <p>注意 This custom property value is overridden by the CPU value on the blueprint when the machine is first provisioned.</p>
<code>VirtualMachine.Customize.WaitComplete</code>	<p>Set to True to prevent the provisioning workflow from sending work items to the guest agent until all customizations are complete.</p>
<code>VirtualMachine.Core.Count</code>	<p>If set to a value greater than zero, specifies the number of cores per socket when provisioning the virtual machine.</p> <p>You can use this property on a blueprint to specify cores per virtual socket or total number of sockets. For example, your licensing terms might restrict software that is licensed per socket or available operating systems only recognize so many sockets and additional CPUs must be provisioned as additional cores.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.DiskN.Letter</code>	Specifies the drive letter or mount point of a machine's disk N. The default is C. For example, to specify the letter D for Disk 1, define the custom property as <code>VirtualMachine.Disk1.Letter</code> and enter the value D. Disk numbering must be sequential. When used in conjunction with a guest agent, this value specifies the drive letter or mount point under which an additional disk <N> is mounted by the guest agent in the guest operating system.
<code>VirtualMachine.DiskN.Size</code>	Defines the size in GB of disk <N>. For example, to give a size of 150 GB to a disk G, define the custom property <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> and enter a value of 150. Disk numbering must be sequential. By default a machine has one disk referred to by <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> , where size is specified by the storage value on the blueprint from which the machine is provisioned. The storage value on the blueprint user interface overwrites the value in the <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> property. The <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> property is not available as a custom property because of its relationship with the storage option on the blueprint. More disks can be added by specifying <code>VirtualMachine.Disk1.Size</code> , <code>VirtualMachine.Disk2.Size</code> and so on. <code>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</code> always represents the total of the <code>.DiskN.Size</code> properties plus the <code>VMware.Memory.Reservation</code> size allocation.
<code>VirtualMachine.DiskN.IsFixed</code>	Disables the editing of a specific disk when reconfiguring a machine. Set to True to disable display of the edit capacity option for a specific volume. The True value is case-sensitive. The <N> value is the 0-based index of the disk. Alternatively, you can set the <code>VirtualMachine.Disk<N>.IsFixed</code> custom property to True in the <code>VirtualMachineProperties</code> table in the database or use the Repository API to specify a URI value such as <code>../Repository/Data/ManagementModelEntities.svc/VirtualMachines(guid'60D93A8A-F541-4CE0-A6C6-78973AC0F1D2')/VirtualMachineProperties.</code>
<code>VirtualMachine.DiskN.Label</code>	Specifies the label for a machine's disk <N>. The disk label maximum is 32 characters. Disk numbering must be sequential. When used with a guest agent, specifies the label of a machine's disk <N> inside the guest operating system.
<code>VirtualMachine.DiskN.Active</code>	Set to True (default) to specify that the machine's disk <N> is active. Set to False to specify that the machine's disk <N> is not active.
<code>VirtualMachine.DiskN.FS</code>	Specifies the file system of the machine's disk <N>. The options are NTFS (default), FAT and FAT32.
<code>VirtualMachine.DiskN.Percent</code>	Specifies the percentage of the disk <N> to be formatted by a guest agent for the machine's use. That machine cannot use the remaining portion of the disk.

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy</code>	<p>Specifies the storage reservation policy to use to find storage for disk <N>. Also assigns the named storage reservation policy to a volume. To use this property, substitute the volume number for <N> in the property name and specify a storage reservation policy name as the value. This property is equivalent to the storage reservation policy name specified on the blueprint. Disk numbering must be sequential. This property is valid for all Virtual and vCloud reservations. This property is not valid for Physical, Amazon, or OpenStack reservations.</p> <p>You can use <code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicyMode</code> to prevent provisioning from failing if there is insufficient space on the datastores in a storage reservation policy. Use this custom property to allow vRealize Automation to select a datastore outside the specified storage reservation policy in cases where there is not sufficient space remaining on the datastores in the policy.</p>
<code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicyMode</code>	<p>Allocates disk <N> to the best available storage reservation policy.</p>
<code>VirtualMachine.DiskN.Storage</code>	<p>Specifies the datastore on which to place the machine disk <N>, for example DATASTORE01. This property is also used to add a single datastore to a linked clone blueprint. <N> is the index (starting at 0) of the volume to assign. Enter the name of the datastore to assign to the volume. This is the datastore name as it appears in the Storage Path on the Edit Compute Resource page. Disk numbering must be sequential.</p>
<code>VirtualMachine.EPI.Type</code>	<p>Specifies the type of external provisioning infrastructure.</p> <p>Set to BMC for BMC BladeLogic integration.</p> <p>Set to CitrixProvisioning for Citrix provisioning server integration.</p>
<code>VirtualMachine.EULA.AcceptAll</code>	<p>Set to true to specify that all the EULAs for the VM templates of the vCloud Air or vCloud Director endpoints are accepted during provisioning.</p>
<code>VirtualMachine.Host.TpmEnabled</code>	<p>Limits virtual machine placement to hosts that have a Trust Protection Module (TPM) device installed and recognized by ESX and vSphere. The default value is False.</p> <p>All hosts in a cluster must have a Trust Protection Module device installed. If no acceptable hosts or clusters are found, the machine cannot be provisioned until this property is removed.</p>
<code>VirtualMachine.Memory.Size</code>	<p>Specifies the size of the machine's memory in MB, such as 1024. The default is the value specified by the memory setting on the blueprint.</p> <p>注意 This custom property setting is overridden by the memory setting on the blueprint when the machine is first provisioned.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.NetworkN.Address</code>	<p>Specifies the IP address of network device <N> in a machine provisioned with a static IP address.</p> <p>VirtualMachine.Network<N> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.AdditionAddress<M></code>	<p>Defines additional <M> IP address allocated for an Openstack instance for network <N>, excluding the IP address set specified by the VirtualMachine.Network<N>.Address property. More addresses are displayed on the Network tab in the Additional Addresses column.</p> <p>This property is used by Openstack machine state data collection. While this property is only data-collected by the OpenStack endpoint, it is not specific to OpenStack and can be used for lifecycle extensibility by other endpoint types.</p> <p>This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.AddressType</code>	<p>Specifies how IP address allocation is supplied to the network provider, where Network<N> is the network number, starting with 0. The following values are available:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DHCP ■ Static ■ MANUAL (available for vCloud Air and vCloud Director only) <p>The MANUAL value also requires that you specify an IP address.</p> <p>This property is available for configuring vCloud Air, vCloud Director, and vSphere machine components in the blueprint. Also see VirtualMachine.NetworkN.Name. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</code>	<p>Indicates whether the MAC address of network device <N> is generated or user-defined (static). This property is available for cloning.</p> <p>The default value is generated. If the value is static, you must also use VirtualMachine.NetworkN.MacAddress to specify the MAC address.</p> <p>VirtualMachine.Network<N> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddress</code>	<p>Specifies the MAC address of a network device <N>. This property is available for cloning.</p> <p>If the value of <code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</code> is generated, this property contains the generated address.</p> <p>If the value of <code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</code> is static, this property specifies the MAC address. For virtual machines provisioned on ESX server hosts, the address must be in the range specified by VMware. For details, see vSphere documentation.</p> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code>	<p>Specifies the name of the network to connect to, for example the network device <N> to which a machine is attached. This is equivalent to a network interface card (NIC).</p> <p>By default, a network is assigned from the network paths available on the reservation on which the machine is provisioned. Also see <code>VirtualMachine.NetworkN.AddressType</code>.</p> <p>You can ensure that a network device is connected to a specific network by setting the value of this property to the name of a network on an available reservation. For example, if you give properties for N= 0 and 1, you get 2 NICs and their assigned value, provided the network is selected in the associated reservation.</p> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p> <p>You can add this property to a vCloud Air or vCloud Director machine component in a blueprint. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.PortID</code>	<p>Specifies the port ID to use for network device <N> when using a dvPort group with a vSphere distributed switch.</p> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation. This property is not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code>	<p>Specifies the name of a network profile from which to assign a static IP address to network device <N> or from which to obtain the range of static IP addresses that can be assigned to network device <N> of a cloned machine, where <N>=0 for the first device, 1 for the second, and so on.</p> <p>When you use the <code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code> property, the network profile it points to is used to allocate an IP address. However, the provisioned machine is attached to any network that is selected in the reservation using a round-robin fashion model. Changing this property value after the network is assigned has no effect on the expected IP address values for the designated machines.</p> <p>With WIM-based provisioning for virtual machines, you can use this property to specify a network profile and network interface or you can use the Network section of the Virtual Reservation page. You can also assign the network interface to a virtual network using the <code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code> custom property.</p> <p>The following attributes of the network profile are available to enable static IP assignment in a cloning blueprint:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.Secondarywins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</code> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p> <p>You cannot use this custom property to define an on-demand NAT or on-demand routed network profile name. Because on-demand network profile names are generated at allocation time (during provisioning), their names are unknown when creating or editing the blueprint. To specify NSX on-demand network information, use the applicable network component in the blueprint design canvas for your vSphere machine components.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<ul style="list-style-type: none"> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</code> ■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</code> 	<p>Configures attributes of the network profile specified in <code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code>.</p> <p><code>VirtualMachine.Network<N></code> custom properties are specific to individual blueprints and machines. When a machine is requested, network and IP address allocation is performed before the machine is assigned to a reservation. Because blueprints are not guaranteed to be allocated to a specific reservation, do not use this property on a reservation.</p> <p>When specifying values for multiple DNS search suffixes using <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</code>, you can use commas to separate values for a Windows deployment. These properties are not supported for on-demand NAT or on-demand routed networks.</p>
<code>VirtualMachine.Rdp.File</code>	<p>Specifies the RDP file that contains settings to be used when opening an RDP link to the machine. Can be used together with, or as an alternative to, <code>VirtualMachine.Rdp.Setting<N></code>. The file must be located in the vRealize Automation server installation directory, for example <code>%SystemDrive%\Program Files x86\VMware\VCAC\Server\Rdp\console.rdp</code>.</p> <p>You must create the Rdp directory.</p>
<code>VirtualMachine.Rdp.SettingN</code>	<p>Configures specific RDP settings. <N> is a unique number used to distinguish one RDP setting from another. For example, to specify the Authentication Level so that no authentication requirement is specified, define the custom property <code>VirtualMachine.Rdp.Setting1</code> and set the value to <code>authentication level::3</code>. Use to open an RDP link to specify settings.</p> <p>For a list of available settings and correct syntax, see the Microsoft Windows RDP documentation.</p>
<code>VirtualMachine.Reconfigure.DisableHotCpu</code>	<p>Set to true to specify that the reconfigure machine action restarts the specified machine. By default, the reconfigure machine action does not restart the machine.</p> <p>Performing a hot add of CPU, memory, or storage causes the reconfigure machine action to fail and not to restart the machine unless the Hot Add setting is enabled in vSphere for the machine or template. You can add <code>VirtualMachine.Reconfigure.DisableHotCpu=true</code> to a machine component in a vRealize Automation blueprint to disable the Hot Add setting and force the machine to restart regardless of the vSphere Hot Add setting. The custom property is only available for machine types that support hardware reconfiguration, which are vSphere, vCloud Air, and vCloud Director.</p>
<code>VirtualMachine.Request.Layout</code>	<p>Specifies the property layout to be used in the virtual machine request page. The value must match the name of the layout to be used.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
VirtualMachine.SoftwareN.Name	<p>Specifies the descriptive name of a software application <N> or script to install or run during provisioning. This is an optional and information-only property. It serves no real function for the enhanced clone workflow or the guest agent but it is useful for a custom software selection in a user interface or for software use reporting.</p>
VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath	<p>Specifies the full path to an application's install script. The path must be a valid absolute path as seen by the guest operating system and must include the name of the script filename.</p> <p>You can pass custom property values as parameters to the script by inserting {<CustomPropertyName>} in the path string. For example, if you have a custom property named ActivationKey whose value is 1234, the script path is D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey}. The guest agent runs the command D:\InstallApp.bat -key 1234. Your script file can then be programmed to accept and use this value.</p> <p>You can also pass custom property values as parameters to the script by inserting {<YourCustomProperty>} in the path string. For example, entering the value \\vra-scripts.mycompany.com\scripts\changeIP.bat runs the changeIP.bat script from a shared location, but entering the value \\vra-scripts.mycompany.com\scripts\changeIP.bat {VirtualMachine.Network0.Address} runs the changeIP script but also passes the value of the VirtualMachine.Network0.Address property to the script as a parameter.</p> <p>Insert {Owner} to pass the machine owner name to the script.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt	<p>Allows vRealize Automation to obtain an encrypted string that is passed as a properly formatted VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath custom property statement to the gugent command line.</p> <p>You can provide an encrypted string, such as your password, as a custom property in a command-line argument. This allows you to store encrypted information that the guest agent can decrypt and understand as a valid command-line argument. For example, the VirtualMachine.Software0.ScriptPath = c:\dosomething.bat <password> custom property string is not secure as it contains an actual password.</p> <p>To encrypt the password, you can create a vRealize Automation custom property, for example MyPassword = password, and enable encryption by selecting the available check box. The guest agent decrypts the [MyPassword] entry to the value in the custom property MyPassword and runs the script as c:\dosomething.bat password.</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Create custom property MyPassword = <password> where <password> is the value of your actual password. Enable encryption by selecting the available check box. ■ Set custom property VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt as VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt = true. ■ Set custom property VirtualMachine.Software0.ScriptPath as VirtualMachine.Software0.ScriptPath = c:\dosomething.bat [MyPassword]. <p>If you set VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt to false, or do not create the VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt custom property, then the string inside the square brackets ([and]) is not decrypted.</p>
VirtualMachine.SoftwareN.ISOName	<p>Specifies the path and filename of the ISO file relative to the datastore root. The format is </folder_name/subfolder_name/file_name>.iso. If a value is not specified, the ISO is not mounted.</p>
VirtualMachine.SoftwareN.ISOLocation	<p>Specifies the storage path that contains the ISO image file to be used by the application or script. Format the path as it appears on the host reservation, for example netapp-1:it_nfs_1. If a value is not specified, the ISO is not mounted.</p>
VirtualMachine.Storage.Name	<p>Identifies the storage path on which the machine resides. The default is the value specified in the reservation that was used to provision the machine.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VirtualMachine.Storage.AllocationType</code>	Stores collected groups to a single datastore. A distributed environment stores disks round-robin style.
<code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Enabled</code>	If set to True, the storage cluster automation on the machine is enabled. If set to False, then storage cluster automation is disabled on the machine. The storage cluster automation type is determined by the <code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Behavior</code> custom property.
<code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Behavior</code>	Specifies an SDRS behavior type when <code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Enabled</code> is set to True. The available behavior type values are automated or manual. The <code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Enabled</code> and <code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Behavior</code> properties are set after the machine is provisioned and after inventory data collection is finished. If automation is disabled, <code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Behavior</code> is not present on the machine.
<code>VirtualMachine.Storage.ReserveMemory</code>	Set to True to manage vSwap storage allocation to ensure availability and set allocation in the reservation. vSwap allocation is considered when you create or reconfigure a virtual machine. vSwap allocation checking is only available for vSphere endpoints. 注意 If you do not specify the <code>VirtualMachine.Storage.ReserveMemory</code> custom property when you create or provision the machine from vRealize Automation, swap space availability is not ensured. If you add the property for an already provisioned machine, and the allocated reservation is full, the storage allocated in the reservation might exceed the actual allocated storage.
<code>VirtualMachine.VDI.Type</code>	Specifies the type of virtual desktop infrastructure. For XenDesktop provisioning, set to XenDesktop.
<code>VMware.AttributeN.Name</code>	Specifies the name of an attribute in vRealize Orchestrator. For example, it specifies the value of the attribute used in the <code>VMware.AttributeN.Name</code> property. Replace the letter <N> with a number, starting with 0 and increasing for each attribute to set.
<code>VMware.AttributeN.Value</code>	Specifies the value of the attribute used in the <code>VMware.AttributeN.Name</code> property. Replace the letter <N> with a number, starting with 0 and increasing for each attribute to set.
<code>VMware.Endpoint.Openstack.IdentityProvider.Version</code>	Specifies the version of Openstack Identity provider (Keystone) to use when authenticating an Openstack endpoint. Configure a value of 3 to authenticate with Keystone version 3 OpenStack Identity Provider. If you use any other value, or do not use this custom property, authentication defaults to Keystone version 2.

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VMware.Endpoint.Openstack.Release</code>	Deprecated. Specifies the OpenStack release, for example Havana or Icehouse, when creating an OpenStack endpoint. Required for 6.2.1, 6.2.2, and 6.2.3 OpenStack provisioning.
<code>VMware.Hardware.Version</code>	Specifies the VM hardware version to be used for vSphere settings. Supported values are currently vmx-04, vmx-07, vmx-08, vmx-09 and vmx-10. This property is applicable for VM Create and VM Update workflows and is available only for basic workflow blueprints.
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	Specifies the vCenter Server guest operating system version (VirtualMachineGuestOsIdentifier) with which vCenter Server creates the machine. This operating system version must match the operating system version to be installed on the provisioned machine. Administrators can create property groups using one of several property sets, for example, VMware[OS_Version]Properties , that are predefined to include the correct VMware.VirtualCenter.OperatingSystem values. This property is for virtual provisioning. When this property has a non-Windows value, the [Connect Using RDP] user interface option is disabled. The property can be used in a virtual, cloud or physical blueprint. For related information, see the enumeration type VirtualMachineGuestOsIdentifier in vSphere API/SDK Documentation. For a list of currently accepted values, see the vCenter Server documentation.
<code>VMware.SCSI.Type</code>	For vCloud Air, vCloud Director, or vSphere machine components in blueprints, specifies the SCSI machine type using one of the following case-sensitive values: <ul style="list-style-type: none"> ■ buslogic Use BusLogic emulation for the virtual disk. ■ lsilogic Use LSILogic emulation for the virtual disk (default). ■ lsilogicsas Use LSILogic SAS 1068 emulation for the virtual disk. ■ pvscsi Use para-virtualization emulation for the virtual disk. ■ none Use if a SCSI controller does not exist for this machine. The VMware.SCSI.Type property is not available for use with the CloneWorkflow provisioning workflow. If you specify the CloneWorkflow provisioning workflow when configuring your machine component in the blueprint design canvas, you cannot use the VMware.SCSI.Type property.

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VMware.SCSI.Sharing</code>	<p>Specifies the sharing mode of the machine's VMware SCSI bus. Possible values are based on the <code>VirtualSCSISharing</code> ENUM value and include <code>noSharing</code>, <code>physicalSharing</code>, and <code>virtualSharing</code>. If you specify the <code>CloneWorkflow</code> provisioning workflow when configuring your machine component in the blueprint design canvas, the <code>VMware.SCSI.Sharing</code> property is not available. The <code>VMware.SCSI.Sharing</code> property is not available for use with the <code>CloneWorkflow</code> provisioning workflow. If you specify the <code>CloneWorkflow</code> provisioning workflow when configuring your machine component in the blueprint design canvas, you cannot use the <code>VMware.SCSI.Sharing</code> property.</p>
<code>VMware.Memory.Reservation</code>	<p>Specifies the size of the machine's swap file, for example 1024.</p>
<code>VMware.Network.Type</code>	<p>Specifies the network to connect the VM as specified in the reservation. The network adapter on the machine must be connected to a unique network. The following adapter type values are available:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Flexible (default) ■ VirtualPCNet32 (not compatible with vSphere). ■ E1000 or VirtualE1000 ■ VMXNET or VirtualVMXNET ■ VMXNET2 ■ VMXNET3 <p>Set to E1000 when provisioning Windows 32-bit virtual machines on ESX server hosts to ensure that machines are created with the correct network adapter. This property is not used for physical provisioning.</p>
<code>VMware.VCenterOrchestrator.EndpointName</code>	<p>Overrides a specified endpoint setting or specifies that a particular endpoint be used during the vRealize Automation IaaS provisioning process. The value of this property can be set to an applicable vRealize Orchestrator endpoint, such as external VRO, available in the environment.</p>
<code>VMware.VirtualCenter.Folder</code>	<p>Specifies the name of the inventory folder in the data center in which to put the virtual machine. The default is VRM, which is also the vSphere folder in which vRealize Automation places provisioned machines if the property is not used. This value can be a path with multiple folders, for example <code>production\email servers</code>. A proxy agent creates the specified folder in vSphere if the folder does not exist. Folder names are case-sensitive. This property is available for virtual provisioning.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
VDI.Server.Website	<p>Specifies the server name of the Citrix Web interface site to use in connecting to the machine. If the value of VDI.Server.Name is a XenDesktop farm, this property must have an appropriate value or the machine owner cannot connect to the machine using XenDesktop. If this property is not specified, the VDI.Server.Name property determines the desktop delivery controller to connect to, which must be the name of a server that hosts a desktop delivery controller.</p> <p>注意 If the Citrix Web Interface (WI) has been replaced with StoreFront (SF), you can use this property instead of VDI.Server.Name to connect to the XenDesktop server. An example value is VDI.Server.Website=sqa-xddc-7.sqa.local/Citrix/StoreWeb. See VDI.Server.Name for more information.</p>
VDI.Server.Name	<p>Specifies the server name, which hosts the desktop delivery controller, to register with, or the name of a XenDesktop farm that contains desktop delivery controllers with which to register.</p> <p>If the value is a XenDesktop farm name, the VDI.Server.Website property value must be the URL of an appropriate Citrix web interface site to use in connecting to the machine.</p> <p>If the value is a server name, and at least one general XenDesktop VDI agent was installed without specifying a desktop delivery controller server, this value directs the request to the desired server. If the value is a server name, and only dedicated XenDesktop VDI agents for specific DDC servers were installed, this value must exactly match the server name configured for a dedicated agent.</p> <p>注意 For more information about how to make StoreFront the default page in IIS, see Citrix documentation. See also VDI.Server.Website.</p> <p>注意 Changes in the Citrix web interface protocol have impacted how the VDI.Server.Name default value is recognized. The value of the VDI.Server.Name property is used as the default connection string to open the Citrix web interface when users connect to a virtual desktop. It is always the DNS/IP of the XD server. If that value does not connect to the Citrix interface, you are unable to access your VMs. However, you can use the VDI.Server.Website custom property when the Citrix web interface is hosted on a server other than the XenDesktop server. When this property is present on the VM, it is used instead of VDI.Server.Name.</p>
VDI.Server.Group	<p>For XenDesktop 5, specifies the name of the XenDesktop group to add machines to and the name of the catalog to which the group belongs, in the <group_name;catalog_name> format.</p> <p>For XenDesktop 4, specifies the name of the XenDesktop group to which machines are to be added. XenDesktop 4 preassigned groups are supported.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
<code>VDI.ActiveDirectory.Interval</code>	Specifies an optional interval value in time span format for virtual desktop infrastructure machine Active Directory registration check. The default value is 00:00:15 (15 seconds).
<code>VDI.ActiveDirectory.Timeout</code>	Specifies an optional timeout value to wait before retrying Active Directory registration. The default value is 00:00:15 (30 minutes).
<code>VDI.ActiveDirectory.Delay</code>	Specifies an optional delay time value in time span format between successfully adding a machine to Active Directory and initiation of XenDesktop registration. The default value is 00:00:05 (5 seconds).
<code>Vrm.DataCenter.Location</code>	<p>Allows you to use a blueprint to provision machines on more than one compute resource. You can add the Vrm.DataCenter.Location property to a blueprint, or enable the [Display Location on Request] option in the blueprint, to require that the user supply a datacenter location when they request machine provisioning. This property name is case-sensitive.</p> <p>注意 If you enable the [Display Location on Request] option on the blueprint, you do not need to also add the custom property.</p> <p>Datacenter locations are configured in a DataCenterLocations.xml file, which provides the location values that are applied to compute resources.</p> <p>For related information about adding datacenter locations, see vRealize Automation の構成.</p> <p>Because the Vrm.DataCenter.Location property cannot access the contents of the DataCenterLocations.xml file, you must rely on users to provide property values that match the locations provided in the DataCenterLocations.xml file.</p> <p>Use this property if you want to use the datacenter location value as input to an external action for another custom property.</p>
<code>Vrm.DataCenter.Policy</code>	<p>Specifies whether provisioning must use a compute resource associated with a particular location, or if any location is suitable. To enable this feature, you must add data center to a location file. Associate each compute resource with a location. This property name is case-sensitive.</p> <p>Set to Exact (default) to provision a requested machine on a compute resource associated with the location specified on the blueprint. The request fails if no reservations match the requested location. If the property is not present, the Exact default is used.</p> <p>Set to NonExact to provision a requested machine on a compute resource with sufficient capacity and associated with the location specified on the blueprint. If that compute resource is not available, then use the next available compute resource with sufficient capacity without regard to location.</p>

表 3-14. Custom Properties V Table (続き)

Property	Description
Vrm.Software.Id<NNNN> This row is specific to BMC BladeLogic.	Specifies a software job or policy to be applied to all machines provisioned from the blueprint. Set the value to job_type=job_path , where job_type is the numeral that represents the BMC BladeLogic job type and job_path is the location of the job in BMC BladeLogic, for example 4=/Utility/putty . <NNNN> is a number from 1000 to 1999. The first property must start with 1000 and increment in numerical order for each additional property. 1 – AuditJob 2 – BatchJob 3 – ComplianceJob 4 – DeployJob 5 – FileDeployJob 6 – NSHScriptJob 7 – PatchAnalysisJob 8 – SnapshotJob
Vrm.Software.Id<NNNN> This row is specific to HP Server Automation.	(Optional) Specifies an HP Server Automation policy to be applied to all machines provisioned from the blueprint. <NNNN> is a number from 1000 to 1999. The first property must start with 1000 and increment in numerical order for each additional property.

カスタム プロパティ X テーブル

このセクションでは、X で始まる vRealize Automation のカスタム プロパティを示します。

表 3-15. カスタム プロパティ X テーブル

プロパティ	説明
Xen.Platform.Viridian	仮想プロビジョニングの場合、XenServer ホストまたはプールで Windows 仮想マシンをプロビジョニングするときには False に設定します。デフォルトは True です。このプロパティは、物理プロビジョニングで使用されません。

プロパティ ディクショナリの使用

プロパティ ディクショナリを使用して、新しいカスタム プロパティ定義とプロパティ グループを定義できます。

プロパティは、特定のデータ タイプと、そのデータ タイプ内での表示制御スタイルをサポートするために定義します。再利用可能なプロパティ グループを作成して、複数のプロパティの追加を簡素化することもできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [プロパティ定義の使用 \(P. 87\)](#)
- [プロパティ グループの使用 \(P. 105\)](#)

プロパティ定義の使用

vRealize Automation には、多くのカスタム プロパティが用意されています。さらに、新しいプロパティを定義して一意のカスタム プロパティを作成し、マシンのプロビジョニングをより適切に制御することもできます。

プロパティをブループリントまたは予約に追加する場合、プロパティ値を指定するプロンプトを表示するかどうか、およびプロパティ値を暗号化するかどうかを設定できます。

また、プロパティの表示方法を指定できます。たとえば、カスタムの vRealize Orchestrator ワークフローから取得した値をチェック ボックスとして表示するか、ドロップダウン メニューとして表示するかを指定できます。

またプロパティを使用して、カスタム ワークフローがどのように機能するかを制御することもできます。vRealize Automation Designer を使用してカスタム ワークフローの定義や操作を行う方法の詳細については、『ライフ サイクルの拡張性』を参照してください。

プロパティ定義の命名に関するベスト プラクティス

指定した vRealize Automation カスタム プロパティと命名が競合しないようにするため、作成したすべてのプロパティ名に、標準的で意味のあるプリフィックスを使用します。すべての新しいプロパティ名で、会社名または機能名などの後ろにドットを付けたプリフィックスを使用します。VMware で予約したプロパティ名にはすべて、ドット (.) が含まれていません。この推奨に従わないプロパティ名は、vRealize Automation カスタム プロパティと競合する場合があります。この場合、vRealize Automation のカスタム プロパティは、作成したプロパティ定義よりも優先されます。

制限事項

Type が String、Display が Dropdown のプロパティ定義を作成し、ドロップダウン リストに設定されるプロパティを返す vRealize Orchestrator アクションを使用した場合、リストの値の順序はランダムになります。順序を指定することはできません。

一般的な手順

次の手順は、一般的な新しいプロパティ定義の作成および使用方法です。

- 1 新しいプロパティ定義を作成して、その定義を、真偽値や整数値のコンテンツなど、特定タイプのコンテンツで使用できるデータタイプに関連付けます。<my_grouping_prefix>.<my_property_name> などの新しいプロパティ名には標準命名規則を使用します。
- 2 プロパティ定義を、チェック ボックスやドロップダウン メニューなどの表示タイプに関連付けます。使用可能な表示タイプは、選択したデータタイプに基づいて生成されます。
- 3 プロパティをブループリントに個別に追加するか、プロパティ グループの一部として追加します。
プロパティをブループリントに追加して、プロパティ値が暗号化される必要があるかどうかを指定します。
プロパティをブループリントに追加して、プロパティ値を指定するプロンプトをユーザーに表示する必要があるかどうかを指定します。
- 4 マシン申請者として、プロンプトに対して必要な値を指定します。

vRealize Orchestrator のスクリプト アクションを使用してプロパティ値をドロップダウン メニューに設定することもできます。vRealize Orchestrator のスクリプト アクションを使用すると、別のプロパティに指定された値に基づいてドロップダウン メニューの値を設定することもできます。

vra content list --type property-definition vRealize CloudClient コマンドを使用すると、現在の vRealize Automation インスタンス テナントのすべてのプロパティ定義を一覧表示できます。また、**vra content list --type property-group** vRealize CloudClient コマンドを使用すると、すべてのプロパティ グループを一覧表示できます。プロパティ定義とプロパティ グループの一部またはすべてをパッケージに追加し、そのパッケージを zip ファイル形式でエクスポートできます。また、エクスポートしたパッケージは、別の vRealize Automation インスタンス テナントにインポートできます。vRealize CloudClient とその使用方法の詳細については、VMware Developer Center (<https://developercenter.vmware.com/tool/cloudclient>) を参照してください。

カスタム プロパティ定義の作成とテスト

カスタム プロパティが vRealize Automation にどのように表示されるかを決定するカスタム プロパティ定義を作成します。カスタム プロパティによってチェック ボックス、ドロップダウン メニュー、またはその他のコントロールタイプが想定どおりに表示されることを確認できるように、カスタム プロパティをブループリントに追加することができます。

カスタム プロパティ定義を作成してテストするには、自分自身または、自分がアクセスできるテスト ユーザーのアカウントに対してすでに資格が付与されているブループリントが必要です。このテスト用ブループリントを使用すると、カスタム プロパティを作成してブループリントに追加したうえで、カスタム プロパティが想定どおりに表示されることを確認することができます。カスタム プロパティの検証後、必要に応じて本番環境のブループリントに追加できます。

開始する前に

- アクションの追加先となるブループリントが存在することを確認します。『vRealize Automation の構成』を参照してください。
- ブループリント内のカスタム プロパティをテストできるように、ブループリントが自分に対して資格付与されていることを確認します。『vRealize Automation の構成』を参照してください。
- テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

1 [カスタム プロパティ定義の作成](#) (P. 89)

カスタム プロパティが vRealize Automation にどのように表示されるかを決定するカスタム プロパティ定義を作成します。本番環境のブループリントに追加する前に、カスタム プロパティをテスト用のブループリントで検証できます。

2 ブループリントへのカスタム プロパティの追加 (P. 97)

カスタム プロパティは、vRealize Automation の多くの部分、たとえば、承認ポリシー、ビジネス グループ、エンドポイント、予約ポリシーなどに追加できます。ただし、プロパティ定義として構成する表示オプションがサポートされるのは、マシン ブループリントのみです。カスタム プロパティをブループリントに追加すると、プロパティ定義で設計されたようにそのカスタム プロパティがユーザー インターフェイスに表示されることを簡単に確認できます。

3 カタログ申請フォームのカスタム プロパティの確認 (P. 99)

vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティ定義の作成者として、カスタム プロパティをテストし、正しい値が申請フォームに表示されることを確認します。

カスタム プロパティ定義の作成

カスタム プロパティが vRealize Automation にどのように表示されるかを決定するカスタム プロパティ定義を作成します。本番環境のブループリントに追加する前に、カスタム プロパティをテスト用のブループリントで検証できます。

■ プロパティ定義の作成 (P. 89)

プロパティ定義を作成して、vRealize Automation のカスタマイズ レベルを追加することができます。プロパティ定義の作成時には、プロパティのデータ タイプ (文字列、ブール値タイプなど) を指定します。

■ 正規表現の検証を行うカスタム プロパティの作成 (P. 91)

サービス カタログのユーザーにカタログ申請フォームで検証済みデータの提供を求める場合は、正規表現を評価するカスタム プロパティ定義を作成します。

■ vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 (P. 92)

vRealize Orchestrator アクションを含むカスタム プロパティ定義を作成すると、ブループリントにカスタム プロパティを追加できるようになります。このアクションは、サービス カタログ ユーザーが申請フォームでカスタム プロパティを構成しているときに実行されます。このアクションにより、フォームに表示されているデータが取得されます。

■ カスタム プロパティのバインドによる親子関係の作成 (P. 93)

カスタム プロパティ間に親子関係を作成するには、親のプロパティを子のプロパティにバインドします。親と子の各カスタム プロパティをブループリントに追加する際、要求側ユーザーは親プロパティの値を選択します。選択された値によって子プロパティのとり得る値が決まります。

プロパティ定義の作成

プロパティ定義を作成して、vRealize Automation のカスタマイズ レベルを追加することができます。プロパティ定義の作成時には、プロパティのデータ タイプ (文字列、ブール値タイプなど) を指定します。

指定した vRealize Automation のカスタム プロパティが競合する可能性を回避するため、

<my_prefix.my_property_name1> という命名形式を使用します。たとえば、会社名や機能名など、標準的な意味のあるプリフィックスを使用し、ドット (.) の後に短くて分かりやすい名前を付けます。この推奨に従わないプロパティを作成すると、vRealize Automation 指定のカスタム プロパティと競合する場合があります。この場合、vRealize Automation のカスタム プロパティは、作成したプロパティよりも優先されます。

開始する前に

テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

1 [管理] - [プロパティ ディクショナリ] - [プロパティ定義] の順に選択します。

2 [新規] (+) をクリックします。

3 [名前] テキスト ボックスに新規プロパティ定義名を入力します。

<my_grouping_prefix>.<my_property_name> などの新しいプロパティ名には標準命名規則を使用します。

[名前] の値はプロパティの識別子 (ID) として内部的に保存されます。

- 4 [ラベル] テキスト ボックスの生成された値を受け入れます。
- [ラベル] の値には、[名前] テキスト ボックスに入力した値が自動的に設定されます。[ラベル] の値を最初に入力すると、[名前] テキスト ボックスに同一の値が入力されます。
- [ラベル] の値は、ブループリントにプロパティを追加するときなど、プロパティを要求するときにプロパティの名前としてユーザー インターフェイスに表示されます。
- [ラベル] の値には、[名前] の値よりも広範囲の文字を含めることができます。
- 5 [可視性] セクションでは、[すべてのテナント] または [このテナント] を選択してプロパティを使用できる場所を判断します。
- テナント管理者の権限のみでログインする場合、[このテナント] のみを使用できます。ファブリック管理者の権限のみでログインする場合、[すべてのテナント] のみを使用できます。
- アイテム作成後に、[すべてのテナント] または [このテナント] の設定を変更することはできません。
- 6 (オプション) [説明] テキスト ボックスにプロパティの説明を入力します。
- プロパティ定義の目的や、プロパティに関して役立つ情報を説明します。
- 7 (オプション) [表示順序] テキスト ボックスに値を入力します。
- 入力する番号が、プロパティ名を申請フォームに表示する方法を制御します。次の順序付けルールが適用されます。
- 表示順序は、[プロンプト表示] または [申請フォームに表示] の設定で設定されているプロパティにのみ適用されます。
 - 表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、表示順序がないプロパティがその後に表示されます。
 - 表示順序があるプロパティは、表示順序の値に従ってソートされます (最小値から最大値の順)。負の数値は使用できません。
 - すべてのプロパティがアルファベット順に並べられます。ただし、表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、表示順序がないプロパティはその後に表示されます。
 - 2つのプロパティの表示順序の値が同じ場合は、アルファベット順にソートされます。
- 8 [データ タイプ] ドロップダウン メニューからプロパティ定義のデータ タイプを選択します。

表 4-1. プロパティ定義のデータ タイプ

データ タイプ	説明
[真偽値]	真偽値を許可します。 表示方法のオプションは、[チェックボックス] と [はい/いいえ] です。
[日時]	日時の表示形式で入力された値を許可します。 表示方法のオプションは、[日時ピッカー] です。
[10 進数]	整数または 10 進数値を許可します。 表示方法のオプションは、[ドロップダウン]、[スライダ]、および [テキストボックス] です。
[整数]	整数値を許可します。 表示方法のオプションは、[ドロップダウン]、[スライダ]、および [テキストボックス] です。
[セキュリティで保護された文字列]	パスワードなどの、セキュリティで保護された内容または暗号化された内容を許可します。 表示方法のオプションは、[テキストボックス] です。
[文字列]	文字列値を許可します。 表示方法のオプションは、[ドロップダウン]、[電子メール]、[ハイパーリンク]、[テキスト領域]、および [テキストボックス] です。

- 9 [必須] オプションが使用可能な場合、ドロップダウン メニューから [はい] または [いいえ] を選択し、このプロパティに値を入力する必要があるかどうかを指定します。
- 10 [最小値] オプションが使用可能な場合、最小値を指定します。
- 11 [表示方法] ドロップダウン メニューから、このプロパティの表示コントロール タイプを選択します。利用可能なオプションが、[データ タイプ] の選択に基づいて表示されます。

表 4-2. プロパティ定義の表示方法のオプション

表示方法のオプション	説明
[チェックボックス]	1 つのチェック ボックス コントロールを提供します。
[日時ピッカー]	<YYYY-MM-DD> または <MM/DD/YYYY> 形式の日付と時間コントロール、および <HH:MM> 形式の時間コントロール (24 時制で表示するか AM または PM を付加) を提供します。
[ドロップダウン]	ドロップダウン メニュー コントロールを提供します。
[電子メール]	電子メール コントロールを提供します。
[ハイパーリンク]	リンク テキストとしてプロパティ表示名、URL としてプロパティ値が設定されたリンクを表示します。
[スライダ]	値の幅をスライダで制御します。
[テキスト領域]	情報を入力または表示するテキスト エリアを提供します。
[テキストボックス]	値を入力するテキスト ボックスを提供します。
[はい/いいえ]	[はい] または [いいえ] の値を指定します。

- 12 [値] 領域の [固定リスト] オプションをクリックします。
[固定リスト] 領域で [新規] をクリックして、プロパティ名と値を追加します。
- 13 (オプション) 必要に応じて [カスタムの値入力を有効化] チェック ボックスをオンにして、ユーザーが定義済みの値のほかにカスタム値も指定できるようにします。
- 14 [OK] をクリックします。
プロパティが作成され、[プロパティ定義] ページで利用可能になります。

正規表現の検証を行うカスタム プロパティの作成


サービス カタログのユーザーにカタログ申請フォームで検証済みデータの提供を求める場合は、正規表現を評価するカスタム プロパティ定義を作成します。

たとえば、特殊文字を含めない 5 ~ 10 文字のアプリケーション名または関数名を要求側ユーザーが入力する英数字テキスト ボックスを追加する場合を考えます。このシナリオでは `^[a-zA-Z0-9]{5,10}$` のような形に設定された、正規表現によるカスタム プロパティを使用します。

開始する前に

- 指定された値が想定どおりであるかを検証する正規表現となるようにします。
- テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

- 1 [管理] - [プロパティ ディクショナリ] - [プロパティ定義] の順に選択します。
- 2 [新規] アイコン () をクリックします。

3 オプションを入力します。

オプション	説明
名前	新しいプロパティ名として、 my_grouping_prefix.my_property_name のような標準の命名規則を使用した値を入力します。
ラベル	ラベルは名前に基づいて設定されます。ラベルを変更して、わかりやすい名前にすることができます。
可視性	アクションのカスタム プロパティは、現在のテナントでのみ使用できます。別のテナントで使用できるようにするには、そのテナントにログインして設定する必要があります。
説明	プロパティ定義の目的や、プロパティに関して役立つ情報を説明します。
表示順序	<p>入力する番号が、プロパティ名を申請フォームに表示する方法を制御します。次の順序付けルールが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 表示順序は、[プロンプト表示]または[申請フォームに表示]の設定で設定されているプロパティにのみ適用されます。 ■ 表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、順序インデックスのないプロパティがその後に表示されます。 ■ 表示順序があるプロパティは、順序インデックス値が最低のものから最高のものへと順にソートされます。負の値を使用することができます。 ■ すべてのプロパティがアルファベット順に並べられます。ただし、表示順序があるすべてのプロパティが表示順序のないプロパティよりも前に表示されます。 ■ 2つのプロパティの表示順序の値が同じ場合は、アルファベット順にソートされます。
データタイプ	ドロップダウンメニューで [文字列] を選択します。
必須	ドロップダウンメニューで [いいえ] を選択します。
表示方法	ドロップダウンメニューで [テキストボックス] を選択します。
有効なユーザー入力	正規表現を入力します。

4 正規表現が動作することを確認するには、テスト用テキスト ボックスに値を入力します。

5 [OK] をクリックします。

カスタム プロパティ定義がリストに追加され、ブループリントに追加できるようになります。

次に進む前に

カスタム プロパティをマシン ブループリントに追加します。「[ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)](#)」を参照してください。


vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成

vRealize Orchestrator アクションを含むカスタム プロパティ定義を作成すると、ブループリントにカスタム プロパティを追加できるようになります。このアクションは、サービス カタログ ユーザーが申請フォームでカスタム プロパティを構成しているときに実行されます。このアクションにより、フォームに表示されているデータが取得されます。

開始する前に

- 作成するカスタム プロパティの構成の詳細を確認します。「[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成 \(P. 100\)](#)」を参照してください。
- テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

- 1 [管理] - [プロパティ ディクショナリ] - [プロパティ定義] の順に選択します。
- 2 [新規] アイコン () をクリックします。

3 オプションを入力します。

オプション	説明
名前	構成の詳細を確認します。カスタム プロパティによっては、特定の名前またはフォーマットが必要な場合があります。可能な場合は、新しいプロパティ名に対して、標準の命名規則を使用します (my_grouping_prefix.my_property_name など)。
ラベル	ラベルは名前に基づいて設定されます。ラベルを変更して、わかりやすい名前にすることができます。
可視性	アクションのカスタム プロパティは、現在のテナントでのみ使用できます。別のテナントで使用できるようにするには、そのテナントにログインして設定する必要があります。
説明	プロパティ定義の目的や、プロパティに関して役立つ情報を説明します。
表示順序	<p>入力した番号によって、申請フォームのどこにプロパティ名が表示されるかが制御されます。次の順序付けルールが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 表示順序は、[プロンプト表示]または[申請フォームに表示]の設定で設定されているプロパティにのみ適用されます。 ■ 表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、順序インデックスのないプロパティがその後に表示されます。 ■ 表示順序があるプロパティは、表示順序の値に従ってソートされます (最小値から最大値の順)。負の値を使用することができます。 ■ すべてのプロパティがアルファベット順に並べられます。ただし、表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、表示順序がないプロパティはその後に表示されます。 ■ 2つのプロパティの表示順序の値が同じ場合は、アルファベット順にソートされます。

4 構成の詳細を確認し、値に何を指定する必要があるのかを判断します。

構成の詳細には、次の値が含まれています。

- データ タイプ
- 表示方法
- 値
- Action フォルダ
- スクリプト アクション
- 入力パラメータ

5 [OK] をクリックします。

カスタム プロパティ定義がリストに追加され、ブループリントに追加できるようになります。

次に進む前に

ブループリントにカスタム プロパティを追加します。カスタム プロパティをマシン プロパティとネットワーク プロパティのいずれとして追加するかは、そのプロパティによって決まります。「[ブループリントへのカスタム プロパティの追加 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

カスタム プロパティのバインドによる親子関係の作成

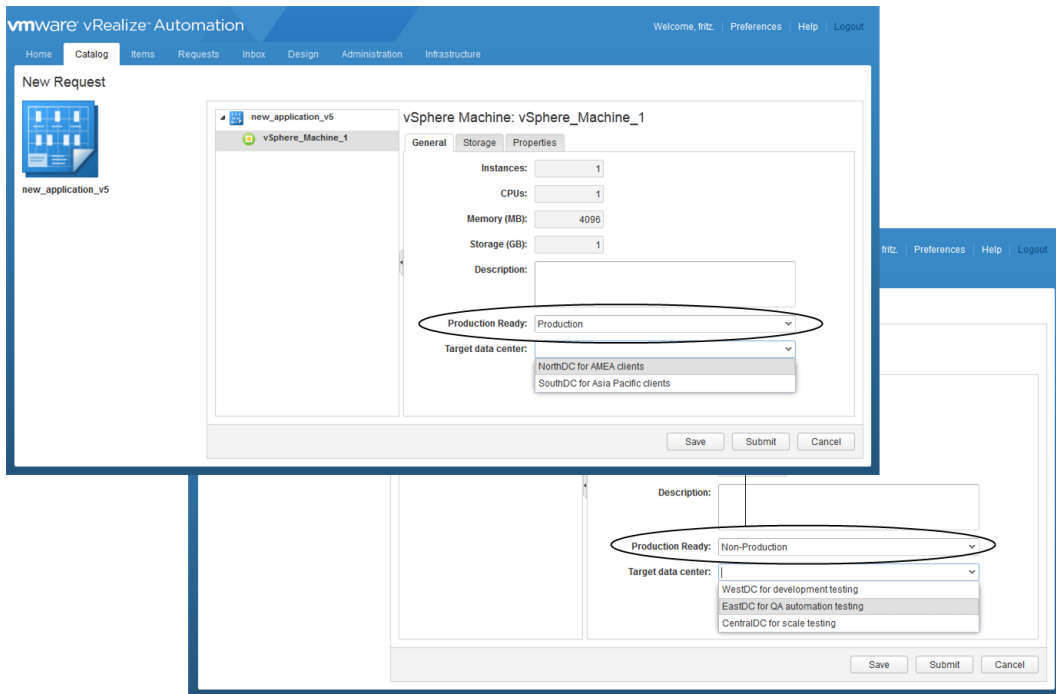
カスタム プロパティ間に親子関係を作成するには、親のプロパティを子プロパティにバインドします。親と子の各カスタム プロパティをブループリントに追加する際、要求側ユーザーは親プロパティの値を選択します。選択された値によって子プロパティのとり得る値が決まります。

- 親カスタム プロパティの定義は、固定リストにすることも、vRealize Orchestrator アクションによって決まる外部値にすることもできます。このプロパティ定義では、子プロパティ定義に対して設定可能な入力パラメータを指定します。

- 子カスタム プロパティ定義は、vRealize Orchestrator アクションを呼び出す必要があります。子カスタム プロパティでは、入力パラメータ値を指定できるように親カスタム プロパティをバインドします。

たとえば、開発チームが本番環境と非本番環境の各システムで作業を行っているとします。また、5つのデータセンターがあります。3つのデータセンターは開発テスト用のデータセンターであり、残り2つでは組織内クライアントにサービスを提供しています。テスト用データセンターと組織内クライアント用のデータセンターのどちらの環境にも同じブループリントを開発者が展開できるように、2つのカスタム プロパティ定義を作成してバインドを行います。要求側ユーザーは、最初のカスタム プロパティを使用して、本番環境または非本番環境のどちらかを選択できます。申請フォームでユーザーが選択した環境に基づき、2つ目のカスタム プロパティには下記の値のいずれかが表示されます。

- 非本番環境の3つのテスト用データセンターのリスト。
- 本番環境の2つの組織内クライアント用データセンター。



この手順の目的は、親子関係でバインドする2つのカスタム プロパティを作成することです。バインドにより、選択されている本番環境の状態に基づいて適切な場所を選択できます。

開始する前に

- この例では、場所の情報としてデータセンター名を指定する vRealize Orchestrator アクションを作成します。このアクションに `datacenters_prod` という名前をつけ、`prod` という入力パラメータを文字列タイプとして追加して、このサンプル スクリプトをアクション スクリプトに使用します。

```

if(prod == null) {
    return ['Empty1', 'Empty2'];
} else if (prod.equals('nonprod')) {
    return ['WestDC for development testing', 'EastDC for QA automation testing', 'CentralDC for scale testing'];
} else {
    return ['NorthDC for AMEA clients', 'SouthDC for Asia Pacific clients'];
}
    
```

ワークフローの開発、vRealize Orchestrator スクリプト アクションの作成および使用方法については、『VMware vCenter Orchestrator における開発』を参照してください。

- テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

- 1 ユーザーが本番環境または非本番環境を選択できるように、カスタム プロパティ定義を作成します。
 - a [管理]-[プロパティ ディクショナリ]-[プロパティ定義]の順に選択します。
 - b カスタム プロパティのオプションを設定します。



オプション	値の例
名前	production.ready
ラベル	Environment
説明	Select the production or non-production environment.
表示順序	1 ブループリントでこのカスタム プロパティが最初に表示されるように 1 を選択します。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	固定リスト
固定リスト値	以下のキーペアのペアを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Production と prod ■ Non-Production と nonprod

- c [OK] をクリックします。
production.ready カスタム プロパティの設定と追加が行われ、使用可能な状態になります。

- 2 カスタム場所アクションを実行する vRealize Orchestrator アクション カスタム プロパティ 定義を作成します。
 - a [管理]-[プロパティ ディクショナリ]-[プロパティ定義]の順に選択します。
 - b カスタム プロパティのオプションを設定します。



オプション	値の例
名前	datacenter
ラベル	Target data center
説明	Select the datacenter base on whether you are deploying a production or non-production blueprint.
表示順序	2 ブループリントでこのカスタム プロパティが production.ready カスタム プロパティの後に表示されるように 2 を選択します。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部値
スクリプト アクション	[選択] をクリックして datacenters_prod アクションを特定します。

入力パラメータ テーブルには、prod パラメータが含まれています。

- c 入力パラメータ テーブルで、prod の行を選択し、[編集] をクリックします。
- d [バインド] チェック ボックスをオンにします。
- e ドロップダウン メニューで [production.ready] を選択します。
- f [OK] をクリックします。
- g [OK] をクリックします。

このデータセンター カスタム プロパティが構成され、使用可能な状態になります。

次に進む前に

- 2つのプロパティ定義間の関係により、2つのプロパティ定義をプロパティ グループに追加します。「[プロパティ グループの作成 \(P. 106\)](#)」を参照してください。
- production-datacenter プロパティ グループをブループリントに追加します。「[ブループリント マシン プロパティ としてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

ブループリントへのカスタム プロパティの追加

カスタム プロパティは、vRealize Automation の多くの部分、たとえば、承認ポリシー、ビジネス グループ、エンドポイント、予約ポリシーなどに追加できます。ただし、プロパティ定義として構成する表示オプションがサポートされるのは、マシン ブループリントのみです。カスタム プロパティをブループリントに追加すると、プロパティ定義で設計されたようにそのカスタム プロパティがユーザー インターフェイスに表示されることを簡単に確認できます。

カスタム プロパティは、[プロパティ] タブの仮想マシン ブループリントに関連付けられているものもあれば、[ネットワーク] タブの仮想マシン ブループリントに関連付けられているものもあります。

■ [ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)](#)

カスタム プロパティをマシン カスタム プロパティとして追加すると、サービス カタログ ユーザーは、アイテムを申請するときに、値を選択または構成できるようになります。プロパティは、個々に追加することも、グループとして追加することもできます。

■ [ネットワーク カスタム プロパティとしてのカスタム プロパティの追加 \(P. 98\)](#)

カスタム プロパティをネットワーク カスタム プロパティとして追加すると、サービス カタログ ユーザーは、アイテムを申請するときに、必要なネットワーク プロファイルの値を選択できるようになります。

ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加

カスタム プロパティをマシン カスタム プロパティとして追加すると、サービス カタログ ユーザーは、アイテムを申請するときに、値を選択または構成できるようになります。プロパティは、個々に追加することも、グループとして追加することもできます。

このワークフローでは、カスタム プロパティを追加し、そのカスタム プロパティがブループリントで正常に機能することを確認します。カスタム プロパティは、ビジネス グループや承認ポリシーなどのコンポーネントにも追加できます。

開始する前に

- 必要なプロパティ定義が作成されていることを確認します。[\[カスタム プロパティ定義の作成 \(P. 89\)\]](#) を参照してください。
- プロパティ グループを追加する場合は、関連するプロパティ定義がプロパティ グループに追加されていることを確認します。[\[プロパティ グループの作成 \(P. 106\)\]](#) を参照してください。プロパティ定義の表示機能をテストするには、プロパティをグループに追加するときに [申請に表示] を選択する必要があります。
- vRealize Orchestrator アクションをカスタム プロパティとして追加する場合は、構成の詳細を調べて、そのカスタム プロパティが正しい場所に追加されたことを確認します。[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成 \(P. 100\)\]](#) を参照してください。
- カスタム プロパティの追加先のブループリントが作成されていることを確認します。『vRealize Automation の構成』を参照してください。
- インフラストラクチャ アーキテクトとして vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

- 1 [設計] - [ブループリント] を選択します。
- 2 カスタム プロパティの追加先のブループリントを選択し、[編集] をクリックします。
- 3 ターゲットのマシンのコンポーネントをクリックします。
仮想マシンの構成オプションがキャンパスに表示されます。

- 4 [プロパティ] タブをクリックした後、[カスタム プロパティ] タブまたは [プロパティ グループ] タブをクリックします。
 - カスタム プロパティを追加するには、[新規] をクリックし、ドロップダウン メニューでプロパティ 定義を選択します。

オプション	説明
Name	選択したカスタム プロパティ 定義の名前。
値	(オプション) デフォルト値を入力します。
暗号化済み	vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティを追加するときは、値を暗号化しないでください。
オーバーライド可能	このオプションを選択すると、申請中のユーザーが申請フォームの値を選択できます。
申請に表示	このオプションを選択すると、申請中のユーザーがプロパティを確認して、申請フォームの値を選択できます。

- プロパティ グループを追加するには、[追加] をクリックしてグループを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。
 カスタム プロパティがブループリントに追加されます。
 - 6 [終了] をクリックします。
 - 7 ブループリントを公開します。

ブループリントには、カスタム プロパティが含まれます。

次に進む前に

申請フォームのカスタム プロパティをテストします。[「カタログ申請フォームのカスタム プロパティの確認 \(P. 99\)」](#)を参照してください。

ネットワーク カスタム プロパティとしてのカスタム プロパティの追加

カスタム プロパティをネットワーク カスタム プロパティとして追加すると、サービス カタログ ユーザーは、アイテムを申請するときに、必要なネットワーク プロファイルの値を選択できるようになります。

開始する前に

- 必要なカスタム プロパティ 定義があることを確認します。[「vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ 定義の作成 \(P. 92\)」](#)を参照してください。
- vRealize Orchestrator アクションをカスタム プロパティとして追加する場合は、構成の詳細を調べて、そのカスタム プロパティが正しい場所に追加されたことを確認します。[「vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ 定義の詳細構成 \(P. 100\)」](#)を参照してください。
- カスタム プロパティの追加先のブループリントが作成されていることを確認します。[「vRealize Automation の構成」](#)を参照してください。
- インフラストラクチャ アーキテクトとして vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

- 1 [設計] - [ブループリント] を選択します。
- 2 ネットワーク カスタム プロパティの追加先のブループリントを選択し、[編集] をクリックします。
- 3 ターゲットの仮想マシンのコンポーネントをクリックします。
 仮想マシンの構成オプションがキャンバスに表示されます。
- 4 [ネットワーク] タブをクリックします。
- 5 [新規] をクリックします。

- 6 [ネットワーク] ドロップダウン メニューでネットワーク プロファイルを選択し、[OK] をクリックします。
- 7 新しい行で [カスタム プロパティの編集] をクリックします。
- 8 ネットワーク カスタム プロパティを選択し、オプションを構成します。

オプション	説明
名前	プロパティ名は変更できません。
値	(オプション) デフォルト値を入力します。
暗号化済み	vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティを追加するときは、値を暗号化しないでください。
オーバーライド可能	このオプションを選択すると、申請中のユーザーが申請フォームの値を選択できます。
申請に表示	このオプションを選択すると、申請中のユーザーがプロパティを確認して、申請フォームの値を選択できます。

- 9 [OK] をクリックします。
ネットワーク カスタム プロパティがブループリントに追加されます。
- 10 [終了] をクリックします。
- 11 ブループリントを公開します。

ブループリントには、カスタム プロパティが含まれます。

次に進む前に

申請フォームのカスタム プロパティをテストします。「[カタログ申請フォームのカスタム プロパティの確認 \(P. 99\)](#)」を参照してください。

カタログ申請フォームのカスタム プロパティの確認

vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティ定義の作成者として、カスタム プロパティをテストし、正しい値が申請フォームに表示されることを確認します。

開始する前に

- カスタム プロパティをブループリントの適切な場所に追加します。「[ブループリントへのカスタム プロパティの追加 \(P. 97\)](#)」を参照してください。
- ブループリント内のカスタム プロパティをテストできるように、ブループリントが自分に対して資格付与されていることを確認します。『vRealize Automation の構成』を参照してください。
- テスト ブループリントにアクセスできるユーザーとして vRealize Automation にログインします。

手順

- 1 [カタログ] を選択します。
- 2 テスト ブループリントを選択し、[申請] をクリックします。
- 3 申請フォームで、カスタム プロパティを追加したマシンをクリックします。
- 4 カスタム プロパティを見つけてドロップダウン矢印をクリックします。

vRealize Orchestrator アクションが実行され、表示するように構成されている値が取得されます。予期される値が表示されることを確認します。

次に進む前に

必要に応じてカスタム プロパティを本番のブループリントに追加します。

vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成

外部ファイルまたは vRealize Automation 構成情報からキーと値のペアを取得するには、vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティ定義を作成します。カスタム プロパティがカタログ申請フォームに表示されるように、カスタム プロパティをブループリントに追加します。

アイテムを申請するサービス カタログ ユーザーは、展開に含める値を選択できます。ユーザーがドロップダウン メニューをクリックして値を選択すると、vRealize Orchestrator アクションが実行され、ユーザーが選択したメニューに表示されるデータが取得されます。

各 vRealize Orchestrator アクションのプロパティ定義の構成ワークフローは似ていますが、詳細の一部が異なります。たとえば、前提条件および制限に違いがあり、カスタム プロパティをブループリントに適用した場合、異なる可能性があります。

- **ネットワークのカスタム プロパティ定義** (P. 100)

申請フォームでネットワークをユーザーに選択させる場合、vRealize Automation データベースからネットワーク名を取得するカスタム プロパティを追加します。ネットワーク セレクタのカスタム プロパティは、vRealize Orchestrator アクションを使用して値を取得します。
- **予約ポリシーのカスタム プロパティ定義** (P. 101)

申請ユーザーにより申請フォームで予約ポリシー名が選択された場合、申請ユーザーに適用できる予約ポリシー名を取得するカスタム プロパティ定義を追加します。予約ポリシー セレクタのカスタム プロパティ定義は、vRealize Orchestrator アクションを使用して値を取得します。
- **PowerShell スクリプトのカスタム プロパティ定義** (P. 102)

スクリプトを使用してデータを取得し、申請フォームのカスタム プロパティに取り込む場合、PowerShell スクリプトを実行するカスタム プロパティを追加します。PowerShell スクリプトのカスタム プロパティは vRealize Orchestrator アクションを使用してスクリプトを実行し、値を取得します。
- **データベース クエリのカスタム プロパティ定義** (P. 103)

データベースから値を取得して申請フォームのカスタム プロパティに取り込む場合、そのデータベースを照会するカスタム プロパティを追加します。データベース カスタム プロパティは vRealize Orchestrator アクションを使用してクエリを実行し、値を取得します。
- **カスタム アクションのカスタム プロパティ定義** (P. 104)

取得した値を申請フォームでユーザーに選択させる場合、vRealize Orchestrator のカスタム アクションを使用してソースからデータを取得するカスタム プロパティを追加します。

ネットワークのカスタム プロパティ定義

申請フォームでネットワークをユーザーに選択させる場合、vRealize Automation データベースからネットワーク名を取得するカスタム プロパティを追加します。ネットワーク セレクタのカスタム プロパティは、vRealize Orchestrator アクションを使用して値を取得します。

制限事項

ネットワーク セレクタのカスタム プロパティを使用する場合は次の制限を考慮します。

- カスタム プロパティの名前は **VirtualMachine.Network0.Name** にする必要があります。この名前は必須です。ネットワーク セレクタ用の複数のプロパティ定義を作成することはできません。
- このアクションは、ターゲット vCenter Server インスタンスにネットワーク名が適用されるかどうかを検証せずに、申請ユーザーのすべてのネットワーク名を取得します。サービス カタログ ユーザーは、選択したターゲットに適用できないネットワークを選択する場合があります。誤ったネットワークが選択された場合、カタログ申請は失敗します。

- このアクションは、申請ユーザーのネットワーク名のみを取得します。他のユーザーの代わりに申請を送信しても、自分のネットワークとして取得されます。たとえば、ネットワーク A とネットワーク C がビジネス グループ 1 に関連付けられている場合、ビジネス グループ 1 ユーザーにはネットワーク B ではなくネットワーク A と C のみが表示されます。

前提条件

外部の vRealize Orchestrator サーバを使用している場合は、正しく設定されていることを確認してください。『vRealize Automation の構成』を参照してください。

カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

表 4-3. ネットワークのカスタム プロパティの設定値

オプション	値
名前	<code>VirtualMachine.Network0.Name</code> を使用する必要があります。 <code>VirtualMachine.Network0.Name</code> の詳細については、 [Custom Properties V Table (P. 66)] を参照してください。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	com.vmware.vra.networks
スクリプト アクション	getApplicableNetworks このスクリプト アクションはスクリプトの一例です。環境に固有のアクションを作成できます。
入力パラメータ	パラメータは不要です。

ブループリントの設定

ブループリントの [ネットワーク] タブでカスタム プロパティを追加します。[\[ネットワーク カスタム プロパティとしてのカスタム プロパティの追加 \(P. 98\)\]](#) を参照してください。

予約ポリシーのカスタム プロパティ定義

申請ユーザーにより申請フォームで予約ポリシー名が選択された場合、申請ユーザーに適用できる予約ポリシー名を取得するカスタム プロパティ定義を追加します。予約ポリシー セレクタのカスタム プロパティ定義は、vRealize Orchestrator アクションを使用して値を取得します。

制限事項

予約ポリシー セレクタのカスタム プロパティを使用する場合は次の制限を考慮します。

- カスタム プロパティの名前は ReservationPolicyID にする必要があります。この名前は必須です。予約ポリシー セレクタに複数のプロパティ定義を作成することはできません。
- このアクションは、ターゲット エンドポイント (vCenter Server インスタンスや他のプラットフォームなど) に予約ポリシーが適用されるかどうかを検証せずに、申請ユーザーに適用できるすべての予約ポリシーを取得します。サービス カタログ ユーザーは、選択したブループリントのターゲット システムに適用できない予約を選択する場合があります。ユーザーが誤った予約を選択した場合、カタログ申請は失敗します。
- このアクションは、申請ユーザーの予約ポリシーのみを取得します。別のユーザーの代わりに申請を送信しても、自分の予約ポリシーとして取得されます。たとえば、予約 1 と予約 3 がビジネス グループ 1 に関連付けられている場合、ビジネス グループ 1 ユーザーには予約 2 ではなく予約 1 と 3 のみが表示されます。

前提条件

外部の vRealize Orchestrator サーバを使用している場合は、正しく設定されていることを確認してください。『vRealize Automation の構成』を参照してください。

カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

表 4-4. 予約ポリシー カスタム プロパティの設定値

オプション	値
名前	ReservationPolicyID を使用する必要があります。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	com.vmware.vra.reservations
スクリプト アクション	getApplicableReservationPolicies このスクリプト アクションはスクリプトの一例です。環境に固有のアクションを作成できます。
入力パラメータ	パラメータは不要です。

ブループリントの設定

[ブループリントのプロパティ] タブにカスタム プロパティを追加するには、[「ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)」](#) を参照してください。

PowerShell スクリプトのカスタム プロパティ定義

スクリプトを使用してデータを取得し、申請フォームのカスタム プロパティに取り込む場合、PowerShell スクリプトを実行するカスタム プロパティを追加します。PowerShell スクリプトのカスタム プロパティは vRealize Orchestrator アクションを使用してスクリプトを実行し、値を取得します。

たとえば、クラウド管理者として、vRealize Automation に登録されている Active Directory からユーザー ID を取得する PowerShell スクリプトを使用します。このスクリプトの目的は、Active Directory の実際の値が「JSmith01」の場合に「John Smith」を取得して表示することです。

PowerShell スクリプト アクションを使用する利点には、スクリプトの一元管理があります。中央サーバにスクリプトを保存してターゲットの仮想マシンで実行することも、vRealize Orchestrator に保存してターゲットの仮想マシンで実行することもできます。一元管理によりメンテナンス時間が短縮されます。バックアップとリストアが構成済みで vRealize Orchestrator にスクリプトを保存すると、システム障害が発生した場合にスクリプトを確実にリストアできます。

制限事項

なし。

前提条件

キー ペア値を返す PowerShell スクリプトが動作することを確認します。このスクリプトはアクセスできるサーバで使用できるか、vRealize Orchestrator にアップロードされている必要があります。

カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

表 4-5. PowerShell スクリプトのカスタム プロパティの設定値

オプション	値
名前	任意の文字列を使用できます。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	com.vmware.vra.powershell
スクリプト アクション	PowerShell スクリプトが配置されている場所に基づいてアクションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ PowerShell スクリプトが中央サーバ上にある場合、executeExternalPowerShellScriptOnHostByName を使用します。 ■ PowerShell スクリプトが vRealize Orchestrator にアップロードされている場合、executePowerShellScriptFromResourceOnHostByName を使用します。 これらのスクリプト アクションはスクリプトの例です。環境に固有のアクションを作成できます。
入力パラメータ	選択したアクションに基づいて入力パラメータを設定します。 パラメータの定義 <ul style="list-style-type: none"> ■ executeExternalPowerShellScriptOnHostByName を使用する場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ [hostName]。スクリプトが配置されている中央サーバの名前。 ■ [externalPowerShellScript]。ホスト上の PowerShell ファイルのパス。 ■ [Arguments]。スクリプトに渡すパラメータ。引数はカンマ区切りにします。 例：Argument1,Argument2 ■ executePowerShellScriptFromResourceOnHostByName を使用する場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ vRealize Orchestrator。ホストとして使用している vRealize Orchestrator インスタンスの名前。 ■ [scriptResourcePath]。ホスト上の PowerShell ファイルのパス。 ■ [scriptResourceName]。vRealize Orchestrator にアップロードされたリソースとしての PowerShell ファイルのパス。

ブループリントの設定

[ブループリントのプロパティ] タブにカスタム プロパティを追加するには、「[ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

データベース クエリのカスタム プロパティ定義

データベースから値を取得して申請フォームのカスタム プロパティに取り込む場合、そのデータベースを照会するカスタム プロパティを追加します。データベース カスタム プロパティは vRealize Orchestrator アクションを使用してクエリを実行し、値を取得します。

このアクションは次のデータベースでサポートされます。

- Microsoft SQL Server
- MySQL
- Oracle
- PostgreSQL

制限事項

取得されたすべての値は文字列に変換されます。

前提条件

vRealize Orchestrator SQL プラグインがインストールされ、ターゲットデータベースに接続するように構成されていることを確認します。

カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

表 4-6. データベース クエリのカスタム プロパティの設定値

オプション	値
名前	任意の文字列を使用できます。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	com.vmware.vra.sql
スクリプト アクション	executeSQLSelectOnDatabase このスクリプト アクションはスクリプトの一例です。環境に固有のアクションを作成できます。
入力パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> ■ [databaseName]。vRealize Orchestrator が接続されるデータベースの名前。 ■ [sqlSelectQuery]。値を取得するためにデータベースで実行される SQL の選択クエリ。select * <table name> など。 ■ [keyColumnName]。キー ペア値のキーであるデータベース カラムの名前。 ■ [valueColumnName]。値を取得するデータベース カラムの名前。

ブループリントの設定

[ブループリントのプロパティ] タブにカスタム プロパティを追加するには、「[ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

カスタム アクションのカスタム プロパティ定義

取得した値を申請フォームでユーザーに選択させる場合、vRealize Orchestrator のカスタム アクションを使用してソースからデータを取得するカスタム プロパティを追加します。

制限事項

制限はカスタム アクションによって異なります。

前提条件

動作する vRealize Orchestrator アクションがあることを確認します。vRealize Orchestrator スクリプト アクションの開発ワークフロー、作成および使用方法については、『VMware vCenter Orchestrator における開発』を参照してください。

アクション スクリプトは入力パラメータ値を受け入れる必要があります。この値はキーと値のペアとして設定できます。キーと値のペアを使用して、わかりにくい ID に対してユーザーが判別可能な名前を示すことができます。

カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

表 4-7. カスタム アクションのカスタム プロパティの設定値

オプション	値
名前	任意の文字列を使用できます。
データ タイプ	10 進数、整数、または文字列

表 4-7. カスタム アクションのカスタム プロパティの設定値 (続き)

オプション	値
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	カスタム アクションの場所。
スクリプト アクション	カスタム アクションの名前。
入力パラメータ	カスタム アクションによって異なります。

ブループリントの設定

通常は、ブループリントの [プロパティ] タブでカスタム プロパティを追加します。カスタム プロパティを [プロパティ] タブに追加するかどうかは、アクションによって異なります。[「ブループリントへのカスタム プロパティの追加 \(P. 97\)」](#) を参照してください。

プロパティ グループの使用

プロパティ グループを作成し、プロパティを単一のユニットにまとめることができます。

プロパティ グループは、論理的かつ再利用可能なプロパティのグループです。プロパティ グループには、自分で作成するプロパティ定義または提供されているカスタム プロパティを含めることができます。プロパティ グループは、プロパティをブループリントまたは他の使用可能な vRealize Automation 要素に追加するプロセスを簡素化します。プロパティを論理的にグループ化することで、個別に追加する場合に比べ、効率的にプロパティを追加できるようになります。

一般的に、プロパティ グループには、一緒に使用されるプロパティが含まれます。たとえば、WIM ベースのプロビジョニングで広く使用されるプロパティをまとめて、WimImagingProperties という名前のプロパティ グループを作成できます。

- Image.ISO.Location
- Image.ISO.Name
- Image.Network.Password
- Image.Network.User
- Image.WIM.Index
- Image.WIM.Name
- Image.WIM.Path

また、次のプロパティを含む、vCloud Air または vCloud Director マシン プロビジョニングのプロパティ グループを作成することもできます。

- VirtualMachine.Network0.Name
- VCloud.Template.MakeIdenticalCopy
- VMware.SCSI.Type
- Sysprep.Identification.DomainAdmin
- Sysprep.Identification.DomainAdminPassword
- Sysprep.Identification.JoinDomain

`vra content list --type property-definition` vRealize CloudClient コマンドを使用すると、現在の vRealize Automation インスタンス テナントのすべてのプロパティ定義を一覧表示できます。また、`vra content list --type property-group` vRealize CloudClient コマンドを使用すると、すべてのプロパティ グループを一覧表示できます。プロパティ定義とプロパティ グループの一部またはすべてをパッケージに追加し、そのパッケージを zip ファイル形式でエクスポートできます。また、エクスポートしたパッケージは、別の vRealize Automation インスタンス テナントにインポートできます。vRealize CloudClient とその使用方法の詳細については、VMware Developer Center (<https://developercenter.vmware.com/tool/cloudclient>) を参照してください。

プロパティ グループの作成

特定のカスタム プロパティをプロパティ グループに編成し、複数のカスタム プロパティをより簡単にブループリントに追加できるようにします。

開始する前に

テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

- 1 [管理] - [プロパティ ディクショナリ] - [プロパティ グループ] を選択します。
- 2 [新規] (+) をクリックします。
- 3 新しいプロパティ グループ名と ID を入力します。
[名前] の値を最初に入力すると、[ID] テキスト ボックスに同じ値が取り込まれます。
- 4 [可視性] セクションでは、[すべてのテナント] または [このテナント] を選択してプロパティを使用できる場所を判断します。

テナント管理者の権限のみでログインする場合、[このテナント] のみを使用できます。ファブリック管理者の権限のみでログインする場合、[すべてのテナント] のみを使用できます。

アイテム作成後に、[すべてのテナント] または [このテナント] の設定を変更することはできません。
- 5 (オプション) プロパティ グループの説明 (**My_CloningProperties_vSphere**) を入力します。
- 6 [プロパティ] ボックスを使用してグループにプロパティを追加します。
 - a [新規] (+) をクリックします。
 - b プロパティ名を入力します。
たとえば、**VirtualMachine.Storage.ReserveMemory** と入力します。
 - c (オプション) プロパティ値を入力します。
たとえば、**True** と入力します。
 - d (オプション) [暗号化済み] チェック ボックスを選択して、そのプロパティ値に暗号化が必要なことを指定します。たとえば、値がパスワードやその他のセキュア エントリとなる場合、暗号化されたオプションを使用して値の文字を非表示にします。
 - e (オプション) [申請に表示] チェック ボックスを選択して、マシン プロビジョニング申請時に申請フォームにプロパティが表示されるようにします。
 - f [OK] をクリックして、グループにプロパティを追加します。
- 7 追加のプロパティをグループに追加します。
- 8 [保存] をクリックします。

インデックス

A

Amazon、使用可能なカスタム プロパティ 53

C

custom properties, v properties 66

D

DataCenterLocations.xml、specifying datacenter locations 66

H

HP Server Automation、必須のカスタム プロパティ 48

L

Linux キックスタート プロビジョニング、カスタム プロパティ 27

O

Openstack、エンドポイント用のカスタム プロパティ 17

P

PowerShell スクリプト、プロパティ定義 102
PXE プロビジョニング、カスタム プロパティ 41

S

SCCM のプロビジョニング、カスタム プロパティ 28

V

vCloud Air のブループリント、カスタム プロパティの追加 32

vCloud Director のブループリント、カスタム プロパティの追加 32

VirtualMachine.Network、ネットワーク デバイスの指定 35

vRealize Orchestrator アクション

PowerShell スクリプトのプロパティ定義 102

カスタム アクションのプロパティ定義 104

データベース クエリのプロパティ定義 103

ネットワークのプロパティ定義 100

プロパティ定義 92

予約ポリシーのプロパティ定義 101

vRealize Orchestrator のカスタム アクション、プロパティ定義 104

W

WIM のプロビジョニング、カスタム プロパティ 29

か

カスタム 10

カスタム プロパティ

FlexClone ブループリント用 24

HP Server Automation の統合に必要 48

Linux キックスタート プロビジョニング 27

Openstack エンドポイント 17

o プロパティ 60

PowerShell スクリプト 102

PXE プロビジョニング 41

SCCM のプロビジョニング 28

vCloud Air および vCloud Director のブループリント 32

WIM のプロビジョニング 29

新しいプロパティの定義 87

カスタム プロパティのタイプ 12

関連ガイド 5

機能別に表示 13

基本ワークフロー ブループリント用 26

クローン ブループリント用 18, 43

使用理由 9

申請フォームのテスト 99

正規表現 91

データベース クエリ 103

名前別に表示 51

ネットワーク 35, 100

バインド 93

必須およびオプション 47

ブループリント 15

ブループリントでのテスト 97, 98

プロパティ グループの作成 106

プロパティ定義 88

プロパティ ディクショナリの使用 87

プロパティの指定 9

プロビジョニングの問題のデバッグ 16

マシン プロビジョニング 10

優先順位 10

予約ポリシー 101

リンク クローン ブループリント用 21

カスタム プロパティ、a プロパティ 53

カスタム プロパティ、b プロパティ 54

カスタム プロパティ、c プロパティ 54

カスタム プロパティ、l プロパティ 59

カスタム プロパティ、p プロパティ 61

カスタム プロパティ、s プロパティ 62
カスタム プロパティ、アンダースコア (_) プロパティ 52
カスタム プロパティ、e プロパティ 56
カスタム プロパティ、h で始まるプロパティ 58
カスタム プロパティ、i プロパティ 58
カスタム プロパティ、m プロパティ 60
カスタム プロパティ、r プロパティ 62
カスタム プロパティ、x プロパティ 86

こ

更新情報 7

し

申請フォーム、カスタム プロパティのテスト 99

せ

正規表現、プロパティ定義 91

つ

追加、プロパティ定義 88,89

て

データベース クエリ、プロパティ定義 103

ね

ネットワーク、プロパティ定義 100

は

バインド

プロパティ 93

プロパティ定義 93

ふ

ブループリント

カスタム プロパティ 15,47

カスタム プロパティの追加 97,98

カスタム プロパティのテスト 97,98

ネットワーク カスタム プロパティの追加 98

プロパティ

暗号化済み 106

オーバーライド可能 106

申請に表示 106

プロパティ グループ

カスタム プロパティ グループの使用 105

作成 106

プロパティ定義

PowerShell スクリプト 102

vRealize Orchestrator アクション 92

vRealize Orchestrator のカスタム アクション 104

正規表現 91

追加 88,89

データベース クエリ 103

ネットワーク 100

バインド 93

ブループリントでのテスト 97,98

予約ポリシー 101

プロパティ ディクショナリ、プロパティ定義の作成 89

ま

マシン プロビジョニング、カスタム プロパティ 10

よ

予約ポリシー、プロパティ定義 101